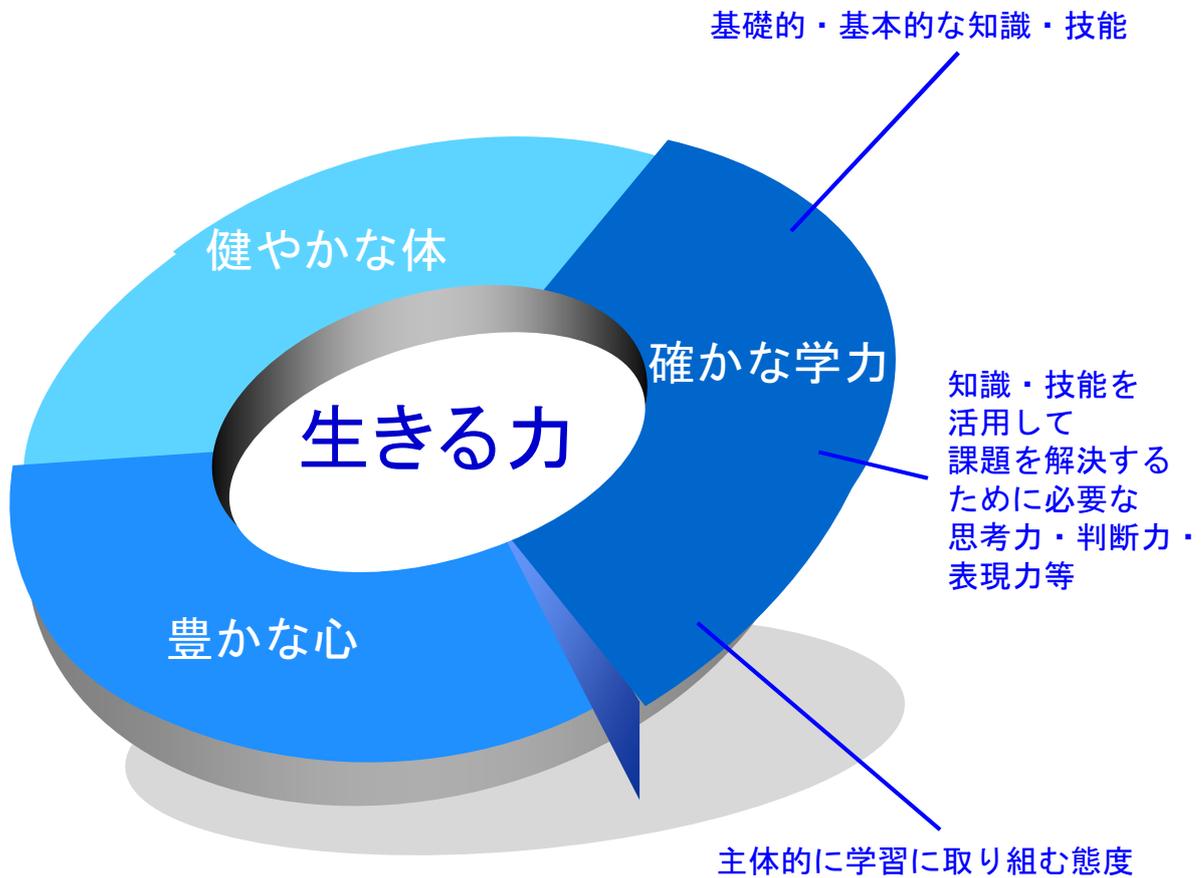


子どもたちに「生きる力」を育む

学 習 評 価

小 学 校 編

授 業 実 践 事 例 集



平成24年 2 月
岡山県総合教育センター

この『学習評価 授業実践事例集』は、岡山県総合教育センターの所員研究として平成22年度、23年度の2年間にわたって取り組んだ「新学習指導要領の趣旨を踏まえた新しい学習評価の在り方に関する研究」の成果をまとめたものです。本年度は小学校編を作成し、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における授業実践事例を基に学習評価の在り方について解説しています。

この『学習評価 授業実践事例集（小学校編）』は、当センターのWebページからダウンロードすることができます。各学校における学習評価の妥当性、信頼性等の向上及び授業改善の一助として御活用いただければ幸いです。

【『学習評価 授業実践事例集（小学校編）』のURL】

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h23/11-01.pdf>

目 次

【小学校編】

国語	1
社会	7
算数	13
理科	19
生活	25
音楽	31
図画工作	37
家庭	43
体育	49
外国語活動	55
総合的な学習の時間	61
特別活動	67
〈参考資料〉	
PDCAサイクルを取り入れた校内研修	73



1

学習評価のポイント

国語科では、五つの評価の観点をどの単元にも位置付け、評価しなければならないということはありません。単元を構想する際は、その単元で付けたい力はどの領域のどの能力なのかを、学習指導要領に示されている指導事項を基に明確にし、その指導事項を指導するためにふさわしい言語活動を選定し、評価規準を設定することが大切です。

2

学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第5学年及び第6学年の「C読むこと」の指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」と指導事項オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」とを取り上げて指導することにしました。この二つの指導事項を指導するためにふさわしい言語活動として言語活動例エ「本を読んで推薦の文章を書くこと」を選び、「お薦めの本のアンソロジーを作り、読書集会で紹介する」という単元を構想しました。学習評価については、特に「国語への関心・意欲・態度」と「読む能力」の二つの観点をとり上げ、具体的に示します。

1 単元名 お薦めの本のアンソロジーを作り、読書集会で紹介しよう（第5学年）

2 目標

- ・推薦文の特徴を理解し、自分が推薦しようと考えた理由を明らかにして本を読み返したり、本の魅力を伝えたりしようとする。〔国語への関心・意欲・態度〕
- ・感動や共感などを生み出す優れた叙述に着目しながら読み、推薦するために自分の考えをまとめることができる。〔読む能力〕
- ・お薦めの本を紹介し合い、感じたことや考えたことの共通点や相違点を捉え、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔読む能力〕
- ・文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解することができる。〔言語についての知識・理解・技能〕

3 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・推薦文の特徴を理解し、自分が推薦しようと考えた理由を明らかにして本を読み返したり、本の魅力を伝えたりしようとしている。	・感動や共感などを生み出す優れた叙述に着目しながら読み、推薦するために自分の考えをまとめている。(エ) ・お薦めの本を紹介し合い、感じたことや考えたことの共通点や相違点を捉え、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	・文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。 (イ(キ))

Point1

「国語への関心・意欲・態度」の評価の考え方

「国語への関心・意欲・態度」の評価をより効果的に行うためには、児童が学習内容に関心を持ち、進んで課題に取り組むことができるように指導する必要があります。本単元の「4年生が読みたくなるような本の推薦文を書く」というように、相手意識・目的意識を明確にして指導し、評価することが大切です。

Point2

言語活動を通した指導と評価の考え方

各単元の評価規準を設定する際には、言語活動そのものを評価するのではなく、指導事項に基づいて指導した内容について評価することに留意する必要があります。本単元では、推薦文を書く能力を評価するのではなく、お薦めの本を読書集会で紹介するという目的に応じた読む能力が身に付くよう指導し、評価することが大切です。

4 指導と評価の計画（全11時間）

次	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 「お薦めの本のアンソロジーを作り、読書集会で4年生に紹介する」という課題を知り、学習への見通しをもつ。 教師のお薦めの本の紹介スピーチを聞き、推薦文の特徴を知る。 4年生に推薦したい本を^{むくはとじゅう}椋鳩十の作品の中から選んで読む。（並行読書） 	<p>〔関〕 教師のお薦めの本の紹介スピーチを聞き、推薦文の特徴を理解し、4年生に本を紹介したいという思いを膨らませ、学習への見通しを立てようとしている。（行動の様子、発言の内容）</p> <div data-bbox="837 940 1029 996" data-label="Section-Header"><h2>Point1</h2></div> <div data-bbox="1053 940 1436 1019" data-label="Section-Header"><h3>「国語への関心・意欲・態度」の評価の考え方</h3></div> <div data-bbox="821 1019 1444 1131" data-label="Text"> <p>4年生にお薦めの本の推薦文を書くために思いを膨らませ、様々に発想する姿を児童相互の対話の様子や内容に基づいて評価します。</p> </div>
	2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 2種類の文章を比較して読み、本の魅力を伝えるための推薦文の書き方のコツを見付ける。 	<p>〔関〕 4年生が読みたくなるような推薦文の書き方の特徴を進んで見付けようとしている。（行動の様子、発言の内容、ワークシートの記述）</p>
二	3 6	<ul style="list-style-type: none"> 優れた叙述に着目し、推薦したい内容とその理由を考えながら「大造じいさんとガン」を読む。 推薦文に盛り込む内容ごとに、自分の考えをまとめ、推薦文を書く。 推薦文を交流し、「大造じいさんとガン」の魅力について話し合う。 	<p>〔関〕 自分が推薦したい内容とその理由を明らかにして教材文を読み返している。（行動の様子、ワークシートの記述）</p> <p>〔読エ〕 感動や共感などを生み出す優れた叙述に着目しながら読み、推薦するために自分の考えをまとめている。（ワークシートの記述、推薦文の内容）</p> <div data-bbox="670 1624 861 1680" data-label="Section-Header"><h2>Point2</h2></div> <div data-bbox="893 1624 1436 1668" data-label="Section-Header"><h3>言語活動を通した指導と評価の考え方</h3></div> <div data-bbox="646 1680 1444 1803" data-label="Text"> <p>優れた叙述に着目して読み、お薦めの場面や人物についての自分の考えをまとめているかどうかをワークシートの記述や推薦文の内容に基づいて評価します。</p> </div>
	7 10	<ul style="list-style-type: none"> 4年生に推薦したい本を読み返し、盛り込む内容ごとに、自分の考えをまとめ、推薦文を書く。 推薦文を読み合い、グループで感想を交流する。 	<p>〔読エ〕 感動や共感などを生み出す優れた叙述に着目しながら読み、それを推薦するために、自分の考えをまとめている。（発言の内容、ワークシートの記述）</p> <p>〔言〕 文章にはいろいろな構成があり、書く目的</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 交流を基に推薦文を推敲し、アンソロジーを完成させる。 	<p>に応じた構成がなされていることを理解している。(アンソロジーの内容)</p> <p>〔読オ〕お薦めの本を紹介し合い、感じたことや考えたことの共通点や相違点を捉え、自分の考えを広げたり深めたりしている。(発言の内容、ノートの記述)</p>
三	11	<ul style="list-style-type: none"> アンソロジー(図1)を用いて、読書集会で4年生にお薦めの本の紹介をする。 推薦の内容について感想を交流し、これまでの学習を振り返る。 	<p>〔読オ〕お薦めの本を紹介し合い、感じたことや考えたことの共通点や相違点を捉え、自分の考えを広げたり深めたりしている。(発言の内容、行動の様子、ノートの記述)</p>

5 本時案(第一次 第2時)

(1) 本時の目標

4年生が、その本を読みたくなるような推薦文の書き方の特徴を進んで見付けようとする。

(2) 展開

学 習 活 動	○教師の支援, ★評価規準・評価の観点・方法
1 本時のめあてをつかむ。	○「4年生が読みたくなるような本の推薦文の書き方のこつを見付けよう」と投げかけ、学習への見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 本が読みたくなるような推薦文の書き方のこつを見付けよう。 </div>	
2 A・B二つの文章を比べて読み、それぞれの表現の特徴を見付ける。 (予想される児童の反応) <ul style="list-style-type: none"> Aは、相手を引き付けて、期待させるような書き出しになっている。 Aは、内容のすばらしさを伝える表現をたくさん使っている。 Bは、感想文の書き方に似ている。 Bは、どんな内容の話かを中心に書いている。 	○モデルとなる文章(教師が自作したもの)を2種類提示し、それらを比べて読ませることで、それぞれの表現の特徴を見付けることができるようにする。 ○見付けた特徴をその都度付箋紙に書き出させることで、情報を取り出すことへの抵抗感を軽減する。 ○付箋紙を基に、それぞれの気づきを小グループで交流させる。 〈活動の流れ〉 ①付箋紙を分類し、小見出しを付ける。 ②分類したものを相互に関係付ける。 ③推薦文の書き方のこつをまとめる。
3 見付けた表現の特徴を基に、推薦文の書き方のこつを話し合う。 (予想される児童の反応) <ul style="list-style-type: none"> 一番知りたいところを隠して、話の結末を知りたくなるような書き方にするとよい。 お気に入りの場面や人物とその理由を説明するとよい。 	
4 見付けた推薦文の書き方のこつを基に、本の魅力を伝えるための文章の特徴について話し合う。	○意見を発表するときには、根拠を明らかにするよう助言する。 ○各グループの気づきのよいところを称揚しながら全体の場で共有し、推薦文に盛り込む必要のある内容を確認することができるようにする。

Point1 「国語への関心・意欲・態度」の評価の考え方

4年生が読みたくなる推薦文の書き方に興味をもち、特徴を進んで見付け、まとめている姿を行動の様子や発言の内容、ワークシートの記述に基づいて評価します。

5 本時のまとめをする。

○アンソロジーの形式(図2)を示した後に、自分のお薦めの本の推薦文に盛り込む内容を書き出させることで、紹介するときのイメージをもちやすくする。

★〔関〕4年生が読みたくなるような推薦文の書き方の特徴を進んで見付けようとしている。(行動の様子、発言の内容、ワークシートの記述)

○見付けた推薦文の書き方のコツを数名の児童に発表させ、本時のめあてを振り返らせる。



図1 児童が作成したアンソロジー

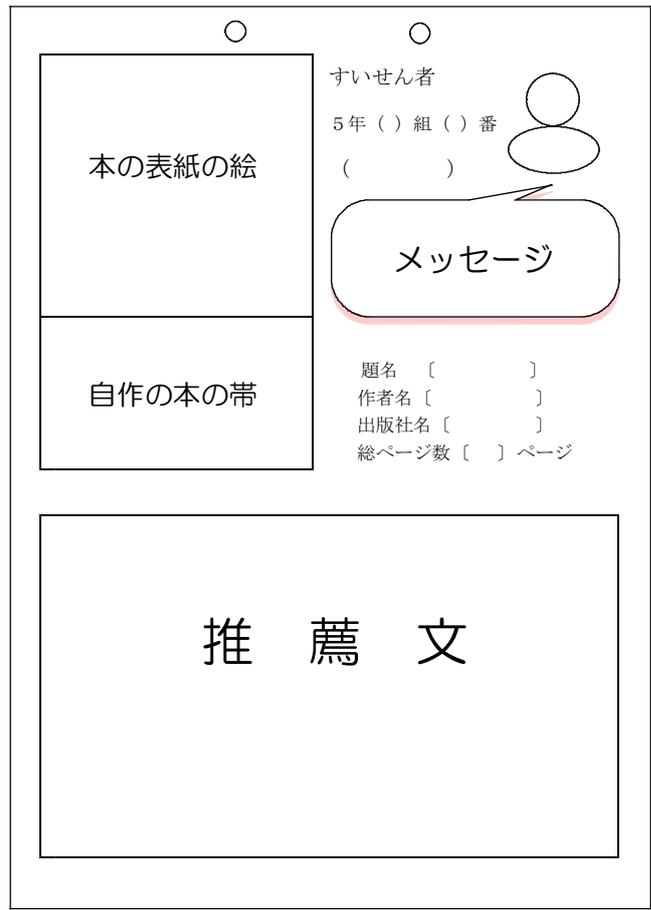
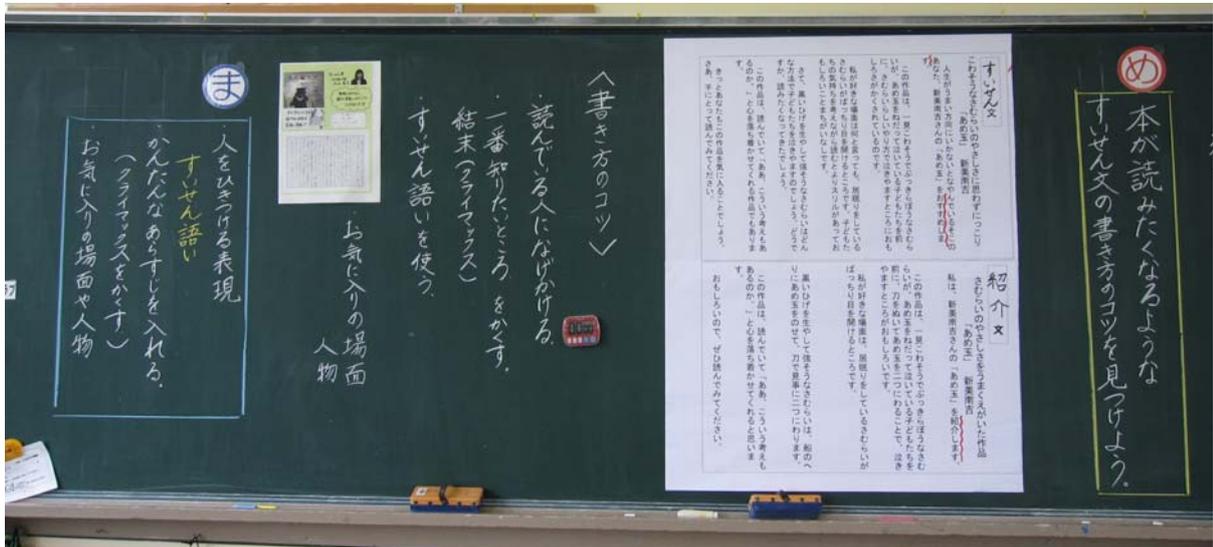


図2 アンソロジーの形式

(3) 板書の実例



6 指導と評価の実際（第二次 第4時）

第二次の第4時からは、「C読むこと」の指導事項エ・オに重点を置いて指導しました。ここでは、指導事項エに関する指導と評価を取り上げ、児童の状況とそれに対する教師の働きかけをまとめています。児童が自分のお気に入りの場面について、なぜその場面がお気に入りなのか、その理由をまとめ、それを基に推薦文の下書きを書いたワークシート（図3）の記述を基に評価を行いました。

図3 ワークシート

(1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した児童の様子

本実践事例で、指導事項エについての指導過程における評価規準は、次のとおりです。

〔読エ〕感動や共感などを生み出す優れた叙述に着目しながら読み、推薦するために自分の考えをまとめている。 (第二次 第4時)

優れた叙述に着目しながら読み、推薦するために、自分の考えをまとめることができているかどうか、例えば次のような児童の状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

《判断のポイント》

【Bの状況】（第二次 第4時）

- 感動や共感を生み出す優れた叙述を具体的に挙げながら、推薦する場面について、なぜその場面がお薦めなのか、その理由を明らかにして自分の考えをまとめている。

（例）

- ◆わたしのお気に入りの場面は、なんといっても残雪がハヤブサと戦ってぼろぼろになりながらも、残りの力をふりしぼってぐっと長い首を持ち上げて、じいさんを正面からにらみつけるところです。わけは、自分の身をすててまで最期まで戦いぬこうとしているところから、残雪の仲間を思う気持ちがひしひしと伝わってくるからです。ぜひ、読んでみてください。

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の様子

例えば次のような姿が見られた場合「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

《判断のポイント》

【Aの状況】（第二次 第4時）

- 感動や共感を生み出す優れた叙述を具体的に挙げながら、推薦する場面について、なぜその場面がお薦めなのか、その理由を明らかにするとともに、その場面の魅力を表現するためにふさわしい言葉を用いて自分の考えをまとめている。

（例）

- ◆わたしはこの作品の残雪がハヤブサとの戦いの後、第2のときが近づいたのを感じ、残りの力をふりしぼり、いかにも頭領らしいすがたで最期をむかえようとする場面が気に入りました。わけは、頭領らしく最期をむかえようとするのを想ぞうすると、せつなさがしみじみと伝わってくるからです。この作品には、いろいろな気持ちがつまっています。ぜひ、読んでみてください（図4）。

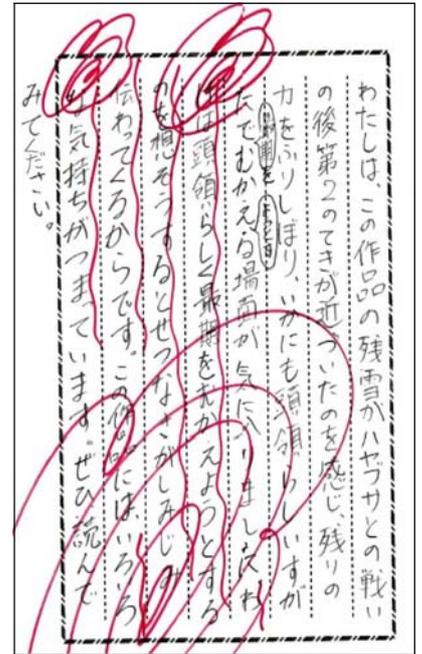


図4 ワークシートの記述

(3) 「努力を要する」状況（C）と判断される場合における支援

「努力を要する」状況（C）として次のようなものが見られることが予想されます。

- 自分が推薦したい場面は決まっているが、どこに着目して読めばよいか分からない。
- お薦めの場面や着目する表現は決まっているが、理由をどのように説明すればよいか分からない。

このような状況が見られる場合は、次のような具体的な支援を行うことが有効です。

《具体的な支援》

- 推薦したい場面の出来事を確認した上で、登場人物の行動や会話に赤線、場面の様子に青線を引かせ、手がかりとなる叙述を視覚化して示すなどの支援を行います。その後、そのときの登場人物の気持ちを想像させ、それに対する自分の考えを表現できるようにすることが大切です。
- 推薦語彙の一覧表（教師が自作したもの）を提示し、その中から、自分の気持ちに近い表現を幾つか選択させ、第一次で教師が示した推薦文の形式を参考にして、理由を説明させるなどの支援を行うことが大切です。

3

今後の学習評価に向けて

今回は、「読む能力」を育成するための指導と評価の実践事例を紹介しました。この実践事例のとおり、国語科は、五つの観点をどの単元にも位置付けて評価しなければならないということはありません。「国語への関心・意欲・態度」と「言語についての知識・理解・技能」の観点については、どの単元にも位置付け、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の観点については、年間の指導計画に基づき、内容を重点化して指導することが大切です。評価規準を設定する際には、当該単元で重点的に指導する領域と指導事項を確定し、取り上げる言語活動を選んだ上で、指導事項を踏まえた評価規準を設定することが重要です。



1

学習評価のポイント

社会科においては、これまでの「観察・資料活用の技能・表現」の観点から「観察・資料活用の技能」に改められ、「社会的な思考・判断」の観点に「表現」という文言が加えられました。

「観察・資料活用の技能」には、「表現」という文言はなくなりましたが、これまで「観察・資料活用の技能・表現」で評価してきた内容を引き続き評価します。「社会的な思考・判断・表現」の観点においては、言語活動を通して表現される、社会的な事象について思考したり判断したりしたことを評価していくということが大切です。社会科の言語活動では、資料を活用して調べて分かったことを比較・関連付け・総合しながら再構成したことを説明したり、自分の考えをお互いに伝え合ったりする活動などがあります。

2

学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第6学年「江戸の文化と新しい学問」の実践事例を基に、どのように言語活動を設定し、その活動からどのように「社会的な思考・判断・表現」について学習評価を行うのかについて示します。

1 単元名 江戸の文化と新しい学問（第6学年）

2 目標

- 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学^{らんがく}について関心を持ち、意欲的に調べている。
〔社会的な事象への関心・意欲・態度〕
- 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことを基に、町人の文化が栄え、新しい学問が起こったことについて考え、適切に表現することができる。
〔社会的な思考・判断・表現〕
- 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について具体的に調べ、江戸時代の文化や学問について必要な情報を集め、まとめることができる。
〔観察・資料活用の技能〕
- 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について理解することができる。
〔社会的な事象についての知識・理解〕

3 評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
①江戸時代の文化や学問に関心を持ち、意欲的に調べている。	①江戸時代の文化や学問について学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ②歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べたことを基に、町人文化が栄え新しい学問が起こったことや、その社会的背景を考え、適切な言葉で表現している。	①歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について具体的に調べ、江戸時代の文化や学問について必要な情報を集め、まとめている。	①歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について理解している。

4 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	思	技	知	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵や歌舞伎，国学や蘭学に関する資料を見て気付いたことを話し合う。 ・学習問題を確認して，予想をもち，学習計画を考える。 	○				<p>学習指導要領の記述を踏まえて，詳細になりすぎないように設定された評価規準に基づき，「おおむね満足できる」状況（B）の判断の目安を明確にすることで，実際の授業での評価場面では，妥当性を確保した効率的な評価を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の文化や学問について関心をもち，意欲的に発言している。 〔関①〕（発言の内容） ・文化や学問について，自分なりの予想をもち，学習計画を考え，表現している。 〔思①〕（ノートの記事，発言の内容）
		<p>江戸時代には，どのような文化が栄え，どのような学問が盛んになったのだろう。</p>					
		<p>評価計画には，◎と○の2種類を記しています。</p> <p>◎は，評価規準に照らして，全員の学習状況を見取り記録に残す評価です。これは単元の総括的な評価の資料となります。</p> <p>○は，評価規準に照らして，判断した結果を指導に生かす評価です。「おおむね満足できる」状況（B）であるかどうかを判断し，「努力を要する」状況（C）の児童に対して適切な支援を行うとともに，「十分満足できる」状況（A）と判断できる児童を把握し，必要に応じて記録に残して総括的な評価の参考資料とします。</p>			◎	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の文化や学問について，意欲的に調べている。 〔関①〕（行動の様子，発言の内容） ・それぞれの人物の業績を調べることを通して，歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学について必要な情報を集め，まとめている。 〔技①〕（ワークシートの記述） ○ 歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学について理解している。 〔知①〕（ワークシートの記述，発言の内容） 	
三	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の文化や学問についてそれぞれの人物の業績を比較して共通点を探ることで，その特色を考える。 ちかまつもんざえもん うたがわひろしげ ・近松門左衛門－歌川広重 もとおりのりなが すぎたげんばく いのう ・本居宣長－杉田玄白－伊能ただたか 忠敬 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの人物の業績について調べたことを基に，町人文化が栄えたことや新しい学問が起こったことについて考え，表現している。 〔思②〕（ワークシートの記述）

			<p>本單元では、「社会的な思考・判断・表現」の観点 は、「学習問題を確認し、予想をもち、学習計画を考 える」活動を設定した単元の導入と、調べたりまとめ たりして習得した学習内容を活用して、思考を深めて いく単元の後半に配置し、評価します。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 町人文化や学問が栄えた社会的背景について考える。 学習した内容をまとめる。 (確認テスト) 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代に町人文化や新しい学問が栄えた社会的背景について考え、表現している。 〔思②〕 (ノートの記述) 江戸時代の町人文化や新しい学問について理解している。 〔知①〕 (確認テスト)

Point1 情報を比較・関連付け・総合しながら再構成する場面を設定すること

「社会的な思考・判断・表現」の観点の趣旨には、「社会的な事象から学習問題を見いだして追究し、社会的な事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している」とあります。社会科の「思考力・判断力」の評価に当たっては、得られた情報を比較・関連付け・総合しながら再構成し、自分の考えをまとめ、自分の言葉で説明するといった言語活動において表現されたものを基に評価します。実際の授業における言語活動では、児童が自ら観点別に分けて表現しようとしているわけではないので、教師がどの観点で評価しようとするのか、指導のねらいは何であるのかといった点を明確にもち、評価場面を設定することが大切です。

Point2 資料を活用して考えさせ、図や文章で表現させること

社会科における言語活動は、地図やグラフ、写真や図版、年表など様々な諸資料を活用することが特色です。例えば、学習問題に対して、児童が気候や地形、産業や生活などに関連する様々な資料の比較からその関連を見いだしたり、異なる人物の業績を比較して共通点を考えたり、逆に違いを考えたりする活動などの学習活動を設定します。そして、そのような諸資料を活用した具体的な活動を通して、思考・判断したことを図や文章で表現させ、評価します。本実践では、各人物の業績を比較して見いだした共通点を踏まえて、思考・判断・表現する場面を設定しています。

5 本時案 (第三次 第1時)

(1) 本時の目標

近松門左衛門、歌川広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬について調べたことを基に、町人文化が栄え、新しい学問が起こったことについて考え、表現することができる。

(2) 展開

学習活動・内容	教師の支援	学習評価
1 前時までの学習を振り返り、近松門左衛門、歌川広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬の果たした業績について振り返る。	○前時までにまとめた各人物の業績について、全体で確認していく。	

2 本時のめあてを知る。

江戸時代の文化や学問の特色について考えよう。

3 学習した人物を文化・学問の二つのグループに分けて、共通点を考える。

○文化では近松門左衛門、歌川広重の業績を比較することを通して、学問では本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬らの業績を比較することを通して、どのような文化や学問だったのかを捉えていくという視点を確認する。

Point1

情報を比較・関連付け・総合しながら再構成する場面を設定すること

前時までに学習した内容（人物ごとに別々に情報を収集して、まとめた内容）を基にして、比較して共通点を考え、再構成する学習場面を個人、グループの形態で設定しています。

(1)自分の考えをまとめる。



○「なぜそう思うのか」という根拠も説明できるようにまとめさせる。

・共通点を考えることができない児童への助言例
文化では「誰が楽しんだのだろう」「誰が作品の主人公なのだろう」といった視点を助言する。

(2)グループでの交流を行い、自分の考えを整理する。



Point2

資料を活用して考えさせ、図や文章で表現させること

本時では、学習活動3(1)(2)で根拠を示しながら共通点を考え、まとめる活動を設定しています。そして、学習活動3(3)及び学習活動4で、複数考えられる共通点の中から何に着目し、どのようにまとめたら端的に文化や学問の特色を表現できるのか児童が考えて発言したり、記述したりする場面を設定しています。

(3)全体での発表を行い、めあてについて話し合う。

○個々の人物の作品や業績に着目するのではなく、共通点を踏まえて文化と学問の特色を考えることを確認する。

・考えをまとめることのできない児童への助言例
「江戸時代の文化は…の文化でした」といったまとめ方の例を示したり、他の児童が発表した内容を一緒に確認したりする。

○江戸時代に町人文化が栄え、新しい学問が起こったことについて考え、表現することができます。

[社会的な思考・判断・表現]
(発言の内容・ワークシートの記述)

4 自分で考えたことや他の児童との交流、または全体での発表の内容を基に、どのような文化や学問だったのか、端的にまとめる。

5 数名の児童の発表を基に、文化と学問の特色を確認し、本時のまとめとする。

○数名の児童に学習活動4でまとめたことを発表させ、本時のまとめをする。

(3) 板書の実例

江戸時代の文化や学問の特色について考えよう。 **国学** **蘭学**

<p>近松門左衛門 肖像</p> <p>本名 杉森信盛 歌舞伎や人形浄瑠璃を大きく発展させた。</p> <p>町人の苦しみや悲しみを題材にした。</p>	<p>歌川広重 肖像</p> <p>風景画に新しいかき方を生み出した。浮世絵</p> <p>歌舞伎役者や人の世の中の日常を題材に。</p>	<p>本居宣長 肖像</p> <p>仏教や儒学が伝わる前の日本人の考え方を明らかにしようとした。</p> <p>天皇中心の政治にもとそうとする考え。</p>	<p>杉田玄白 肖像</p> <p>オランダ語で書かれた人体解剖書。正確</p> <p>医学が急速に発展。</p> <p>蘭学を学ぶ人が増える。</p>	<p>伊能忠敬 肖像</p> <p>商人</p> <p>正確な日本地図をはじめてつくる。</p> <p>17年間約3万5千km 天文学・測量</p>	<p>江戸時代の文化は</p> <p>農民や町人が楽しんだ。町人などに人気の新しい文化だった。</p> <p>町人が中心</p> <p>江戸時代の学問は</p> <p>18世紀に新しい学問ができた。真実を求めて何年もかけて完成した新しい学問だった。</p>
--	---	--	--	--	--

町人 人々や役者の日常。力をつけた町人の楽しみ。

真実を求めて真実を確かにした。 正確さを追究した学問。自分から進んで行った。世の中を動かす力をもっていた。

新しい文化 以前は武士や貴族に向けてかかれていた。 現代につながっている。18世紀にできた新しい学問だった。

6 指導と評価の実例

(1) 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した児童の様子
(以下, (1), (2), (3) の児童の記述は一部を抜粋して掲載しています。)

《判断のポイント》

- ◆本実践では、近松門左衛門、歌川広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬のそれぞれの人物の業績や願いについて、共通点を探る活動を基にして考えた文化や学問の特色を端的に記述させています。この記述において、「おおむね満足できる」状況 (B) と判断する際の目安を、それぞれ以下の内容が表現されていることとしました。
 - 見いだした共通点から、誰が文化の担い手であったかに着目して考え記述している。
 - 見いだした共通点から、従前の学問と何が違うのかに着目して考え記述している。

(参考) 本時の学習活動3でのJ児の記述

- ・江戸で生まれた。・ふだんの生活が描かれている。
- ・たくさんの人が感動した。・名作が今も残っている。
- ・武士の道ではなく町人の道を歩んだ。
- ・町人が楽しめる文化を生み出した。
- ・どちらの作品もとてもはやった。
- ・どちらも歌舞伎役者が描かれている。

複数見いだした共通点の中で、下線の共通点に着目して考えをまとめ、記述しています。

本時の学習活動4での記述

文化 町人が楽しんだ文化

共通点を探る活動を基に、文化の担い手(町人)に注目して特色を記述しています。文章に含まれる文字の分量に関わらず判断の目安に沿って「おおむね満足できる」状況と判断しました。

(参考) 本時の学習活動3でのK児の記述

- ・江戸時代に研究がはじまった。
- ・新しい学問をつくった。・学問を発達させた。
- ・それぞれ違う考えをもっている。
- ・何年もかけて完成させている。・すごく正確だった。
- ・真実を求めていた。・その学問を習う人がふえた。

本時の学習活動4での記述

学問 真実も追いかめ、
多くの年月をかり完成させた

本居宣長や杉田玄白、伊能忠敬らの業績から、立場や学問の分野は異なりますが、それぞれ真実を求めたということに着目して記述しています。また、主として杉田玄白と伊能忠敬の業績から、記述の中に「正確さを求めた」などの表現を含む児童についても「おおむね満足できる」状況と判断しました。

(2) 「十分満足できる」状況 (A) と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆ 「十分満足できる」状況 (A) の姿を、児童の様子からある程度事前に想定しておくことは大切なことですが、(A) の姿が前提となり「これに当てはまらなければ (B)」という振り分けにならないように評価をしました。
- ◆ 次の事例では、表現された内容から (B) は達成していると判断した後、さらに、広い視野から人々に与えた影響にも着目して、記述していることから (A) と判断しました。

学習活動3では、杉田玄白の業績と現在の医学との関係や、国学と幕末の思想との関係など調べたことを根拠に、人々に大きな影響を与えたことを共通点の一つに挙げています。

本時の学習活動4でのL児の記述

学問

真実を確かにし、世の中を変えたり

人々の思いを変えたりした学問でした。

(3) 「努力を要する」状況 (C) と判断した児童に行った支援

《具体的な支援1》

- ◆ 学問について、M児は学習活動4で「すごく大切な学問だった」と記述しました。端的に記述することが前提ですが、このように曖昧な内容しか表現されていない場合、(B) を達成していると判断することが困難です。M児は、本時の学習活動3を通して、他の児童の発表や板書等も参考にして、次に示すように記述できていることから、「なぜ、大切と思ったのかな」という声かけを行い、学習活動3での記述を基に考えを引き出していきました。

M児は本時の学習活動3で、学問について次のように共通点を記述しています。

- ・江戸時代に研究をして真実を求めた。　・3人とも学問を発達させた。　・その学問をたくさんの人が学んだ。
- ・3人の考えから学問を習う人がふえた。　・時間をかけて、本や正確な地図をつくった。

《具体的な支援2》

- ◆ 文化について、個々の作品そのものに着目した記述（「現代に残っている」等）をしている児童については、記述に対する肯定的な声かけを行いながら、学習活動3での活動を一緒に振り返り、児童が考える視点を助言しました。

3 今後の学習評価に向けて

本実践は第6学年での実践でしたが、学年を問わず単元の後半で思考・判断したことを表現させる場面を設定する場合には、考える（思考・判断する）材料となる知識や技能を児童がそれまでの学習を通して身に付けていることが重要です。学習問題に即して、具体的に調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして調べたことが、問いに基づいた思考・判断の基盤となるよう単元の計画を構成することが大切です。観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する活動などと、思考・判断したことを表現させる学習との関連を明確にして評価計画を作成し、「思考・判断・表現」の観点を見取る妥当な評価場面を設定することが重要です。また、評価計画の作成に当たっては、「評価資料の収集が偏りなくできるか」「指導の成果が見えてくるのはいつか」といった点を考慮して、評価した結果を記録に残す場面を設定することが大切です。



1 学習評価のポイント

算数科においては、これまでの「数量や図形についての表現・処理」（以下「表現・処理」という。）の観点から「数量や図形についての技能」（以下「技能」という。）に改められました。観点名は変わりましたが「技能」では、これまで「表現・処理」で評価してきた内容を引き続き評価します。

また、「数学的な考え方」の趣旨の中に「表現」という文言が加えられました。「数学的な考え方」で評価する「表現」は、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考えた過程や結果を表したものを指します。したがって、「数学的な考え方」の評価については、主に言語活動を通して行うことが考えられます。



2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第2学年「九九のきまり」の実践事例を基に、「数学的な考え方」の評価と言語活動との一体化を図るために、どのように言語活動を設定し、その活動からどのようにして「数学的な考え方」について学習評価を行うかについて示します。

1 単元名 九九のきまり（第2学年）

2 目標

- 乗法に関して成り立つ性質やきまりを進んで見付け、生かそうとする。
〔算数への関心・意欲・態度〕
- 乗法に関して成り立つ性質やきまりを見付けたり、それを基に九九を超える乗法の計算の仕方について考えたりすることができる。
〔数学的な考え方〕
- 乗法を用いて正しく立式したり、式を読み取ったりすることができる。
〔数量や図形についての技能〕
- 乗法に関して成り立つ性質やきまりについて理解する。
〔数量や図形についての知識・理解〕

3 評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての 知識・理解
乗法九九の表から乗法に関して成り立つ性質やきまりを進んで見付け、九九を超える乗法の計算に生かそうとしている。	乗法九九の表から乗法に関して成り立つ性質やきまりを見付けている。 九九を超える乗法（2位数と1位数との乗法）の計算の仕方について乗法九九を用いて考えている。	九九を超える乗法（2位数と1位数との乗法）の場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。	乗法に関して成り立つ性質やきまりについて理解している。

4 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法																																																																																																																	
			関	思	技	知																																																																																																																		
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 乗法九九の表からいろいろな性質やきまりを見付ける。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="9">かける数</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td> </tr> <tr> <td rowspan="9" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">かけられる数</td> <td>1</td> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td><td>12</td><td>14</td><td>16</td><td>18</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>15</td><td>18</td><td>21</td><td>24</td><td>27</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>16</td><td>20</td><td>24</td><td>28</td><td>32</td><td>36</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5</td><td>10</td><td>15</td><td>20</td><td>25</td><td>30</td><td>35</td><td>40</td><td>45</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6</td><td>12</td><td>18</td><td>24</td><td>30</td><td>36</td><td>42</td><td>48</td><td>54</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7</td><td>14</td><td>21</td><td>28</td><td>35</td><td>42</td><td>49</td><td>56</td><td>63</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8</td><td>16</td><td>24</td><td>32</td><td>40</td><td>48</td><td>56</td><td>64</td><td>72</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>9</td><td>18</td><td>27</td><td>36</td><td>45</td><td>54</td><td>63</td><td>72</td><td>81</td> </tr> </table>			かける数											1	2	3	4	5	6	7	8	9	かけられる数	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	2	2	4	6	8	10	12	14	16	18	3	3	6	9	12	15	18	21	24	27	4	4	8	12	16	20	24	28	32	36	5	5	10	15	20	25	30	35	40	45	6	6	12	18	24	30	36	42	48	54	7	7	14	21	28	35	42	49	56	63	8	8	16	24	32	40	48	56	64	72	9	9	18	27	36	45	54	63	72	81	◎	◎			<p>評価計画には、◎と○の2種類を記しています。</p> <p>◎は、評価規準に照らして、全員の学習状況を見取り記録に残す評価です。これは単元の総括の資料となります。</p> <p>○は、評価規準に照らして、判断した結果を指導に生かす評価です。「おおむね満足できる」状況（B）であるかどうかを判断し、「努力を要する」状況（C）の児童に対して適切な支援を行うとともに、「十分満足できる」状況（A）と判断できる児童を把握し、必要に応じて記録に残して総括の参考資料とします。</p>
			かける数																																																																																																																					
			1	2	3	4	5	6	7	8	9																																																																																																													
	かけられる数	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9																																																																																																													
		2	2	4	6	8	10	12	14	16	18																																																																																																													
3		3	6	9	12	15	18	21	24	27																																																																																																														
4		4	8	12	16	20	24	28	32	36																																																																																																														
5		5	10	15	20	25	30	35	40	45																																																																																																														
6		6	12	18	24	30	36	42	48	54																																																																																																														
7		7	14	21	28	35	42	49	56	63																																																																																																														
8		8	16	24	32	40	48	56	64	72																																																																																																														
9		9	18	27	36	45	54	63	72	81																																																																																																														
2	<ul style="list-style-type: none"> 乗数が1増えると答えがどのように変わるか調べる。 																																																																																																																							
3	<ul style="list-style-type: none"> 答えが同じになる乗法を考える。 																																																																																																																							
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> 3×12の計算の仕方について考える。 		◎			<ul style="list-style-type: none"> 乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて1位数×2位数の計算の仕方を考えている。（ノートの記述、発言の内容） 																																																																																																																		
5	<ul style="list-style-type: none"> 12×4の計算の仕方について考える。 	◎				<ul style="list-style-type: none"> 2位数×1位数の計算の仕方について進んで考えようとしている。（行動の様子） 乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて2位数×1位数の計算の仕方を考えている。（ノートの記述、発言の内容） 																																																																																																																		
二	1	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容をまとめる。 		◎		◎	<ul style="list-style-type: none"> 乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて1位数×2位数の計算の仕方を考えている。（ペーパーテストの記述） 2位数と1位数との乗法の場面を式に表すことができる。（ペーパーテストの記述） 乗法に関して成り立つ性質やきまりについて理解している。（ペーパーテストの記述） 																																																																																																																	

本単元では、◎をこれからの学習の前提になる内容を学習する場面やこれまでの学習のまとめを行う場面に限定し、単元の始め、中、終わりに◎を付けました。「数学的な考え方」は、単元前半から後半にかけて高まることが考えられます。この特性を考慮すると、観点別評価を総括する際には、単元の後半に重きを置くことが考えられます。

Point1 根拠や着想を問うことや図を活用させること

本時では、既習事項である乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて考えるという演繹的な考え方を養うことを目指しています。そのためには、例えば「どのように考えて答えを出したのですか」と方法を問うだけでなく、「なぜその方法でできるのですか」「なぜそのようなことを考え付いたのですか」と考えの根拠や着想を問うことが大切になります。それらを問うことで、既習事項である9の段の計算の仕方を考えた際に用いた乗法に関して成り立つ性質やきまりを想起させることにつながります。また、計算の仕方を考えさせる際には、言葉や数、式だけでなく、図も活用させて他の表現方法と関連付けることも大切です。

Point2 学習したことを活用する場面で◎の評価を行うこと

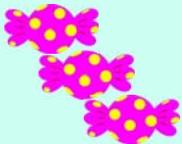
本時では、評価場面を主問題の自力解決の場面と適用問題に取り組む場面の二つに設定しています。自力解決の場面については指導に生かすための評価とし、個に応じた指導を充実させることに重点を置きます。また、適用問題に取り組む場面では、指導したことを基にしてどのように考えているかを評価し、ここでの評価結果は記録しておきます。◎の評価結果が妥当性、信頼性のあるものにするためには、主問題の解決方法を話し合う活動において、出された考えを比較してよりよい方法を見いだしたり、着想を振り返ったりするなど思考を十分に深めておく必要があります。

5 本時案（第一次 第4時）

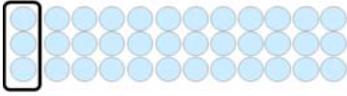
(1) 本時の目標

乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて、1位数×2位数（12までの数）の計算の仕方を考え、説明することができる。

(2) 展開

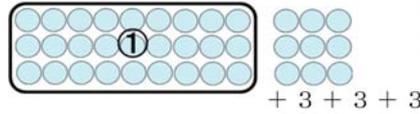
学習活動	児童の主な反応と教師の支援	学習評価
<p>《問題文》 友だちがあそびに来るので、あめを買いにお店に行くことにしました。 一人3こずつ食べます。 友だちといっしょに食べるには、どこ買ってくればよいでしょうか。</p> 		
1 学習課題をつかむ。	○条件不足の問題を提示し、友達的人数が6人、9人、12人だった場合の順に式や答えを考えさせることで、すぐに解決できる問題（既習）と、まだ解決したことのない問題（未習）であることに気付かせたり、見通しをもたせたりする。	
3のだんの九九にないかけ算の計算のしかたについて、九九をつかって考えせつめいしよう。		
<h2>Point1 根拠や着想を問うことや図を活用させること</h2>		
2 計算の仕方を考える。	○図に囲み線や言葉、番号、数、式などを書き込ませたり、なぜその方法で答えを求めることができるのかや、なぜその考えを思いついたのかを問うたりすることで、考えを分かりやすく整理できるようにする。	
	<p>○考えがもてない児童には、3行12列のアレイ図を示し、3の段の九九でどの部分まで求めることができるかを尋ね、既習の乗法九九の活用気付くようにする。</p> <p>○次のアの考え方をした児童には、3のまとまりを使いながらより簡単に計算する方法を考えさせることで、乗法のきまりを活用することができるようにする。</p>	<p>○乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて1位数×2位数の計算の仕方を考えている。</p> <p>〔数学的な考え方〕 （ノートの記述、発言の内容）</p>

ア 3ずつたす方法



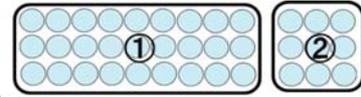
① $3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3$
 $+ 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 = 36$
 答え 36こ

イ 3ずつたす方法



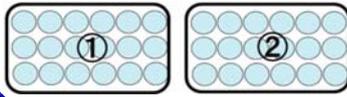
① $3 \times 9 = 27$
 ② $27 + 3 + 3 + 3 = 36$
 答え 36こ

ウ わけて後でたす方法



① $3 \times 9 = 27$
 ② $3 \times 3 = 9$
 ③ $27 + 9 = 36$
 答え 36こ

エ わけて後でたす方法



① $3 \times 6 = 18$ ③ $18 + 18 = 36$
 ② $3 \times 6 = 18$ 答え 36こ

3 考えを発表する。

Point2

学習したことを活用する場面で◎の評価を行うこと

数を変えた適用問題を解決させることで学習活動2・3で指導した数学的な考え方が身に付いているかどうかを評価します。

4 適用問題に取り組む。

・ 4×11 の計算の仕方

5 学習を振り返る。

○時間があれば、隣の席の児童と考えを説明し合う活動を設定して、同じ考えかどうかの観点で聞き比べさせ、考えを深めたり広げたりすることができるようにする。

○図をかく児童と説明する児童を分け、図を用いながら式と言葉で説明させることで、表現間の関連付けを図る。

○適用問題において数学的な考え方をを用いることができるようにするために、集団解決の場面で次の2点に留意して児童の思考を十分に深めておきます。

- ① 考えの着想や根拠を問うことで、既習事項との関連に気付かせ、確認すること。
- ② 出された意見を比較・分類・関連付けさせることで、考えの統合を図ること。



○前の活動でCと判断した児童を中心に、板書やノートを振り返りながら図に囲み線や式、言葉を書き込ませて、考えをもつことができるようにする。

○振り返りカードを用いて、考えたことや分かったこと、思ったことを書かせることで、自己の深まりなどを自覚できるようにする。

◎乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて1位数×2位数の計算の仕方を考えている。
 [数学的な考え方]
 (ノートの記述)

2けたの数のかけ算も計算のきまりをつかったり数の見方をくふうしたりすると、ならった九九をつかってもとめることができる。

(3) 板書計画

友だちがあそびに来るので、あめを買いにお店に行くことにしました。一人3こずつ食べます。友だちといっしょに食べるには、何こ買ってくればよいでしょうか。

めあて

3のだんの九九にないかけ算の計算のしかたについて、九九をつかって考えせつめいしよう。

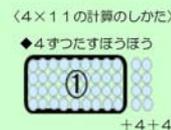
- ◇6人だったら
(式) $3 \times 6 = 18$ 18人
- ◇9人だったら
(式) $3 \times 9 = 27$ 27人
- ◇12人だったら
(式) 3×12



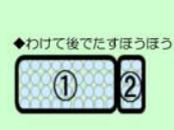
① $3 \times 9 = 27$
 ② $27 + 3 + 3 + 3 = 36$
 答え 36こ



① $3 \times 9 = 27$ ① $3 \times 6 = 18$
 ② $3 \times 3 = 9$ ② $3 \times 6 = 18$
 ③ $27 + 9 = 36$ ③ $18 + 18 = 36$
 答え 36こ 答え 36こ



① $4 \times 9 = 36$
 ② $36 + 4 + 4 = 44$
 答え 44



① $4 \times 9 = 36$
 ② $4 \times 2 = 8$
 ③ $36 + 8 = 44$
 答え 44

3のだんの九九は3ずつふえるから

かける数をわけると九九がつかえるから

まとめ

2けたの数のかけ算も計算のきまりをつかったり数の見方をくふうしたりすると、ならった九九をつかってもとめることができる。

6 指導と評価の実際

(1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

◆本時の問題では、解決方法を多様に考えることが可能です。多様に考えることは思考力として大切な要素の一つですが、本時は論理性という質的な深まりに着目して評価しました。したがって、判断の目安は、計算の仕方を説明する際に乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて考え、図と式で表現していることにしました（図1、2）。

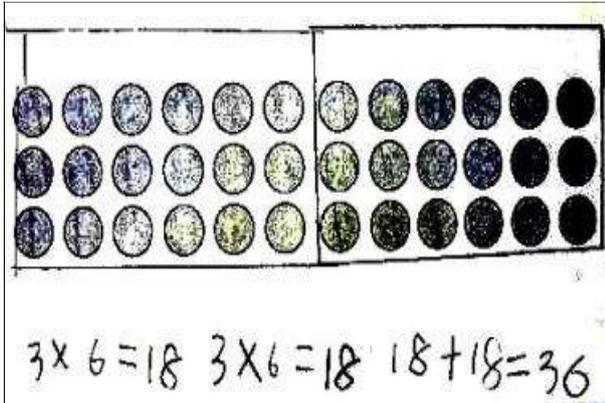


図1 学習活動2で児童が記述したワークシート

乗数の12を6と6とに分割してそれぞれ計算し、後でたすという乗法のきまりを用いて考えることができています。

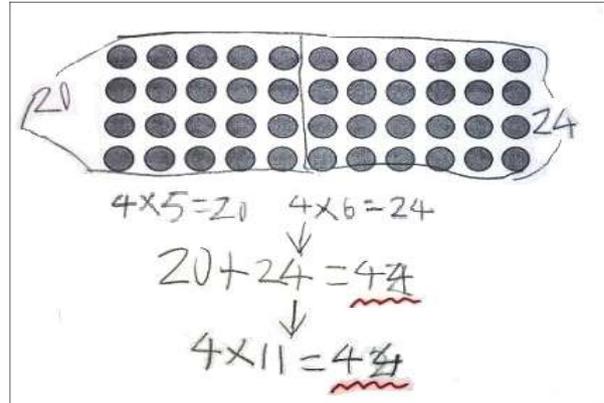


図2 学習活動4で児童が記述したワークシート

計算処理の正誤は技能の観点で評価する内容ですので、考えの道筋が正しければ解答を間違えた場合でも「おおむね満足できる」と判断しました。

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

◆質的な違いを明確にするために判断の目安として、「おおむね満足できる」状況（B）に加えて、次の二つのどちらかのことができていようかどうかで捉えるようにしました。

- ①根拠として前述の乗法の性質か分配法則のいずれかを明確に示していること（図3）
- ②手順について式と図との関連付けを図りながら分かりやすく表現していること（図4）

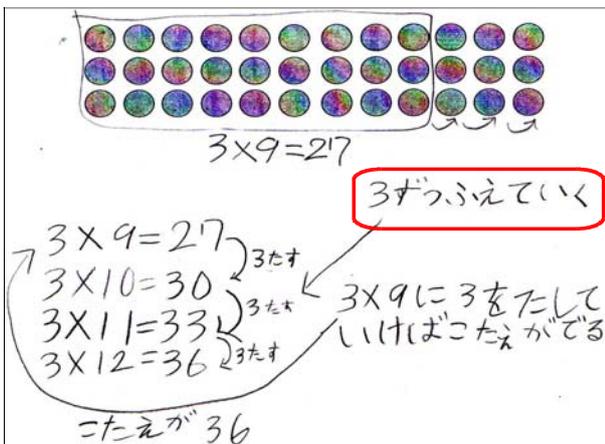


図3 学習活動2で児童が記述したワークシート

3の段の乗法九九は積が3ずつ増えるという乗法の性質を根拠として示して説明することができています。

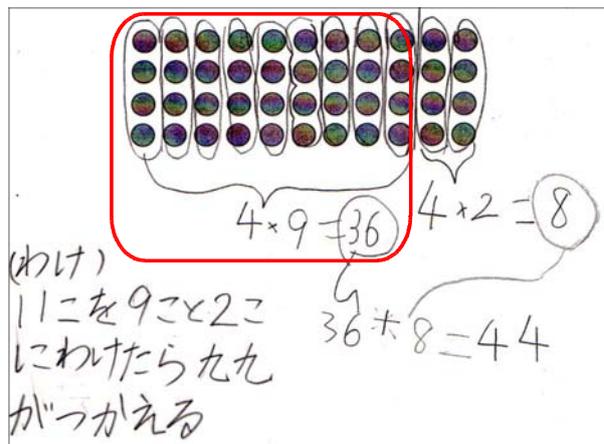


図4 学習活動4で児童が記述したワークシート

図に囲み線等を書き入れ、その部分とそれを求める式とを対応させて、思考の過程を分かりやすく書きまとめることができています。

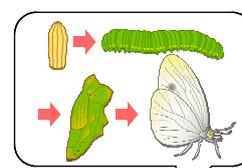


1 学習評価のポイント

理科においては、これまで「科学的な思考」としてきた観点が「科学的な思考・表現」に改められました。また、「表現」については、「基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、理科の内容等に即して思考・判断したことを表現すること」として捉えられるようになりました。

本観点の評価に当たっては、理科が問題解決の活動を重視することから、児童が、その過程において「比較したり」「関係付けたり」「条件に着目したり」「推論したり」して調べ、まとめたことを、発言や記述等から捉えるようにします。さらに、次の視点で分析するようにします。

- ・実験記録、データを適切に反映させた結論を導き出しているかどうか。
- ・考察の過程において論理的に矛盾や飛躍がないかどうか。
- ・考察の過程を用語や図などを適切に用いて表現できているかどうか。



2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第6学年「電気の利用とわたしたちの生活」の実践事例を基に、「科学的な思考・表現」の観点について、前述のポイントに示した「基礎的・基本的な知識・技能を活用する場」を設定し、どのように学習評価を行うかについて、学習指導との関連を踏まえ、示します。

1 単元名 電気の利用とわたしたちの生活（第6学年）

2 目標

電気による現象についての要因や規則性を推論しながら調べ、見いだした問題を計画的に追究したりものづくりをしたりする活動を通して、電気の性質や働きとその利用についての見方や考え方を養う。

3 評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①電気の利用に興味・関心をもち、自ら電気の性質や働きを調べようとしている。 ②電気の性質や働きを適用してものづくりをしたり、日常生活に使われている電気を利用した道具を見直したりしている。	①電気の性質や働きとその利用について予想や仮説をもち、推論しながら追究し、表現している。 ②電気の性質や働きとその利用について、自ら行った実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現している。	①電気の性質や働きとその利用を調べる工夫をし、手回し発電機などを適切に使って、安全に実験をしている。 ②電気の性質や働きとその利用を調べ、その過程や結果を定量的に記録している。	①電気は、作りだしたり蓄えたりすることができることを理解している。 ②電気は、光、音、熱などに変えることができることを理解している。 ③電熱線の発熱は、その太さによって変わることを理解している。 ④身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があることを理解している。

4 指導と評価の計画（全15時間）

次	主な学習活動	教師の支援(○)と学習評価(◇)
	<p>○手回し充電式のライトやラジオを操作し、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回すとライトが点灯した。電気がつくられているようだ。 ・回すのをやめてもラジオはまだついている。つくられた電気が蓄えられているからかな。 <p>○日常生活に使われている電気を利用した道具の働きについて気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの電気を利用した道具を挙げてみると、電気が光や音や運動や熱など、いろいろなものに変えられ利用されていそうなのが分かった。 	<p>○手回し充電式のライトやラジオを扱い、発電や蓄電の現象について児童が身近に感じることができるようにする。</p> <p>○児童が挙げてきた道具について、エネルギーの変換方法の視点からそれらの働きを板書に整理して位置付ける。</p> <p>◇ [関心・意欲・態度①] (行動の様子, 発言の内容)</p>
<p>電気はどのようにして、つくられたり、たくわえられたり、利用されたりしているか。</p>		
<p>電気につくられ方を調べよう。</p>		
	<p>○水力、火力、原子力、太陽光発電等の仕組みを資料、聞き取りで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電以外は、いずれもタービンを回すことによって電気をつくりだしている。 <p>○回すことによって電気がつくりだせることを手回し発電機を使って検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電機のハンドルを回すと、豆電球や電球型LEDが点灯した。回すスピードを速くすると、より明るく点灯した。 	<p>○発電の仕組みを調べる手がかりとして、図鑑、リーフレット等の図解資料を用意する。</p> <p>◇ [思考・表現①] (ノートの記述)</p> <p>○本体が透明の手回し発電機を用い、モーターやギヤなど、中の仕組みに目を向けやすくする。</p> <p>◇ [技能①] (行動の様子, ノートの記述)</p>
<p>電気は、主に、回すことによってつくりだせるといえる。</p>		
<p>電気のたくわえられ方を調べよう。</p>		
	<p>○蓄電できるものの一つとしてコンデンサがあることを知り、それを使って電気が蓄えられることを検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手回し発電機でつくりだした電気が蓄えられていることが豆電球や電球型LEDの点灯によって確認できた。 ・回す回数を多くすると、モーターは長時間回転した。だから、より多くの電気がつくられ蓄えられていたといえる。 <p>○電気の蓄えられ方を実感するため、コンデンサを利用してモーターカー等のものづくりをする。</p>	<p>○一定量の電気を蓄電させるために、手回し発電機のハンドルを回す速さや回数を助言する。</p> <p>◇ [技能②] (行動の様子, ノートの記述)</p> <p>◇ [思考・表現②] (ノートの記述)</p> <p>◇ [関心・意欲・態度②] (行動の様子, 発言の内容)</p>
<p>電気は、コンデンサなどのちく電器によってたくわえられるといえる。</p>		
<p>電気の利用のされ方を調べよう。</p>		
	<p>○身の回りの電気製品について電気がどのように利用されているかを調べ、報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライトは光、ブザーは音に変えられ、利用されている。 ・アナログの時計や洗濯機などは、運動に変えられている。 ・トースターや冷蔵庫は、熱に変えられ、利用されている。 <p>○報告されたことを基に、まとめをする。</p>	<p>○学校や家庭の電気製品について調べさせ、エネルギー変換のされ方の視点からまとめ、報告するよう助言する。</p> <p>◇ [思考・表現②] (ノートの記述)</p> <p>◇ [知識・理解②] [知識・理解④] (ノートの記述)</p>
<p>電気は、光、音、運動、熱などに変えられ、利用されているといえる。</p>		
<p>電気の熱への変えられ方と利用のされ方を調べよう。</p>		
	<p>○電源装置と手回し発電機を用い、太さの異なる電熱線に電流を流して発熱させ、発熱の仕方や電流の強さを調べる。</p>	<p>○まず、手回し発電機で発熱させ、必要とするエネルギーの量を体感を通して調べさせ、次に、電源装置で発熱させ、電熱線の</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・太い電熱線の方がよく発熱し、流れる電流も強い。 ・回した手応えがとても大きかったので、電気が熱に変えられるときにはたくさんの電気を必要とするといえそう。 ○トースターやホットプレートなどに使われている電熱線を観察する。 ○電気の熱への変えられ方を実感するため、発泡ポリスチレンカッターのものづくりをするとともに説明書をつくる。 	<p>太さの違いによる温度上昇の違いを定量的に調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ [技能②] (行動の様子、ノートの記述) ◇ [思考・表現②] (ノートの記述) ◇ [関心・意欲・態度②] (行動の様子、発言の内容) ◇ [知識・理解③] (ワークシートの記述)
<p>電気の熱への変えられ方は電熱線の太さによって変わるといえ、電気製品にも適用されている。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○電気がつくりだされ、蓄えられ、利用されるまでの流れの図解をつくる。 ・図解をつくることで、電気がいかに様々な方法や形で利用されているかが、改めてよく分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発電、蓄電については簡単に記述でき、電気の利用についてはその恩恵が詳しく記述できるワークシートを配付する。 ◇ [知識・理解①] (ワークシートの記述)
<p>電気は、様々な方法でつくり出されたり、たくわえられたり、利用されたりしていることが分かった。</p>	
<p>二 本 時</p> <p>[基礎的・基本的な知識・技能を活用する場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電球型LEDが省エネといえることを、白熱電球との比較で、点灯の仕組みや発熱の量を観点として調べる。 ・白熱電球は電気を熱→光に変え点灯する仕組みになっている、熱に変えるときにはたくさんのエネルギーが必要だ。 	<p>電球型LEDは省エネといえるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○点灯の仕組みについては、白熱電球のそれを、スチールワールの発熱実験によって推論させ、発熱の量については、それぞれの電灯が発する熱を、放射温度計をかざし調べさせる。 ◇ [思考・表現②] (ワークシートの記述)
<p>電球型LEDは、たくさんのエネルギーを必要とする熱に変えることをほとんどしないため、省エネといえる。</p>	

Point1

評価に有効となる問題解決の過程を設定する

「科学的な思考・表現」の評価に当たっては、理科が問題解決の活動を重視することから、授業にその一連の過程を組み込むことが前提になります。問題解決の過程は、概して図1に示されるものになりますが、評価は、形式的に過程を設定して行うのではなく、評価に有効となる過程を設定して行うことが大切です。

なお、評価の場面については、次の二つが考えられます。

- 1 予想・仮説をもつとともに、変化の要因に目を向け、推論したり条件制御したりして予想・仮説を検証する計画を立てる場面。
- 2 観察、実験の結果を予想・仮説に照らし合わせ、結論を導く「考察」の場面。

特に、「考察」の場面においては、その活動の充実が課題です。

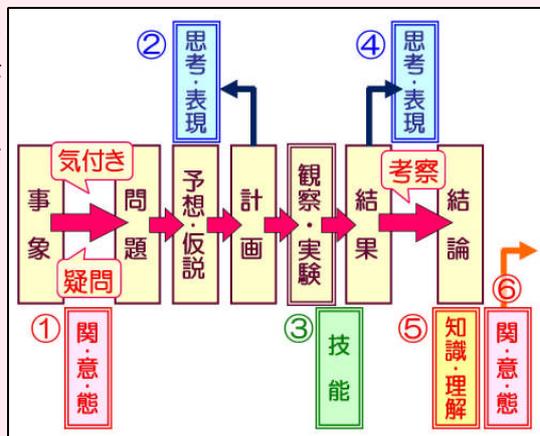


図1 問題解決の過程と学習評価

Point2

表現内容が「説明として分かりやすいものか」で評価する

理科の場合、「思考・表現」の内容は多様で、文字や記号としての表現ばかりではなく、イメージ図や立体的なモデルを用いた視覚に訴える表現も含まれます。こうした表現を通して、目に見えない自然事象が推論によって説明できたり、長大なスケールの自然事象が擬似的な再現によって説明できたりします。

そこで留意したいのは、何のための表現かということです。前述のように、「説明」のためですから、その表現内容が「説明として分かりやすいものか」で評価することが大切です。また、可能であれば、説明活動を位置付けたいものです。

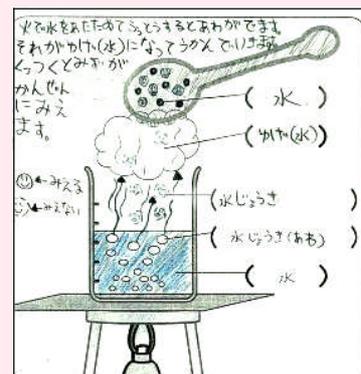


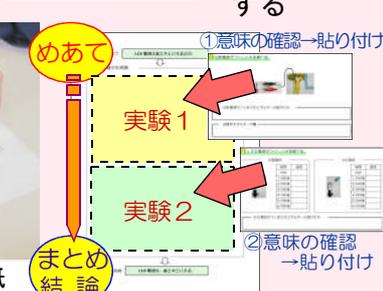
図2 イメージ図による表現

5 本時案（第二次 第1時）

(1) 本時の目標

「電球型LEDは省エネといえるか。」について、自ら行った実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現することができる。

(2) 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援 (○) と 評 価 (◇)	準 備 物
1 めあてをつかむ。	○次のめあてを単元のまとめの学習として追究することを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">電球型LEDは省エネといえるか。</div>	電球型LED 白熱電球
2 実験の計画について話し合い、確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>Point1 評価に有効となる問題解決の過程を設定する</p>  <p>○本時のまとめが「…いえる。」になることとともに、左の問題解決の過程を児童と確認し、めあてとまとめだけのワークシートを配付する。</p> <p>○二つの実験の意味を、その都度、児童と確認した上で、記録用紙を配付し、論理的な考察をしやすいとする。</p> </div>	ワークシート（グループに各1枚、四つ切り画用紙大） スチールウール 手回し発電機 実物投影机
3 白熱電球がつく仕組みを調べる。	○まず、ガラス部が透明の白熱電球を実物投影机で拡大して提示し、フィラメントが光る仕組みであることを確認させる。 ○次に、右図の実験器に、フィラメントに見立てたスチールウールを挟ませ、手回し発電機をつないで電流を流させる。 ○全員が交代して実験している中、「スチールウールの様子」や「回す手応え」などの観点を提示し、シートに記録させる。	 <p style="text-align: center;">スチールウールの発熱実験</p>
4 電球型LEDがつく仕組みを調べる。	○実験結果を交流させる中で、ニクロム線に手回し発電機をつないで発熱させたときの実験結果と合わせ、発熱→発光には相当のエネルギーが必要であることに気付かせる。そこで、電球型LEDは発熱の過程を経ていないのではないかとという予想を導き、次の比較対照の実験を提案する。 ・家庭用の白熱電球と電球型LEDのそれぞれを100Vの電源コンセントにつなぎ、左図のように、放射温度計で10秒ごとの温度変化を測定する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>Point2</p> <p>表現内容が「説明として分かりやすいものか」で評価する</p> <p>○説明の言葉が書けるよう、空白の枠を印刷したワークシートを配付する。</p> <p>○左に示す考察の型を手本に、全児童が説明の言葉を書けるよう、机間指導する。</p> </div>
5 実験結果を基に説明の言葉を書き、発表し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>実験1 白熱電球</p> <p>電気 → 熱 → 光</p> <p style="text-align: right;">↓ 大量のエネルギー</p> <hr/> <p>実験2 電球型LED</p> <p>電気 → 光</p> <p style="text-align: right;">↑ 温度上昇なし</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">だから、電球型LEDは省エネ</p> </div> <p>◇電気の性質や働きとその利用について、自ら行った実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現している。 〔思考・表現②〕（ワークシートの記述）</p>	白熱電球40W 電球型LED 5W 放射温度計 ワークシート（個人に各1枚、ノートの半分の大きさ）
<p>電球型LEDは、たくさんのエネルギーを必要とする熱に変えることをほとんどしないため、省エネといえる。</p>		

(3) 板書の実例

めあて

電球型LEDは省エネといえるか。

1 白熱電球がつく仕組みを調べる。

スチールワールが
発熱した
燃えた
赤色に光って
切れた



手ごたえは、
とても重かった
たくさんの
エネルギーが要る

切れたら軽くなった

電気エネルギー → 熱エネルギー → 光エネルギー

2 電球型LEDがつく仕組みを調べる。

白熱電球		電球型LED	
時間	温度	時間	温度
0秒	25.3	0秒	25.2
10秒後	34.7	10秒後	26.9
20秒後	37.3	20秒後	25.7
30秒後	38.4	30秒後	25.8
40秒後	43.7	40秒後	25.7
50秒後	44.2	50秒後	25.8
60秒後	51.8	60秒後	26.3

(熱)

電気エネルギー → 光エネルギー

キーワード
〇〇エネルギー 発熱

結論

電球型LEDは省エネといえる。

6 指導と評価の実例

(1) 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆ 本実践では、「(実験結果) になった。だから、電球型LEDは省エネといえる (結論)」という考察の型を踏まえていることを前提に、次の観点から児童の記述を分析しました。
 - ・ 実験記録を適切に反映させた結論を導き出しているかどうか。
 - ・ 実験結果と結論との間に論理的に矛盾や飛躍がないかどうか。
 - ・ 「〇〇エネルギー」等の用語を適切に用いて表現できているかどうか。

白熱電球がつくエネルギーのかわり方は、電気エネルギー → 熱エネルギー → 光エネルギーになる。熱エネルギーにはたくさんの電気エネルギーがたくさんいる。LED電球がつくエネルギーのかわり方は、電気エネルギー → 光エネルギーになる。LEDは熱エネルギーにツシしか変わっていません。だからLEDは、省エネといえる。

「5 (2) 展開」の Point2 に示した考察の型を踏まえて論理的に記述できています。説明活動に向け、まず、記述できたことを称揚し、次に、小声での説明練習を促します。

前の例と同様、論理的に記述できています。説明活動の際には、敬体に直して行うことを確認します。

白熱電球は電気エネルギーから熱、光エネルギーになるけどLED電球は電気エネルギーから光エネルギーになった。LED電球は熱を使わずに発光している。だからLED電球は省エネといえる。

(2) 「十分満足できる」状況 (A) と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆ 本実践では、指導者は、論理的な記述を重点的に求めていたということと、説明を聞き合うのは共に追究を進めてきた児童相互であるということから、詳細な内容の記述は要求していませんでした。しかし、実際には、次の例に示すような指導者の期待を超えた内容の記述をしてきた児童も数名見られました。これらの記述には、「より分かりやすい説明か」「説得力のある説明か」という視点を加えて、(A) と判断するようにしました。

1つ目のスチールワルを使った実験で、手回し発電機を回すとスチールワルは赤くなった。これは、熱の力で赤くなった。つまり電気エネルギーが熱エネルギーに変わった。2つ目の温度を調べた実験で白熱電球は電気をかけると温度が上がりだしたけど、LED電球はそんなに上がらなかつた。電気エネルギーを熱エネルギーに変えるのはすごく電気がいる。でもLEDは熱エネルギーを光エネルギーに変えるので、電気は、ふつうの電球より少なくなる。つまりLED電球は、省エネといえる。

限られた記述スペースでありながら、データを反映させたより分かりやすい説明ができています。説明活動に向け、まず、記述内容に対して児童を称揚し、次に、何を指して行くかを考えさせます。

「省エネ」であることを強調しようと、「むだな熱エネルギーを使っていない」と、言葉を補足して説得力のある説明ができています。説明活動に向け、その工夫に対し児童を称揚した後、説明時に示すフリップボードの内容を考えさせます。

白熱電球は、電気エネルギー→熱エネルギー→光エネルギーという変り方で、電球が熱くなった。LED電球は、電気エネルギー→光エネルギーという変り方で、電球が熱くならなかつた。←熱くならないということは、むだな熱(エネルギー)を使っていない。ということは、電気あまり使わないということ。だから、LED電球は省エネといえる。
↑
あまり(むだに)発熱していない。

(3) 「努力を要する」状況 (C) と判断した児童に対して行った支援

《具体的な支援1》
◆ 次の例に示すような児童は、多くの場合、記述への取りかかりが遅れがちになります。早い段階で個別に関わり、板書に書き上げた内容を引用するよう促します。

白熱電球に熱エネルギーをすごくつかっていたけど、LED電球は、熱をすこししか使っていなかったのだから、LED電球は、省エネだといえる。

熱エネルギーを使う量の差については言及できていますが、「電球がつく仕組み」との関連への言及は不十分です。発表し合う前の早急かつ個別の支援が求められます。

《具体的な支援2》
◆ まず、論理性の不十分さを児童が納得できるよう説明します。次に、板書を追わせながら口頭で説明するよう促します。それを聞いて、指導者は、十分なら、そのまま記述させ、まだ不十分なら、児童が自力で説明できるよう、言葉を補足しながら支援をしていきます。

3 今後の学習評価に向けて

「科学的な思考・表現」の評価においては、例えば、種子の発芽実験についての条件制御を行う場面では、児童は、教科書に示されている実験方法を見てそのまま語ってくださることも予想されます。そのため、適正な指導と評価を行う上では、その条件制御を行うことの意味などを考えさせ、話し合わせる事が大切です。また、本実践のような「活用の場」を単元の中に設定して、説明させることも有効な方法です。さらに、理科の場合、グループで観察、実験を行うことが多く、実験計画を立てている際、グループの誰が、どの程度の力をもっているのかを適正に評価しにくいので、個別にワークシート等を配付して、実験計画を書かせるという方法も効果的であると考えられます。いずれにしても、理科では、「見通しをもって観察、実験などを行い…」と目標に示されているように、それらの意義や目的を考えさせることが重要です。



1

学習評価のポイント

生活科の評価の観点には、従前どおり三つの観点が設定されていますが、中でも「活動や体験についての思考・表現」（以下「思考・表現」という。）と「身近な環境や自分についての気付き」（以下「気付き」という。）の違いを明確にすることが大切です。「思考・表現」については、児童が考えたり、工夫したり、振り返ったりなどする「思考」の様相を行動、つぶやきや発言、絵や文など、その児童なりの素直な表現から見取ります。その際、「表現」だけを取り出して、その出来栄を評価しないように留意する必要があります。また、「気付き」については、具体的な活動や体験を通して、児童がどんなことに気付いているかを評価します。「気付き」は「思考」と深く関わっていますが、「思考」は過程であり、「思考」の結果として「気付き」があるという、「思考」と「気付き」の違いを意識することが求められます。

2

学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、内容(6)「自然や物を使った遊び」と内容(8)「生活や出来事の交流」を基に単元を構成した第1・2学年「あきのたからもので あそぼう」の実践事例を基に、「思考・表現」の評価において、行動の様子や発言の内容を評価方法としてどのように学習評価を行うのかについて示します。

1 単元名 あきのたからもので あそぼう（第1・2学年）

2 目標

身近な自然や物を利用して遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、相手の気持ちを考えながら身近な人々と交流したりする活動を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、身近な人々と関わることの楽しさが分かり、みんなで遊びを楽しんだり、親しみをもって身近な人々と接したりすることができるようにする。

3 評価規準

		生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
単元の 評価規準		・身近な自然や物を利用した遊びと地域の人や幼稚園児との関わりに関心を持ち、みんなで楽しく遊んだり進んで交流したりしようとしている。	・身近な自然や物を利用して遊びや遊びに使う物を工夫してつくるとともに、地域の人や幼稚園児と交流し適切に接することについて、相手や目的に応じた行動を考えたり、分かりやすい伝え方を工夫したりしている。	・身近な自然や物を利用した遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊んだり地域の人や幼稚園児と関わったりすることの楽しさが分かっている。
学習活動（小単元） における 評価 規準	1	①身近な自然に目を向け、関心をもって関わろうとしている。	①季節の変化や特徴に合わせて、身近な自然との関わりを工夫している。	①季節が移り変わっていることや身近な自然や物を利用して遊ぶことに気付いている。
	2	②身近な自然や物を利用した遊びに関心をもって遊ぼうとしている。	②相手に応じた行動や伝える内容を考え、活動の計画を立てている。	②遊びや遊びを工夫する面白さ、相手が伝えたいと考えていることを理解できる楽しさに気付いている。
	3	③相手や目的に応じて、伝えたいことを表現しようとしている。 ④身近な自然や物を利用して、遊びや遊びに使う物をつくらうとしている。	③遊びの約束やルールなどを考え、遊びを創り出している。 ④相手の気持ちを考え、表情やしぐさ、態度などで気持ちを表し、交流している。	

	4		③遊びや遊びを工夫する面白さ、みんなで遊んだり交流したりする楽しさに気付いている。
--	---	--	---

4 指導と評価の計画（全16時間）

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準及び評価方法
1 あきのたからものを見付けよう (4時間)	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;">学習活動（小単元）における評価規準の設定に当たっては、「評価規準（何を）」「評価場面（いつ）」「評価方法（どのように）」の三つに留意します。学習活動や配当時間に応じて重点的に評価する場面を想定し、必要な評価機会として位置付けています。</p>	<p>〔関①〕身近な自然に目を向け、関心をもって関わろうとしている。 (行動の様子、探検カードの記述)</p> <p>〔思①〕季節の変化や特徴に合わせて、身近な自然との関わりを工夫している。 (行動の様子、探検カードの記述)</p> <p>〔気①〕季節が移り変わっていることや身近な自然や物を利用して遊ぶことに気付いている。 (発言の内容、振り返りカードの記述)</p>
2 木の実や木の葉でおもちゃをつくろう (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・木の実や木の葉で遊ぶ。 ・幼稚園児と楽しく遊ぶため、地域の人に身近な自然や物を利用した遊びを教してもらい計画を立てる。 ・地域の人に教してもらい、木の実や木の葉などを使って遊ぶ物を作ったり遊んだりする。 	<p>〔関②〕身近な自然や物を利用した遊びに関心をもって遊ぼうとしている。 (行動の様子、探検カードの記述)</p> <p>〔思②〕相手に応じた行動や伝える内容を考え、活動の計画を立てている。 (発言の内容、計画書の記述)</p> <p>〔気②〕遊びや遊びを工夫する面白さ、相手が伝えたいと考えていることを理解できる楽しさに気付いている。 (行動の様子、振り返りカードの記述)</p>
3 「あきのたからものランド」をつくらう (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あきのたからものランド」の計画を立てる。 ・「あきのたからものランド」の準備をする。 ・幼稚園児を招いて「あきのたからものランド」で遊ぶ。 	<p>〔関③〕相手や目的に応じて、伝えたいことを表現しようとしている。 (行動の様子、案内状の記述)</p> <p>〔思③〕遊びの約束やルールなどを考え、遊びを創り出している。 (発言の内容、計画書の記述)</p> <p>〔関④〕身近な自然や物を利用して、遊びや遊びに使う物をつくろうとしている。 (行動の様子、制作物)</p> <p>〔思③〕遊びの約束やルールなどを考え、遊びを創り出している。 (発言の内容、計画書の記述)</p> <p>〔思④〕相手の気持ちを考え、表情やしぐさ、態度などで気持ちを表し、交流している。 (行動の様子、発言の内容)</p>
4 楽しかったことをまとめよう (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あきのたからものランド」での交流を振り返り、お礼の手紙を書く。 ・活動の記録を紹介する。 	<p>〔気③〕遊びや遊びを工夫する面白さ、みんなで遊んだり交流したりする楽しさに気付いている。 (発言の内容、手紙の記述、学習カードの記述)</p>
<p>本単元は、内容(6)「自然や物を使った遊び」と内容(8)「生活や出来事の交流」の2内容から1単元を構成し、それぞれの内容の評価規準を設定しています。また、小単元ごとに重点を置く内容を明らかにして、指導と評価の計画を作成しています。第4小単元では、身近な自然や物を利用した遊びとともに地域の人や幼稚園児との交流について振り返り、〔気③〕の評価規準に示したことについて気付いてほしいと考え、評価の観点は「気付き」のみとしています。</p>		

Point1

「思考・表現」を思考の処理過程として捉えること

「思考・表現」と「気付き」の違いを明確にするために、「思考・表現」をプロセス（思考の処理過程）と捉え、「気付き」をプロダクト（思考の結果として生まれる生成物・構成物）として整理して考えることが望まれます。この両者は一体的で不可分なものではありますが、評価するためにはその部分を意図的に見取っていくことが大切です。「思考」は頭の中で行われる内的な操作活動ですので、振る舞いや表現したものなどの行為として表れたものを通して丁寧に見ていくようにします。本時では、幼稚園児が楽しく遊ぶことができるように、相手の様子や気持ちを意識しながら言葉かけや手助けなどを行っている様子を見取りました。

Point2

具体的な児童の姿を想定して見取ること

生活科の特性として、「おおむね満足できる」状況（B）と判断する目安として想定した評価規準の児童の姿は、実際の学習活動では多様に広がり、連続的に展開されます。そこで、評価においては、設定した評価規準を具体的な児童の姿としてイメージできることが大切です。本時では、評価規準に対して三つの具体的な児童の姿を想定しています。このことにより、本時でねらう児童の姿が明らかになり、指導と評価の一体化を図ることが可能になります。なお、具体的な児童の姿は、文で表現するだけでなく、キーワードを基に児童の姿を見取るポイントを想定し評価を行うことも考えられます。

5 本時案（第3小単元 第5時）

(1) 本時の目標

幼稚園児を「あきのたからものランド」に招いて、相手の気持ちを考えながら仲良く遊ぶことができる。

(2) 展開

学習活動と児童の意識	教師の支援	学習評価
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○体育館を会場とし、安全に気を付けて活動ができるように店の配置を考えて事前に準備をしておく。 ○前時の活動を振り返り、本時は「あきのたからものランド」に幼稚園児が来る日であることを確認する。 	
ようちえんのともだちに「あきのたからものランド」をたのしんでもらおう。		
2 本時の流れを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・はじめのことを言う。 ・店の紹介をする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> 元気「しゃいせう。」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> ゲームの説明を分かりやすくしたいな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> お店の紹介を分かりやすくしよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> 幼稚園の友達喜んでくれるな。 </div> </div>  3 「あきのたからものランド」を開く。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに店番と客に分かれて活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動のポイントをみんなで思い出し、活動への意欲を高めるようにする。 ○活動の前に全ての店の内容の紹介をすることにより、どの店も楽しさいっぱいであることを幼稚園児に知らせ、行ってみたい思いを膨らませるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ○第1学年の児童の様子を見て、優しい言葉かけをしてリードしている第2学年の児童を称揚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の気持ちを考え、表情やしぐさ、態度などで気持ちを表し、交流している。 （行動の様子、発言の内容） [思考・表現] <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <h3 style="color: red;">Point1</h3> <p>「思考・表現」を思考の処理過程として捉えること</p> <p>それぞれの活動場面における幼稚園児の様子を見て相手の気持ちを考え、その後、適切な行為をとるまでのプロセスとして、思考の様相を見取ります。</p> </div>

- オナモミの当て
- ドングリシュートゲーム
- 木の葉の金魚釣り
- ドングリ迷路
- チャレンジコーナー

遊び方の本をお手見せよう。

幼稚園の友達に優しく声をかけたかな。

一緒に作ってあげたいな。

サービスを楽しんでもらおう。



- 4 「あきのたからものランド」を閉めて、活動のまとめをする。
- ・幼稚園児の感想を聞く。
 - ・幼稚園児の気持ちを考えながら活動したことを発表する。

・「すごい」と言ってくれてうれしかったよ。
・やさしく教えてくれてよかった。ありがとう。



幼稚園児



小学生

・ゲームのルールをゆっくりと分かりやすく説明しました。
・困っている幼稚園の友達に優しく声をかけることができました。

- 5 幼稚園児を見送る。
- ・後片付けをする。
- 6 次時は活動を振り返る学習をすることを確認する。

○交流がしづらい児童には、場面に応じて適宜声をかけたり、めあてを振り返らせたりして意欲がもてるようにする。

※幼稚園の教師は、幼稚園児を中心に見守るとともに、楽しく活動している園児を称揚したり、活動しづらい園児に声かけをしたりする。

○店で使う物の修理が必要になったときのために「しゅうりコーナー」を設け、活動中にすぐに直せるようにしておく。

○積極的に幼稚園児に声をかけている児童や幼稚園児の立場に立って行動している児童を称揚し、他の児童の参考となるようにする。

○全体の交流を通して、幼稚園児の感想を聞くことにより、喜んでくれてよかったという満足感がもてるようにする。

○互いの感想を聞き合うことにより、自分の思いや考えを表現し伝え合うことができるようにする。

○幼稚園児の気持ちを考えて活動したことについて具体的に発表できた児童を称揚し、全体に広げるようにする。

○友達の良いところも発表できている言葉を取り上げ、全体で認め合う場とする。

○幼稚園の教師に児童の良いところを話してもらい、自分の頑張りや成長に気付けるようにする。

○安全に気を付けながら、力を合わせて最後まで片付けができるように声かけをする。

○次時の活動への期待をもつことができるように、幼稚園児を楽しませることができたことや友達への頑張りにも気付いたことを認め、心に残る終末とする。

Point2

具体的な児童の姿を想定して見取ること

活動の流れに即して期待される児童の姿を具体的に想定し、児童の学習状況を丁寧に見取るようにします。本時では次の姿を想定しました。

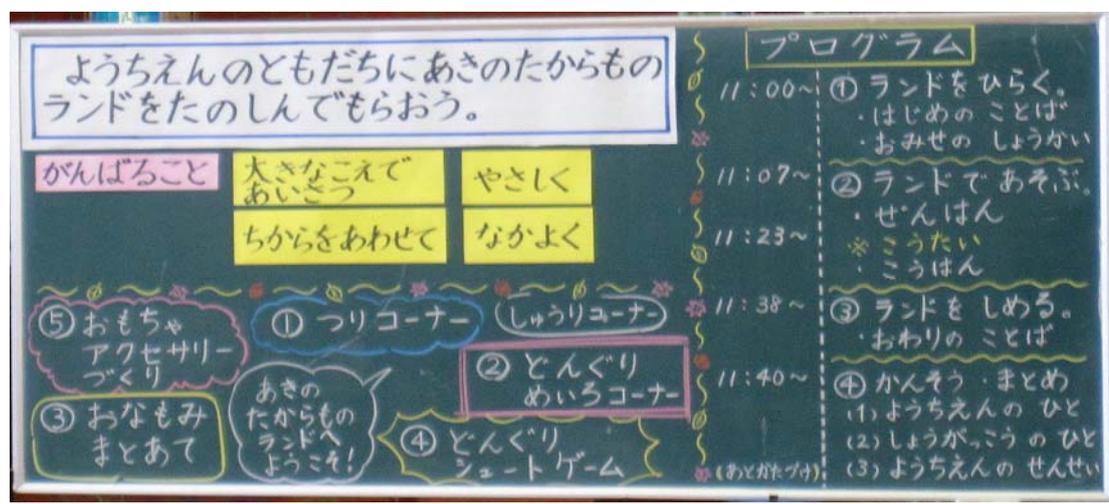
《具体的な児童の姿》

- ・幼稚園児が店に行ってみたくなるように、楽しく店の紹介をしたり元気に呼びかけたりしている。
(行動の様子、発言の内容)
- ・幼稚園児の様子を見ながら遊び方を分かりやすく教えている。
(行動の様子、発言の内容)
- ・幼稚園児の行きたい店や遊びを優しく尋ねたり、一緒に遊びを楽しんだりしている。
(行動の様子、発言の内容)



幼稚園児の立場に立って頑張ったことを発表している児童

(3) 板書の実例



6 指導と評価の実際

(1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆期待される児童の具体的な姿を想定した三つの活動場面において、次の姿が見られたので「おおむね満足できる」状況と判断しました。
 - ・店番になった場面では、笑顔で「いらっしゃいませ」と呼びかけをして明るい雰囲気をつくり、幼稚園児が安心してゲームを楽しむことができるように努めていた。
 - ・ゲームの説明に戸惑う様子が見られた幼稚園児に対して、「スタートと言ったら始めてね」「手で取ったらだめよ」などと丁寧にゲームの説明をしていた（図1）。
 - ・客として一緒に活動する場面では、「やり方は分かった？」「すごいね」などと声かけをしながら楽しく遊んでいた（図2）。※写真は活動場面のイメージです。



図1 「木の葉の金魚つり」のゲームの仕方をゆっくりとはっきりとした声で説明している様子



図2 「木の葉の金魚つり」のゲームの仕方が分かったかどうかを声かけをして確かめている様子

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆「おおむね満足できる」状況が、教師の想定を超えて顕著に見られたり、継続的に繰り返し見られたりしたことから、次の姿を「十分満足できる」状況と判断しました。
 - ・店番になった場面では、会場中に響き渡るような大きな声で「いらっしゃいませ」と呼びかけたり、幼稚園児に寄り添い、動作や言葉を用いて分かりやすくゲームの説明をしたりしていた。
 - ・ゲームが上手にできない幼稚園児に対して、「おいしい」「がんばれ」「大丈夫、大丈夫」「折り紙のおもちゃがもらえるよ」などと繰り返し励ましの言葉をかけたり、うまくできたときには「イエーイ」と言って共に喜び、盛り上げたりしていた（図3）。
 - ・客になった場面では、幼稚園児を優しく誘って手をつなぎ、行きたい店を尋ねたり遊びの手助けをしたりしていた（図4）。※写真は活動場面のイメージです。



図3 「オナミミの当て」がうまくできない幼稚園児に対して、励ましの言葉をかけている様子



図4 「木の葉の金魚つり」のコーナーで、上手に釣れるように手を添えて遊びの手助けをしている様子

(3) 「努力を要する」状況（C）と判断した児童に対して行った支援

《具体的な支援》

- ◆ 場面に応じた交流がうまくできていない場合には、次のような支援を行いました。
 - ・ 幼稚園児に楽しんでもらうというめあてを振り返らせる。
 - ・ 幼稚園児が喜んでいるかなと尋ねて幼稚園児の様子を見させる。
 - ・ 幼稚園児の様子に応じた友達の行動も参考にして店番の仕事をするように助言する。
 - ・ 一緒に店番をしている児童に対しても協力して活動するように促す。
 - ・ 客になる場面では、何をしたいか尋ねたり遊びの手助けをしたりするなどの具体的な接し方を提示する。
- こうした支援により、よりよい関わり方を考えて修正していく姿が見られました。

7 他の観点に関する学習評価の実践事例（参考）

○ 「身近な環境や自分についての気付き」に関する学習評価の実践事例

第4小單元においては、地域の人や幼稚園児との交流を振り返ってお礼の手紙を書いたり、單元全体の学習活動を振り返って学習の記録をまとめ紹介したりする場面で「気付き」について評価しました。そこで、「思考・表現」との違いを明確にするために「気付き」についても以下に示します。

《判断のポイント》

- ◆ 「遊びの楽しさや遊びを工夫する面白さ、みんなで遊んだり交流したりする楽しさに気付いている」という評価規準に対して、次の三つを期待される具体的な児童の姿として想定し、発言や手紙、学習カードの記述から学習状況を見取るようにしました（図5、6）。

- 幼稚園児と楽しく遊んだことやお店に来てくれたうれしさに気付いている。
- 店の遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。
- 身近な自然や物を利用して、楽しく遊べることに気付いている。

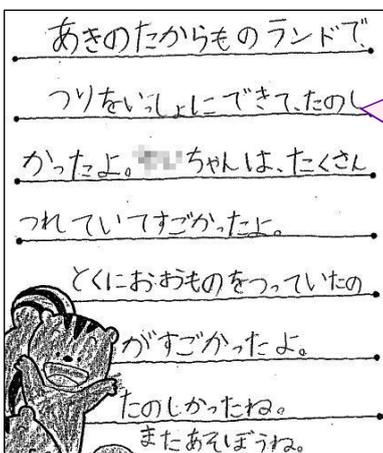


図5 幼稚園児へのお礼の手紙

幼稚園児と一緒に遊ぶことの楽しさについて記述しています。「また何かして一緒に遊びたいです」という発言もありました。

遊びを創り出す面白さや身近な自然や物を利用して楽しく遊べることなどについて表現しています。



図6 振り返りの学習カード

3 今後の学習評価に向けて

生活科は活動が中心であり、多様に展開する児童一人一人の学習状況を見取ることに難しさを感じることもあると思います。しかし、目標を踏まえて具体的な児童の姿を想定し、評価規準や評価方法を考えて授業実践を行うことにより、一人一人の児童がよく見えるようになり、指導と評価の一体化を図ることが可能になります。学習過程における児童の様々な思いや願いを共感的に理解するとともに、毎時間並びに單元全体を通しての一人一人の学びや育ちを読み取って、よさを発揮できるように支援し、楽しく実りある生活科の授業をつくることが求められます。



1 学習評価のポイント

音楽科においては、これまでの「音楽的な感受や表現の工夫」の観点から「音楽表現の創意工夫」（表1）に改められました。「音楽表現の創意工夫」では、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る学習を基に音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもって音楽表現しようとしているのかを、発言の内容や行動の様子、ワークシートの記述により把握する必要があります。

表1 音楽科の評価の観点

	A 表現	B 鑑賞
音楽への 関心・意欲・態度	○	○
音楽表現の 創意工夫	○	
音楽表現の 技能	○	
鑑賞の 能力		○

また、「音楽表現の技能」では、ねらいや学習活動の展開等に応じて「音楽表現の創意工夫」に係る力の育成と関わらせながら、音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている状況を把握する必要があります。

2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第6学年「自分たちの音楽物語をつくろう」の実践事例を基に、表現領域と鑑賞領域を関連付けて構成した題材の中で、どのようにして観点ごとの学習評価を行うのかについて示します。

1 題材名 自分たちの音楽物語をつくろう（第6学年）

2 目標

- ・いろいろな音楽表現や音楽の仕組みに興味・関心をもち、音楽をつくったり鑑賞したりする学習に主体的に取り組むことができる。 [音楽への関心・意欲・態度]
- ・音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、どのように音楽をつくるかについて、思いや意図をもつことができる。 [音楽表現の創意工夫]
- ・いろいろな音楽表現から得た発想や音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音を音楽に構成することができる。 [音楽表現の技能]
- ・音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、味わって聴くことができる。 [鑑賞の能力]

3 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
・いろいろな音楽表現や音楽の仕組みに興味・関心をもち、音楽をつくったり鑑賞したりする学習に主体的に取り組もうとしている。 [関-①鑑賞, ②音楽づくり]	・音色、リズム、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を音楽に構成していくことを工夫し、どのように音楽をつくるかについて、思いや意図をもっている。 [創-①音楽づくり]	・いろいろな音楽表現から得た発想や音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音を音楽に構成している。 [技-①音楽づくり]	・音色、リズム、速度、強弱、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、味わって聴いている。 [鑑-①鑑賞]

Point1

〔共通事項〕を関連させた指導

学習指導要領では、音楽的な感受に相当する指導内容を〔共通事項〕として示し、〔共通事項〕を支えとしながら、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力の育成を重視しています。そのため、年間指導計画への位置付けや題材ごとで指導する〔共通事項〕を明確にする必要があります。題材を通して、全ての児童が共通に学ぶ音楽を形づくっている要素や音楽の仕組み等を評価規準やねらいへ明確に位置付け、児童がそれらを活用する場面を設定します。評価においては、児童の発言内容や行動の様子、ワークシートの記述等の〔共通事項〕を踏まえた内容を基に行います。

Point2

音楽の活動を高めるための言語活動の位置付け

音楽科においては、合唱や合奏、グループによる音楽づくりの活動に言語活動を位置付けることも考えられます。その際、どのように表すかについて思いや意図を伝え合ったり、他者の考えに共感しながら、皆で一つの音楽をつくり出す指導が大切です。その中で、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、自分の考えと関連させながら、互いに感じたことを言葉によって伝え合う活動を取り入れることによって、自分では気付かなかった改善点やよさを見付けることができるなど、より活動の内容を高め合うことができます。

4 教材

「呼びかけ」 竹内ちさこ作詞・作曲

「世界地図のフーガ」 トッホ・E・エルニスト作曲

「静かさや ～芭蕉の俳句による～」 ホセ・マセダ作曲

「リコーダーのマウスピースのための鳥の曲」

アンサンブル・コア作曲

「銀河鉄道の歌」 あだちやえ作詞／原由多加作曲

5 指導と評価の計画（全6時間）

☆音楽を特徴付けている要素 ★音楽の仕組み ◎音符・記号等

Point1:2

これらの楽曲を教材として扱い、鑑賞と音楽づくりの活動の中で、〔共通事項〕の音色、リズム、強弱、音の重なりを知覚し、イメージと音楽を特徴付けている要素を関連させながら、自分たちがつくった音楽を、グループ活動を通じて高め合う活動を展開します。

次	時	主な学習活動	評価の観点				
			関	創	技	鑑	
一	1	○声や言葉でつくった音楽を聴く。 ・「呼びかけ」「世界地図のフーガ」「静かさや」の鑑賞。 ☆リズム、音の重なり ★反復	①			①	<p>Point1 題材で扱う〔共通事項〕を明確にしておきます。</p> <p>評価規準及び評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの楽曲の音楽表現や音楽の仕組みに興味・関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。（発言の内容、ワークシートの記述） リズム、音の重なり、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、味わって聴いている。（発言の内容、ワークシートの記述）
	2	○リコーダーのマウスピースを使って即興的に表現する。 ・「リコーダーのマウスピースのための鳥の曲」の鑑賞。 ・リコーダーのマウスピースによる即興的な表現。 ☆音色、リズム、強弱、音の重なり			①	①	<ul style="list-style-type: none"> 「リコーダーのマウスピースのための鳥の歌」の楽曲の特徴や、音色、リズム、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、味わって聴いている。（ワークシートの記述） 音色、リズム、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、いろいろな場面を即興的に表現し、思いや意図をもっている。（行動の様子、ワークシートの記述）

題材の導入として、音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みを、特徴のある楽曲から聴き取る活動をしています。

本実践事例では、導入時の「音楽への関心・意欲・態度」と終末時の様子を比較できるようにし、題材を通しての高まりを見取ることができる設定をしています。

二	1	<p>○「銀河鉄道の歌」の歌詞や朗読から物語をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲全体の感じをつかむ。 ・歌詞や朗読から物語を想像して場面の様子や表現したい雰囲気具体的に考える。 ・音探しをする。 <p>☆音色, リズム, 強弱, 音の重なり</p>	①	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や朗読からイメージしたことを, つくろうとする音楽やその方法について, 思いや意図をもって音探しをしている。 <p>(発言の内容, 行動の様子, ワークシートの記述)</p>
	2, 3	<p>○歌や朗読と組み合わせて自分たちの音楽物語をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の素材を重ねて, 音楽づくりをする。 <p>☆音色, リズム, 強弱, 音の重なり</p>	①	<ul style="list-style-type: none"> ・音を音楽に構成していくことを, 歌詞や朗読からイメージし, つくろうとする音楽やその方法について, 思いや意図をもっている。 ・いろいろな音楽表現から得た発想や音楽の仕組みを生かし, 見通しをもって音を音楽に構成している。 <p>(発言の内容, 行動の様子, ワークシートの記述)</p>

音楽づくりの活動の中で, 演奏している様子は「音楽表現の技能」で評価します。音楽づくりでは, 音楽をつくっている過程を「音楽表現の創意工夫」で評価します。また, 「A表現」の活動の中で, お互いの演奏を聴き合う活動は「鑑賞の能力」で評価せず, 「音楽表現の創意工夫」で評価します。



図形楽譜を用いたワークシート

Point2 音楽の活動を高めるための言語活動の位置付け

自分の思いや意図を伝え合う手法として, ワークシートを工夫することが考えられます。イメージを具体化するために, 絵やデザイン, 体を動かす活動などを取り入れることは, 個人やグループで考えたことを, 具体的に表現することができる有効な手段として考えられています。

本時	4	<p>○互いの演奏を聴き合い, 更によくなるように工夫する。</p> <p>☆音色, リズム, 強弱, 音の重なり</p>	①	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループのよさや面白さなどを感じ取りながら, どのように音楽をつくるかについて, 自分の考えや意図をもっている。 <p>(発言の内容, 行動の様子, ワークシートの記述)</p>
			②	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音楽表現や音楽の仕組みに興味・関心をもち, 音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 <p>(発言の内容, ワークシートの記述)</p>

6 本時案（第二次 第4時）

(1) 本時の目標

- ・他のグループのよさや面白さなどを感じ取りながら、どのように音楽をつくるかについて、自分の考えや意図をもつことができる。
- ・いろいろな音楽表現や音楽の仕組みに興味・関心をもち、音楽をつくる学習に主体的に取り組むことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の支援	学習評価
<p>1 「銀河鉄道の歌」を歌う。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p>	<p>○朗読と組み合わせて、次のことに留意して歌唱させ、本時の学習への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔らかな無理のない声で歌唱させる。 ・歌詞の表す情景や気持ちを感じながら歌唱させる。 <p>○前時までにつくったそれぞれのグループの作品を聴かせ、その作品のよさや工夫を共有させる。</p>	<p>Point2</p> <p>音楽の活動を高めるための言語活動の位置付け</p> <p>本実践事例では、グループによる音楽づくりの活動において、どのように表現するのかについて、思いや意図を伝え合い、他者の考えに共感しながら、全体で一つの音楽をつくっていく指導をしています。イメージと音楽の授業で育まれた用語（〔共通事項〕等）を関連付け、言葉で表現できるような活動ができる授業を展開することがポイントとなります。</p>
<p>3 互いの作品を聴き、感想を交流する。</p> <p>(1) 練習する。</p>	<p>自分たちの音楽物語を紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとアドバイスし合えるようにし、児童がその内容を参考にして、自分たちの作品を更によいものにしていくことができるようにする。 <p>○発表に向け、自分たちが表現したい場面の様子や雰囲気表れるよう、朗読を加え、一通り練習する時間をとる。</p>	
<p>(2) 発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見や感想をワークシートに記入しながら聴く。 	<p>Point1〔共通事項〕を関連させた指導</p> <p>○音楽を特徴付けている要素に注目させ、聴くポイントを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や雰囲気を表すために、各グループで工夫しているよさや面白さを見付け、言葉で表現する。 ・音楽を特徴付けている要素（音色、リズム、強弱、音の重なり）や楽器の組合せ、全体の構成などを意識して聴き、その効果を感じ取る。 	
<p>(3) ワークシートを互いに交換し、よい点や改良すべき点を話し合う。</p>	<p>○ワークシートを互いに交換させ、グループで読み合っ、自分たちの作品のよい点や改良すべき点について意見交換させることにより、児童の思いを高める。</p>	



4 改良点を練習し、発表する。

○改良した作品を紹介させる。
・工夫した点を説明した後に発表させる。

5 題材のまとめをする。

○題材全体を振り返らせ、グループで工夫できたこと、友達の良かったところなどをワークシートに記入させ、全体で発表させる。
・グループで協力して音楽づくりができたことを称揚して題材のまとめとする。



(3) 板書の実際

自分たちの音楽物語をつくろう
～銀河鉄道の歌～

めあて
自分たちの音楽物語を紹介しよう。

- 他のグループの発表を聴いて、よさや面白さを見付けよう。
- 他のグループからのコメントを受けて、音楽物語をもっと良いものにしよう。

聴くポイント

他のグループに伝えるためのキーワード

- 音色 リズム 強弱 音の重なり
- 楽器の組み合わせ
- 全体の構成

反復

Point 1

〔共通事項〕を関連させた指導

題材内で扱う〔共通事項〕は板書カードにしておき、教師や児童が適宜活用できるような工夫をしておきます。

7 指導と評価の実際

※(1)～(3)については「音楽表現の創意工夫」について説明します。

(1) 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した児童の様子

《判断のポイント》

◆歌詞や朗読によりイメージした場面の様子や雰囲気などから音色やリズム、強弱、音の重なり、楽器の組み合わせ、全体の構成などを聴き取り、具体的に言葉で表すことができている場合に「おおむね満足できる」状況 (B) としました (図1)。

場面1

ときどき高い音低い音がでてきておいしかったです。

場面2

音がかきかたつたりする所がきれいにそろっていてすごかったです。

図1 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断したワークシート

他のグループのアドバイスを受け、自分の表現したい様子や雰囲気について、図形楽譜や楽器を使用して具体的に説明している様子を見取り、グループでの演奏に生かしている場合に「おおむね満足できる」状況 (B) としました。楽器の演奏技術ではなく、工夫している様子や発言を中心に観察することを心がけました。

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

◆歌詞や朗読からイメージした場面の様子や雰囲気などを音色やリズム、強弱、音の重なり、楽器の組合せ、全体の構成などを聴き取り、それらを関連させて具体的に言葉で表すことができている場合に「十分満足できる」状況（A）としました（図2）。

<p>場面3</p> <p>低い音から高い音へのおんたんと上げていて、ブラックホールの はげしい感じがしていた。途中で明るい音がほのほ、何だろう</p>	<p>全体を通して</p> <p>色々な音色の楽器が使っていて、よく考えてあると思いがけ。 特にトーンチャイムのひびきがよかったです。</p>
---	---

図2 「十分満足できる」状況（A）と判断したワークシート

他のグループのアドバイスを受け、自分の表現したい様子や雰囲気が他の人にうまく伝わるよう思いや意図をもち、音楽を特徴付けている要素（音色、リズム、強弱、音の重なり）や楽器の組合せ、全体の構成などを意識して説明し、グループの演奏に生かしている場合に「十分満足できる」状況（A）としました。

(3) 「努力を要する」状況（C）と判断した児童に対して行った支援

《具体的な支援》

◆ワークシートに「スムーズにすすむようにする」としか書かれていなかった（図3）ため、「具体的にはどのようにするのか」を尋ねました。「つまらないようにする」という返事だったので、場面について考えてみるよう助言したところ、自分が担当しているトーンチャイムで「もっとたくさんの音を入れる」と書き加えていました。そこで、小刻みにリズムを刻むことなのか、違う音色を入れることなのか尋ねてみると、列車が星にぶつかって大破する場面なので、違う音色を入れて爆発する感じを出したいとのことでした。そこで、音色という言葉を入れて書くよう助言しました（図4）。

<p>場面3</p> <p>全体を通して</p> <p>スムーズにすすむようにする。</p>	<p>場面3</p> <p>トーンチャイムで（もっとたくさん）の音を入れる。 ちがう音色</p> <p>全体を通して</p> <p>スムーズにすすむようにする。</p>
---	---

図3 「努力を要する」状況（C）と判断したワークシート

<p>場面3</p> <p>トーンチャイムで（もっとたくさん）の音を入れる。 ちがう音色</p> <p>全体を通して</p> <p>スムーズにすすむようにする。</p>	<p>場面3</p> <p>トーンチャイムで（もっとたくさん）の音を入れる。 ちがう音色</p> <p>全体を通して</p> <p>スムーズにすすむようにする。</p>
---	---

図4 教師による支援後のワークシート

教師による支援の後、図形楽譜を用いて複数のトーンチャイムによる音色の工夫についてグループのメンバーに説明し、その後の合奏に生かすことができました。イメージから音色の変化に気付くことができ、「努力を要する」状況（C）から「おおむね満足できる」状況（B）へ評価を変更することができました。

3 今後の学習評価に向けて

各題材の構成においては、育成する力を明確にするとともに、必要に応じて複数の領域・分野の関連が考えられます。その際、〔共通事項〕は、扱う領域・分野、指導事項、教材を関連付ける要となります。また、グループによる活動においては、どのように表すかについて思いや意図を伝え合うようにしたり、他者の考えに共感する際に自分のもつイメージと「音楽を形づくっている要素」を関連付けながら理解できるようにしたりする工夫が必要です。イメージを喚起できるようなワークシート（今回の実践事例では図形楽譜を使用）や活動が大切です。



1

学習評価のポイント

図画工作科における表現や鑑賞の活動の過程では、児童一人一人の資質や能力が生き生きと働いています。これらの児童の姿に寄り添い、育ちを確かめる行為が評価です。

図画工作科の評価の4観点は、これまでの名称と変わらず、その趣旨もほぼ同じです。図画工作科で大切にしてきた指導や評価の4観点をそれぞれの題材において明確にし、具体的な指導と評価の手だてを設定していくことが求められています。

学習指導要領の改訂により、図画工作科において領域や項目などに共通する資質や能力が〔共通事項〕として示されるとともに、言語活動をこの〔共通事項〕の視点なども活用しながら充実させることが求められています。〔共通事項〕は、児童の活動を具体的に捉え、図画工作科の基礎的な能力を育て、造形活動や鑑賞活動を豊かにするために設けられたものです。形や色、イメージなどの〔共通事項〕の視点から児童の学習内容を明らかにし、目標が達成された状況を具体的な姿で想定して見取っていくことが大切です。

〔共通事項〕（第5学年及び第6学年）※取り上げる実践事例が第5学年の実践のため、該当学年のみ提示

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

2

学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第5学年「『そのば』くん登場」の実践事例を基に、形や色、イメージなどの〔共通事項〕の視点から児童の学習内容を明らかにし、図画工作科の評価の4観点ごとに目標が達成された状況を具体的に設定した学習評価の在り方を示します。

1 題材名 「そのば」くん登場（第5学年）

（身の回りの顔に見える場所をカメラで写し取り、「そのば」くんとして表現していく題材です）

2 目標

- ・場所の面白さや特徴を見付け、自分の表したい感じが出るように絵に表すことを楽しもうとしたり友達の作品のよさなどを自分なりの見方で味わおうとしたりする。〔造形への関心・意欲・態度〕
- ・見付けた場所の形や色などの面白さや特徴などから描きたいものを思いつき、自分のイメージや表したい感じに沿って、自分らしい表し方を構想する。〔発想や構想の能力〕
- ・自分の表したい感じが出るように、様々な表現方法や材料などを選んだり、組み合わせたりしながら表し方を工夫する。〔創造的な技能〕
- ・身の回りの場所から造形的な面白さや特徴を捉えたり、自分たちの作品の表現のよさを感じ取る。〔鑑賞の能力〕



「ゆかいなロボットコンテスト(部分)」

3 評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現・関① 自分の表したい「そのば」くんを思いつき、その感じが出るように絵に表すことを楽しもうとしている。 鑑賞・関① 場所の面白さや特徴、友達の作品のよさなどを自分なりの見方で味わおうとしている。	発① 見付けた場所の形や色などの面白さや特徴などから描きたいものを思いつき、自分のイメージや表したい感じに沿って、自分らしい表し方を構想している。	技① 自分の表したい感じが出るように、様々な表現方法や材料などを選んだり、組み合わせたりしながら表し方を工夫している。	鑑① 身の回りの場所から形や色などの造形的な面白さや特徴を捉えている。 鑑② 自分たちの作品について感じたことや思ったことを話し合い、表現のよさを感じ取っている。

Point1

〔共通事項〕の視点で児童の姿を具体的に捉えること

学習指導要領で設定された〔共通事項〕は、児童の活動を具体的に捉え、図画工作科の基礎的な能力を育て、造形活動や鑑賞活動を豊かにするために設けられました。そこで、表現や鑑賞の各題材について、そのねらい、児童の学習活動、指導方法などを〔共通事項〕の視点で見直すとともに、児童の具体的な活動を考えながら指導を工夫し改善することが求められています。例えば、一つの題材の評価規準を考える際に、形や色、イメージなどの〔共通事項〕の視点から児童の学習状況を明らかにし、目標が達成された状況を具体的に設定していくことが大切です。具体的には「工夫して表すことができる」としていた評価規準を、「児童が自分で選んだ形の組合せを考えながら表すことができる」といったように、〔共通事項〕を手がかりに具体的な活動へと見直してみるとよいでしょう。

Point2

ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること

図画工作科において「思考力・判断力・表現力」を育成していくためには、主に「発想や構想の能力」や「鑑賞の能力」を働かせる場面において言語活動を適切に位置付け、指導し評価していくことが大切です。その際、ワークシートを活用することは、児童の学習活動や自己評価において効果的であると同時に、教師による評価として重要な資料にもなります。題材のねらいに即して書き込ませる内容を精選するなど、発達段階を踏まえて「どの題材のどの場所に位置付けるか」「どの程度の時間を費やすか」などに配慮する必要があります。また、感想だけでなく、それが作品のどこからそう思ったのかを問うことで、根拠が明確に分かるような形式にしたり、一人一人の発想の特徴が捉えられるイメージマップのような形式にしたりすることも有効です。

4 指導と評価の計画（全7時間）

次時	主な学習活動	評価の観点				指導と評価の留意点、評価方法等
		関	発	技	鑑	
一 1	<p>○場所の面白さや特徴を見付け、学習のめあてをもつ。</p>  <p>「モップがタバコをくわえた顔にみえたよ!」</p>	⋮			⋮	<p>鑑賞・関① 題材に関心をもてなかったり、場所の面白さを探せなかったりする児童を把握することに重点を置き、それらの児童の関心や意欲が高まるよう声かけをする。</p> <p>〔造形への関心・意欲・態度〕 (行動の観察、対話)</p> <p>鑑① グループに1台ずつデジタルカメラを持たせ、身の回りの場所などから「顔」に見える面白さや特徴を撮影する活動を設定し、撮影した画像や撮影の様子を観察して評価していく。</p> <p>〔鑑賞の能力〕 (行動の観察、デジタルカメラの画像)</p>
<p>評価の観点を絞る</p> <p>37ページの評価規準を指導計画に位置付けています。1単位時間の中で評価する観点をできるだけ絞り込むようにします。第一次では授業の後半で「鑑賞の能力」を「関心・意欲・態度」と合わせて見取るようにします。</p>		鑑賞 関①			鑑①	
二 1 本 時 、 2	<p>○見付けた場所の特徴などを基に、どのような「そのば」くんにするかを考える。</p> <p>・画像コーナーで選んだり、アイデアスケッチを描</p>	⋮	⋮			<p>発① ここで想いを広げたり表したい「そのば」くんを思いついたりすることができるかどうかは、その後の製作に大きく影響を与える。そこで、画像コーナーを設け画像を選んだり、必要に応じて何枚もアイデアスケッチを描け</p>

いたりする。
・ワークシートに今考えている表したいことや表したい感じを端的に言葉で表す。

ワークシートの活用

ワークシートは児童の学習活動や自己評価であると同時に、評価の際の重要な資料となります。題材のねらいに即して書き込ませる内容を精選することが大切です。本題材では一人一人の発想のよさや特徴を捉えたり、言葉や文字を使って思いを広げさせたりするねらいから、表したい感じなどを記述することができるワークシートを活用し、指導や評価に生かそうとしています。

・友達の作品を見合い、一人一人が思いついたことを自由に出し合う。

3
4
5
○表したい感じが出るような表現方法などを工夫する。



発と技は相互に関連 数単位時間の中で評価

「発想や構想の能力」と「創造的な技能」の表現に関する能力は、相互に関連し合い高まっていくものであることから、数単位時間という期間の中で評価していくことも大切です。その際、前半は、特に「努力を要する」状況(C)の児童を中心に指導し、完成が近付いた段階で評価を確定していくようになります。また、その時間に中心的に見取っていく観点とは別に、「造形への関心・意欲・態度」も含め特徴的なものについては記録を残し、評価していくようになります。

デジタルカメラの活用

デジタルカメラを用いることで、作品の途中の段階や特徴的な活動の様子などが記録できます。それによって表現のプロセスが捉えやすくなり、児童が発揮している「発想や構想の能力」や「創造的な技能」などを具体的に分析することができます。また、撮影すること自体に〈児童を称賛する〉〈自己評価を促す〉効果もあります。

るようにしたりするなどの手だてを講じ、観察や対話などを通して見取るようにする。 【発想や構想の能力】
(行動の観察、対話、ワークシート、作品)

行動の観察や対話による評価

「発想や構想の能力」は本題材で重点を置く評価の観点です。児童が「何を感じ、何を考えているのか」などは、観察を通して児童の動きや視線、会話などを捉えることでおおむね理解することができます。また、児童と対話することでより表現の意図が確かになったり、児童の新たな発想に気付いたりすることもあり、このような方法を組み合わせることで評価し、指導に生かしていきます。

・自分らしい発想で工夫している児童の活動の様子を称賛する。

Point1 【共通事項】の視点で児童の姿を具体的に捉えること

称賛する教師の言葉も【共通事項】の形、色、イメージなどの視点に着目し、「よく描けているね」と言っていたところを「○○な形が繰り返し描かれていて、表現したい○○なイメージに近付いているね」のような具体的な姿が分かる言葉にしていくことが大切です。

表現
関①

発①

表現・関① 第二次を「発想や構想の能力」と「創造的な技能」のそれぞれに向かう「関心・意欲・態度」として一つの評価規準で見取っていく。具体的には、発想や構想の場面では、どのような「そのぼ」くんにするかを画像コーナーで試したり、ワークシートを使ったり、友人の作品のよさを探そうとしたりしているかを、創造的な技能の場面では、材料や表現方法を表したい感じに合わせて絵に表すことを楽しもうとしているかを見取る。

【造形への関心・意欲・態度】

(行動の観察、対話、作品)

技① 前半は自分の表したい「そのぼ」くんの感じを出すことが考えられているかを見取り、できていない児童に対して、思いを語らせるなどの指導を行う。製作が進んだ段階では、表現意図に合わせ様々な表現方法や材料などを選んだり、組み合わせたりしているかを見取り、完成に近付いた段階で評価を確定する。

【創造的な技能】

(行動の観察、対話、作品)

・活動の様子や作品の変化の様子をデジタルカメラで撮影し、表現や製作過程を紹介したり、評価に生かしたりする。
・様々な表現方法や材料を選んだり、組み合わせたりしながら表現を工夫している児童を称賛する。

表現
関①

技①

三	1 ○自分たちの作品について感じたことや思ったことを話し合う。 ・互いの作品のよいところを見付け、そう感じた理由を明確にして表現のよさや面白さを伝え合う。	 <div data-bbox="603 454 676 528" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">鑑賞関①</div>		 <div data-bbox="847 488 920 528" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">鑑②</div>	<p>鑑賞・関① 鑑賞への関心をもっているかどうかを相互鑑賞の活動や話し合いの様子から見取り、鑑賞への意欲が高まらない児童へは鑑賞の視点などをアドバイスする。 【造形への関心・意欲・態度】 (行動の観察, 対話)</p> <p>鑑② 自分たちの作品の形や色など造形的なよさや面白さなどについて感じたことや思ったことを話し合わせ、表現のよさを感じ取れているかを見取る。 【鑑賞の能力】 (ワークシートの記述, 対話)</p> <div data-bbox="608 622 1461 931" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">言語活動を通して高める鑑賞の能力</p> <p>「鑑賞の能力」は、感じたことや思ったことを話したり書いたり、友人と話し合ったりするなど言語活動を通して高めていくことができます。自分たちの作品を相互に鑑賞する活動では、表面的に作品を見させるだけでなく、形や色、イメージなどの【共通事項】の視点を意識して見させることが大切です。本題材では、お互いの作品のよいところを見付け、【共通事項】を手がかりに具体的な表現のよさや面白さを伝え合うなどして、作品を見る視点が見つめるよう工夫しています。</p> </div>
---	--	---	--	---	--

5 本時案（第二次 第1時）

(1) 本時の目標

見付けた場所の形や色などの面白さや特徴などから描きたいものを思いつき、自分のイメージや表したい感じに沿って、自分らしい表し方を構想する。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	学習評価
1 本時のめあてをつかむ。	○本時のめあてを伝えるとともに、前時の学習活動の成果を称賛し、意欲と見通しをもって本時の学習に取り組めるようにする。	
お気に入りの写真の特徴から発想して、面白い「そのぼ」くんを考えよう		
2 様々な写真の中から絵に表したいお気に入りの写真を選ぶ。	<div data-bbox="459 1435 1123 1686" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Point2 ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること</p> <p>○画像コーナーを設け、友達と自由に作品を見合い、一人一人が思いついたことを自由に出し合うことで想いを広げたり、作品づくりのイメージを膨らませたりできるようにする。</p> </div>	<div data-bbox="1142 1435 1449 1686" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Point1</p> <p>【共通事項】の視点で児童の姿を具体的に捉えること</p> </div>
3 選んだ写真を基に発想や構想を広げる。	<p>○選んだ写真をA4用紙の様々な場所に配置したり配置を変えたりさせながら、発想や構想を広げることができるようにする。</p> <p>○画像コーナーは、必要なときにいつでも写真が選べるようにしておく。</p> <p>○何枚もアイデアスケッチを描けるよう準備するとともに、表しながら構図を考え直すことができるようにする。</p> <p>○写真から何かに見立てている児童の想いを共感的に称賛し、意欲を高める。</p>	<div data-bbox="1142 1686 1449 2072" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○見付けた場所の形や色などの面白さや特徴などから描きたいものを思いつき、自分のイメージや表したい感じに沿って自分らしい表し方を構想している。</p> <p>【発想や構想の能力】 (行動の観察, 対話, アイデアスケッチ, ワークシート)</p> </div>

<p>言語活動を活用したワークシートの工夫</p>	<p>○選んだ写真をA4用紙に配置し、絵に表していく活動が進みつつあるところで「表したいこと」と「表したい感じ」「表現方法」などを書き込めるワークシートを配付し、言葉で端的に表し、より明確にイメージをもつことができるようにする。</p>	
	<p>○ただし、発想や構想が次々と連続する過程であることを考慮し、後でつくり変えてもよいことを伝えておく。</p>	<p>ワークシートの例</p>
<p>Point2 ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること</p>	<p>○発想や構想の途中で、友人のアイデアスケッチを見る時間を設定し、一人一人が思いついたことを自由に出し合うことでお互いに発想や構想を刺激し合いながら造形活動が行えるようにする。</p>	<p>Point1 〔共通事項〕の視点で児童の姿を具体的に捉えること</p>
<p>4 学習を振り返る。</p>	<p>○形や色に関する気付きや写真を生かした発想の試みなど、感覚を生かしながら自分らしい発想で工夫している児童の活動の様子などを共感的に称賛する。</p> <p>○発想が停滞している児童には、表したいことや表したい感じを簡潔に話すことで自分の思いを確かめることができるようにする。</p> <p>○自己評価カードに本時のまとめを記入させる。</p> <p>○発想や構想がある程度膨らんできた段階で四つ切り画用紙に表す活動に入ることを伝える。</p>	

6 指導と評価の実際

(1) 「おおむね満足できる」状況（B）以上と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆選んだ写真を配置したり絵に表したりしていく中で、その児童なりに形や色、イメージなど〔共通事項〕の視点などで捉え、面白い感じを思いついている姿を「おおむね満足できる」状況（B）として主に観察や対話、作品などから捉えました（図1、2）。
- ◆本時の活動で見取る評価の観点には、「発想や構想の能力」が中心であり、これは「創造的な技能」との関連の中で評価していくことが大切です。したがって、本時での評価は「おおむね満足できる状況」（B）以上とし、次時からの授業も含めたある程度の期間の中で児童の質的な高まりを継続的に見取っていくようにします。



図1 はさみで画像を切る児童

はさみで画像を切り始めた児童は、場所の形や色の造形的な特徴を思いつき、自分の描きたい「そのば」くんのイメージが少しずつもてている状況です。

切り取った写真をアイデアスケッチの紙の上に置いて、配置や大きさなど、自分の表したい感じにするために構想を練っている姿であり「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。



図2 構想を練る児童

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

◆「おおむね満足できる」状況（B）から、「主体的」「継続的」「総合的」などのキーワードを基に質的な高まりが捉えられた状況を、「十分満足できる」状況（A）と判断し、見取るようにしました。例えば、この児童は、配電盤の下部に「顔」に見える形を見付け、撮影したものを上下逆にして、その四角い形からロボットをイメージし、上を向いている感じから手を上に上げて作業しているデザインを考えました。形の特徴に着目し、多様な視点から総合的に考え、豊かな発想力を発揮した姿としてAと評価しました（図3～5）。



図3 撮影の様子



図4 撮影された画像



四角い形から「ロボットにしようかな…」上を向いている形を見付け「手を上げて作業しているようにしましょう」



図5 完成作品「ゆかいなロボットコンテスト（部分）」

(3) 「努力を要する」状況（C）が生じないように行った支援

《具体的な支援》

◆本時の「発想や構想の能力」の観点では「努力を要する」状況（C）と判断する児童がいませんでした。これは、授業者が、
①児童の予想されるつまずきや悩みをしっかりと予測し、画像コーナーで友達と自由に見合いながら想いを広げる場面を設定していた。
②アイデアスケッチを互いに見合っって友達の発想に触れさせる場面を設定していた。
③いきなり絵を考えさせずワークシートを準備し文字で考えさせていた。
など、深い教材研究に基づいた配慮が十分行われていたからです（図6、7）。



図6 画像コーナーの様子

友人と写真を見て話をしているといろいろなアイデアが湧いてくる。表したい思いをしっかりともてるようにするため、画像コーナーは一か所で話し合いが自然とできる環境がつけられています。

発想の段階でつまずきの見られる児童が予測される場合は、短時間でも友達のアイデアに触れる時間を設定してみましょう。



図7 アイデア交流の様子

3 今後の学習評価に向けて

本実践のすばらしさは、〔共通事項〕の視点を生かした十分な児童理解にありました。表現の活動では、できあがりつつある作品や完成した作品ばかりから見取るだけでなく、形や色、材料などに関わりながら、常に自分の資質や能力を発揮している児童の動きや姿に注目し、これらを的確に捉えて評価し、助言、示唆などの指導を行っています。児童の作品をデジタルカメラやVTRで録画したり、アイデア表などの学習カードを有効に活用したりするなどし、活動の理由やその成果を分析的に確かめてみると、今後の指導や評価のポイントが見えてくるでしょう。



1 学習評価のポイント

家庭科においては、従来、「生活の技能」の中に位置付けられていた「表現」が「生活を創意工夫する能力」への位置付けとなりました。「生活を創意工夫する能力」の観点では、家庭科で学習したことを基に近隣の人々や身近な環境との関わりを考え、家庭生活について見直しているか、習得した知識や技能を活用して課題の解決を目指して考えたり工夫したりしているかなどについて評価します。家庭科では主体的に生活を営む能力を育てるために問題解決的な学習を重視していることから、結果だけから評価するのではなく、課題の解決を目指して、いろいろと考えてよい方法を得ようと自分なりに工夫している過程を含めて評価することが重要です。また、「生活を創意工夫する能力」に係る学習評価は、言語活動を中心とした「表現」に係る活動等を通じて行うことが明確にされました。家庭科の言語活動では、衣食住などの生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表等を用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮します。



2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第5学年「作っておいしく食べよう『ごはんのみそ汁』」の実践事例を基に、「生活を創意工夫する能力」の評価と言語活動との一体化を図るために、どのように言語活動を設定し、その活動からどのようにして学習評価を行うのかについて示します。

1 題材名 作っておいしく食べよう「ごはんのみそ汁」（第5学年）

2 目標

- ・日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心を持ち、調理しようとする。
〔家庭生活への関心・意欲・態度〕
- ・おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりする。
〔生活を創意工夫する能力〕
- ・米飯及びみそ汁の調理ができる。
〔生活の技能〕
- ・米飯及びみそ汁の栄養的な特徴や調理の仕方について理解する。
〔家庭生活についての知識・理解〕

3 評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
・日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心を持ち、調理しようとしている。	・おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	・米飯及びみそ汁の調理ができる。	・米飯及びみそ汁の栄養的な特徴や調理の仕方について理解している。

4 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法			
			家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
一	1	<p>毎日の食事について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 一週間分の食事調べの結果を想起する。 日本の伝統的な日常食の組み合わせを知る（米飯とみそ汁とおかず）。 米飯とみそ汁の「食の歴史」や「米やみその栄養やよさ」を聞いたり考えたりする。 だし（かつおと昆布、煮干し、顆粒風味調味料、しょうゆと塩のみ）の試飲や米（白米、玄米）の試食をする。 <p>（※課外：家庭で米飯の炊き方やみそ汁の作り方について取材する（「わが家の〇〇ウォッチング」。）</p> <p style="text-align: center;">【栄養教諭とのTT】</p>	<p>米飯とみそ汁を中心とした日本の伝統的な日常食に関心をもっている。</p> <p>行動の様子 ワークシートの記述</p>			<p>日本の伝統的な日常食のよさを理解している。</p> <p>ワークシートの記述</p>
二	1	<p>ごはんを試したいてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 二人組で、透明な1Lガラス鍋を用いて米飯を炊いて、基本的な炊き方を知る。 【試し炊き①】 困ったことや課題を出し合い、洗い方、水加減、吸水時間、加熱時間、火加減などに整理する。 	<p>*【試し炊き①】では、炊飯方法を理解することを重視し、固い米が柔らかい米飯に変化することをガラス鍋で確かめ、自分なりの課題をつかむようにします。</p>	<p>米飯の調理ができる。</p> <p>行動の様子 ワークシートの記述</p>	<p>米飯の調理の仕方について理解している。</p> <p>ワークシートの記述 ペーパーテストの記述</p>	
	2					
	3	<p>米からごはんへ変わる様子を観察しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自、無色透明の300mLビーカーを用いて米飯を炊き、米から米飯へ変わっていく様子を観察する。 【試し炊き②】 時間の経過とともに、米の動きや米が米飯に変わっていく様子、ビーカーの中の水分の変化などについて話し合う。 次時にはどのような米飯を炊きたいか（固さ・おこげの有無などの視点）、また、好みの米飯にするための工夫を考える。 	<p>米飯の炊き方やおいしさに関心を持ち、調理しようとしている。</p> <p>行動の様子 ワークシートの記述 記録表の記述</p> <p>※第1～5時で適切な評価場面を設定するようにします。</p>	<p>自分なりの課題をもち、おいしい米飯を炊こうと工夫している。</p> <p>記録表の記述 発言の内容</p>	<p style="text-align: center;">指導に生かす評価</p>	<p>米の変化の様子から、炊飯の過程を理解している。</p> <p>記録表の記述 ワークシートの記述</p>
4						
	5	<p>好みのごはんをたいてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 二人組で透明な1Lガラス鍋を用いて米飯を炊く。 【試し炊き③】 好みの米飯にするための水の量り方について話し合う。 炊飯の結果を基に、水加減や火加減との関係を確認する。 		<p>好みの米飯を炊くために、自分なりに工夫している。</p> <p>行動の様子 ワークシートの記述</p>	<p>米飯の炊き方には、水加減や火加減などが関係することを理解している。</p> <p>発言の内容 ワークシートの記述</p>	
三	1	<p>ねぎと油揚げのみそ汁を作ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わが家のみそ汁ウォッチング」 	<p>みその特質やみそ汁のおいしさ</p>		<p>みそ汁の調理ができる。</p>	<p>みそ汁の調理の仕方について理</p>

2	<p>で気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みそ汁の作り方を知り、計画を立て、みそ汁を作る。【試し作り】 ・試食をし、実（ねぎと油揚げ）に合ったみそ汁の作り方をまとめる。 ・だし汁、みそ汁（実なし）、だし入りみそ汁（実なし）、だしと実入りみそ汁の飲み比べをする。 ・みその特質やだしなどについて知り、おいしさの秘密について考える。【栄養教諭とのTT】 	<p>に関心をもって いる。</p> <p>行動の様子 ワークシートの記述</p>		<p>行動の様子 ワークシートの記述</p> <p style="text-align: center;">↑ 指導に生 かす評価</p>	<p>解している。</p> <p>ワークシートの記述 ペーパーテストの記述</p>
3	<p>おいしいごはんのみそ汁の調理計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実の取り合わせ方のポイントを話し合うことを通して、栄養のバランスなどを考えたみそ汁を考える。 ・選んだ実に合った入れる順序を考え、調理計画を立てる。 	<p>栄養のバランス や手順などを考 え、調理計画を 自分なりに工夫 している。</p> <p>行動の様子 計画表の記述</p>			<p>栄養のバランス や旬を考えた、 みそ汁の実の選 び方について理 解している。</p> <p>計画表の記述</p>
4 5	<p>ごはんのみそ汁を作っておいしく食べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に従って、米飯のみそ汁を作る（準備・調理・配膳・試食・後片付け・振り返り）。 ・実習して分かったことや、試食しての感想を話し合う。 <p>（※課外：「授業で実習したこと」「わが家の作り方」「自分の工夫」の三つを踏まえ、米飯のみそ汁作りにチャレンジし、家族からメッセージをもらう。）</p>	<p>おいしい米飯と みそ汁の作り方 について工夫し ている。</p> <p>行動の様子 ワークシートの記述</p>	<p>安全や衛生に気 を付けて、米飯 のみそ汁の調理 ができる。</p> <p>行動の様子 ワークシートの記述</p>	<p style="text-align: center;">← 評価結果 として記録 する評価</p>	
<p>*学んだことを日常生活で生かすことができるよう、家庭実践を取り入れま す。なお、家庭実践の評価については、教師が直接見取ることができる「生 活の技能」以外の観点で評価します。</p>					
四	<p>家族のために作ったごはんのみそ汁を紹介しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のために作った米飯のみそ汁を紹介し合い、これからの食生活について自分がどう関わっていくか話し合う。 	<p>学んだことを生 かし、食生活を よりよくするた めに調理しよう としている。</p> <p>学習カードの記述 発表の内容</p>			

Point1

問題解決的な学習の過程で「創意工夫」させること

「生活を創意工夫する能力」の評価については、家庭科では問題解決的な学習を重視することから、児童一人一人が自分の課題をもてるようにし、その課題に沿って実践的、体験的な活動をすることで意欲的に課題解決に取り組み、実感として捉えることができるような学習を充実させることが重要です。学習の進め方として、計画・実践・評価・改善などの一連の学習過程を適切に組み立て、児童が段階を追って学習を深めることができるよう配慮します。

Point2

言語活動を位置付けて評価すること

「生活を創意工夫する能力」の評価では、言語活動を中心とした「表現」に係る活動等を通して評価することに留意する必要があることから、実践的、体験的な活動の前後の言語活動を工夫したり、考えた過程が把握できるワークシートや調理計画表、実習記録表などの記入欄を工夫したりすることが大切です。

5 本時案（第二次 第5時）

(1) 本時の目標

- ・好みの米飯を炊くために、自分なりに工夫することができる。
- ・米飯の炊き方には、水加減や火加減などが関係することを理解する。

(2) 展開

学習活動	教師の支援	学習評価
1 学習のめあてを確認する。	○前時までの試し炊きで分かったことや、本時にどんな米飯を炊きたいのか自分たちの願いや理由を発表することで、本時のめあてにつなげる。	
おなべでチャレンジ！好みのご飯をたいてみよう。		
2 二人組で透明な1Lガラス鍋を用いて米飯を炊く。【試し炊き③】	○ペアの相手と自分の作業や観察したことを言葉で伝え合うことで、計画通りに炊くための作業手順や意図をはっきりさせ合うことができるようにする。	○好みの米飯を炊くために、自分なりに工夫している。 〔生活を創意工夫する能力〕 (行動の様子、ワークシートの記述)
<p>Point1 問題解決的な学習の過程で「創意工夫」させること</p> <p>【試し炊き③】は、「たいてみたい好みのごはん（固さ・おこげの有無など）」にするために、あらかじめ、水加減、加熱時間、火加減、その他の「作戦」を立て、児童が自分なりの工夫ができるようにします。</p> <p>○早めに炊き終わり、蒸らしの時間に入った児童は、炊飯の様子をワークシートに記入したり、意見交換をしたりして、自分たちの炊き方を振り返ることができるようにする。</p>		
<p>Point2 言語活動を位置付けて評価すること</p> <p>考えた過程が把握できるよう、ワークシートの記入欄を工夫し、評価するようにします（図1：矢印 → の部分）。</p>		
3 好みの米飯にするための水の量り方について話し合う。	○米の重さを基にする方法、米の体積を基にする方法、その他の方法があることを確認させる。	
4 試食を行い、炊飯の結果を基に、水加減や火加減との関係を確認する。	○正確さや簡単さなどの観点から、それぞれの方法の長所や短所を考えることができるようにする。	
5 学習のまとめをする。	○米飯の味や固さだけでなく、臭い、見た目など五感を使った発言を称揚することにより、感性を高めさせる。	
	○米飯の固さと水加減、おこげの有無と火加減などの関係を話し合うことで、おいしく米飯を炊くためには、水加減と火加減が関係していることを確認する。	○米飯の炊き方には、水加減や火加減などが関係することを理解している。 〔家庭生活についての知識・理解〕 (発言の内容、ワークシートの記述)
	○第二次の学習を振り返り、分かったことや感想、これから生かしたいことなどを発表させることで、本時のまとめとする。	
	○次時は、米飯に合うみそ汁を作ることを伝え、実習への意欲や期待につなぐ。	

家の人も依頼書もびっくり！
おなべでチャレンジ！ごはんたき名人になろう
()組 ()番 ()
◆わが家のごはん紹介 ◆こうなりたい・こうしたい…

ごはんの固さ	おこげ	試しだけ	その他	月 日
ごはんの味				
使う物				
米 2人分 120g (mL)		水 g (mL)		
作戦				
蒸らしの時間				
生かしたいこと				

図1 ワークシート（本時）

(3) 板書計画

④ おなべでチャレンジ! 好みのごはんをたいてみよう

■たぐ前■

水加減
水を加える
加熱する(火)
火加減

■たいた後■

水の量り方

重さ	体積
米 120 g	150 mL
水 180 g	180 mL
米と水の合計	300 g 330 mL

はかり
計量カップ
その他

洗った米
300gまでの水

指の関節
手首までの量

長所	○正確	○正確	○楽	○道具不必要
短所	△道具	△目盛	△正確	△正確

気付いたこと

水分の変化
米の変化
米の動き

水加減
火加減

これからの生活で生かしたいこと

・さっそく家で水加減を工夫してたいてみよう
・次は、火加減を工夫しておこげを作りたいな

■配ぜんの例■

※写真及びイラストは、「小学校 私たちの家庭科 5・6」開隆堂出版株式会社(2005)のものを使用しています。

6 指導と評価の実際

(1) 「おおむね満足できる」状況(B)と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆本時の学習では、水加減や火加減、その他の工夫などを行うことで好みの米飯を炊くことができます。多様な工夫を行うのではなく、炊飯の基礎である水加減と火加減に焦点を絞りながら考えることを求めています。したがって、判断の目安を水加減や火加減について自分なりに考え、具体的に表現しているかどうかということにしました(図2)。
- ◆好みの米飯を炊くために水加減と火加減について「作戦」を立てていましたが、実際の炊飯のときに水加減を多くすることができなかつた場合でも、火加減についての記述ができていたので「おおむね満足できる」状況(B)と判断しました(図3)。

私は、せんべいよりもやわらかいおこげをたきたかったんだけど火の調節がむずかしくてせんべいよりもかたくなってしまったので、火の調節は気をつけようと思いました

図2 「おおむね満足できる」状況(B)と判断した児童の記述例1

中火を長くしても、おこげはつかないから次つくる時は、弱火を長くしようと思った。水を多くするのをあきらめたので、長火をつけたいし、いいない。

図3 「おおむね満足できる」状況(B)と判断した児童の記述例2

(2) 「十分満足できる」状況(A)と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆「十分満足できる」状況(A)の判断の目安として、次の2点が捉えられているかで判断しました。
 - ・これまでの炊飯の試し炊きで出た課題や失敗体験などを生かした気づきをしていること(図4)。
 - ・好みの米飯を炊くために、次に生かしたいことを三つ以上、自分なりに考え、具体的に表現していること(図5)。

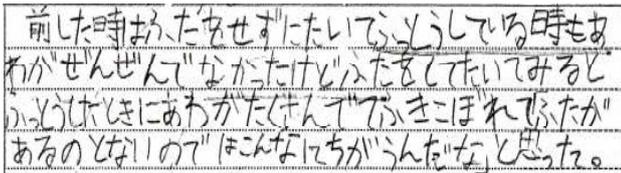


図4 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の記述例1

この児童は【試し炊き②】で、自分の好みの米飯（ちょっと固め、おこげあり）を炊くための工夫として「ふたをせずにごはんをたく」ことを試しました。その経験を生かした気付きが表現されています。

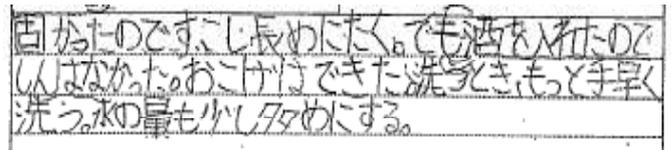


図5 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の記述例2

この児童は、固めでもちもちした、おこげが少しある米飯を炊くことを目指しました。自分の好みどおりの米飯にならなかったため、次に生かしたいことを自分なりに考え、具体的に表現しています。

(3) 「努力を要する」状況（C）が生じないように行った支援

《具体的な支援》

◆本時の「生活を創意工夫する能力」の観点では「努力を要する」状況（C）と判断する児童はいませんでした。これは、事前に2回の【試し炊き】を行うことで、炊きたい米飯について具体的に考える活動が十分に行われていたことと（図6）、本時の調理実習の場面において、計画通りに炊くための作業手順や意図をはっきりさせ合うために、ペアの相手と自分の作業や観察したことを言葉で伝え合うようにしたからです（図7）。

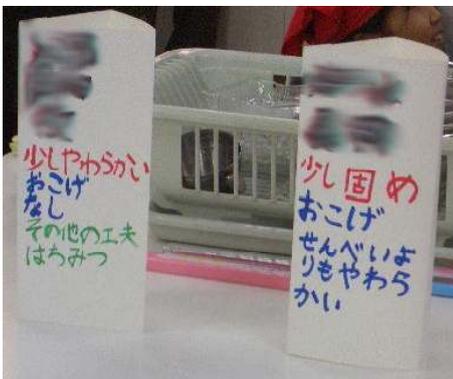


図6 児童が考えた「たいてみたい好みのごはん」

本時では、炊きたい米飯の「固さの程度、おこげの有無、その他の工夫」について、一目で分かるよう調理台の上に示しました。



図7 言葉で説明し合う児童の様子

調理実習の際には、自分の行う作業手順やその意図などを相手に言葉で説明し合うようにします。目的をもって観察したり、触れたり、味わったりするなどの実践的、体験的な活動を行うことによって、様々な驚きや感動とともに、一つ一つの言葉が児童自身の生活の中で生きた言葉へと変化すると考えられます。

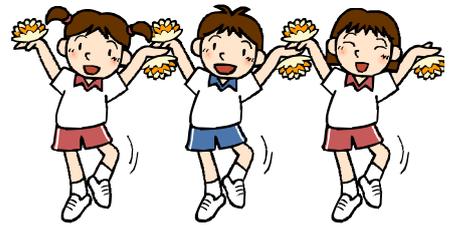
3 今後の学習評価に向けて

今回の実践では、自分の課題について体験を通して解決できることを目指しました。児童の記述を中心に評価を行いましたが、児童の書く能力も関係するので、書く時間の十分な確保と、書く内容の的確な指示が重要になってきます。また、行動の様子や発言の内容などによる評価では、短時間で見取ることができるよう、評価のポイントを基にチェックリストを作成したり、座席表を活用したりするなど、記録の方法を工夫する必要があります。



1 学習評価のポイント

体育科の「運動についての思考・判断」の観点においては、思考・判断した結果としての表現が運動の場づくりや練習方法の工夫などの場面で多く見られるということから、「思考・判断」の中に「表現」を含んでいることを考慮して評価することが大切です。



また、表現運動の内容に示されている、「運動の楽しさや喜びに触れ、表したい感じを表現」における「表現」は、体育科における指導内容の「技能」を指すもので、「運動の技能」の観点で評価します。

2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、第6学年「体力を高める運動」（体づくり運動）の実践事例を通して、「表現」を含む「思考・判断」について、どのように学習評価を行うのかについて示します。

1 単元名 体力を高める運動（第6学年）

2 目標

- ・体の柔らかさ及び巧みな動きを高める運動，力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動を行い，体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに体力を高めることができる。〔運動〕
- ・運動に進んで取り組み，助け合って運動をしたり，場や用具の安全に気を配ったりすることができる。〔態度〕
- ・自己の体の状態や体力に応じて，運動の行い方を工夫することができる。〔思考・判断〕

3 評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わったり，自分の体力に応じて体力を高めたりすることができるよう，体づくり運動に進んで取り組もうとしている。 ・約束を守り，仲間と助け合って運動をしようとしている。 ・用具の準備や片付けで，分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整備したり，用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を高める運動のねらいや行い方を知っている。 ・自分の体力に合った運動の行い方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の柔らかさを高めるための運動のねらいに合った動きができる。 ・巧みな動きを高めるための運動のねらいにあった動きができる。

4 指導と評価の計画（全5時間）

時	主なねらい・学習活動	評価規準及び評価方法		
		運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能
1	① オリエンテーションをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習の進め方を知り，学習の見通しをもとう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の使い方や約束の確認をする。 ② 体力を高める運動に取り組む。 ③ 振り返り・片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの活用の仕方についての確認をする。 	運動をする場を整備したり，用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 （行動の様子）	体力を高める運動のねらいや行い方を知っている。 （行動の様子，学習カードの記述）	
2	① 場や用具の準備をする。 ② 準備運動をする。 ③ 学習の進め方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 体力を高める運動に取り組み，自分の体力に応じて，運動の行い方を工夫しよう。 </div>	約束を守り，仲間と助け合って運動しようとしている。 （行動の様子，学習カードの記述）		巧みな動きを高めるための運動のねらいにあった動きができる。 （行動の様子，学習カードの記述）
3 本 時	④ 体力を高める運動をする。 《巧みな動きを高める運動》 バランスボード ボールポジションチェンジ ワンバウンドゴルフ ロープチャレンジ ⑤ 振り返り・片付けをする。		自分の体力に合った運動の行い方を選んでいる。 （行動の様子，学習カードの記述）	
4	① 場や用具の準備をする。 ② 準備運動をする。 ③ 学習の進め方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分の体力に応じて，動きの条件を変えて運動に取り組もう。 ○速さやリズム ○姿勢や方向 ○競争やゲーム </div>	体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるよう進んで取り組もうとしている。 （行動の様子，学習カードの記述）	体育科においては，2学年ごとのまとまりで指導内容が示されています。体づくり運動については全ての学年において指導することになっているので，2学年にわたり指導する場合には，それぞれの学年における指導内容や評価規準を整理し「指導と評価の計画」に基づき，授業を行っていくことが大切です。第5学年の「運動についての思考・判断」においては，体力を高める運動のねらいと行い方を身に付けることを中心に計画しています。	
5	④ 体力を高める運動をする。 《体の柔らかさを高める運動》 ⑤ 振り返り・片付けをする。			

※第2，3時，第4，5時は，①から⑤の学習活動をそれぞれ繰り返し行うこととする。

Point1

課題解決に向けた取り組みを評価する

「運動についての思考・判断」の評価では、「運動への関心・意欲・態度」「運動の技能」とともに、各運動領域の学習において学習目標を明確化することが大切です。その上で、運動の正しい行い方を身に付けるために、運動する場や練習方法を選んだり、動きのこつを見付けたり、ゲームのルールを工夫したりしようとしている個人やペア、グループでの課題解決に向けた取り組みを評価します。そのためには、教師がボールの大きさや数を変えたり、複数の運動を組み合わせたたりして、児童が課題解決に向け、試行錯誤が可能になる場の設定をする必要があります。

Point2

「運動についての思考・判断」の評価方法を工夫する

評価方法の例として、①学習カードの活用、②授業時の観察、③聞き取りなどがありますが、それぞれが同等な扱いではなく、①の学習カードへの記述や②の授業時の観察に重きを置きながら評価し、必要な場合には、③の聞き取りなどを行います。特に「努力を要する」状況（C）と判断した児童には、「どのように工夫しているか」「なぜその運動を選んだか」などを聞き取りながら、助言や補助などの適切な支援をする必要があります。

5 本時案（第3時）

(1) 本時の目標

自分の体力に合った運動の行い方を選ぶことができる。

(2) 展開

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・学習評価（☆）										
1 場や用具の準備をする。	○グループで役割を分担し、協力して準備をさせる。										
2 体ほぐしの運動をする。	○仲間と交流し、運動への意欲が高まるよう、テンポよく運動を変えていく。 ○BGMをかけ、リラックスした状態で運動できるようにする。										
3 学習の進め方を知る。	○四つの運動の基本的な行い方を知らせる（図1）。 ○各種目における体力の要素を次の表によって知らせる。										
<table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th>種目</th> <th>体力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①バランスボード</td> <td>バランス</td> </tr> <tr> <td>②ボールポジションチェンジ</td> <td>タイミング</td> </tr> <tr> <td>③ワンバウンドゴルフ</td> <td>調整</td> </tr> <tr> <td>④ロープチャレンジ</td> <td>リズム</td> </tr> </tbody> </table>		種目	体力	①バランスボード	バランス	②ボールポジションチェンジ	タイミング	③ワンバウンドゴルフ	調整	④ロープチャレンジ	リズム
種目	体力										
①バランスボード	バランス										
②ボールポジションチェンジ	タイミング										
③ワンバウンドゴルフ	調整										
④ロープチャレンジ	リズム										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 体力アップ大作戦 ～自分の体力にあった運動の行い方を選ぼう～ </div>											
4 体力を高める運動をする。	○グループごとにローテーションして行うようにする。										
5 体への気付きについて感想を出し合う。	○児童の感想を聞くことにより、自己の体の状態や体力について意識できるようにする。 ○四つの運動をしてみて気付いたことと自分の体の状態・体力とを結び付けて考えるよう助言し、学習カードに記入させる。										
6 体力を高める運動に取り組む。	○動きの工夫や用具の使い方の視点を提示し、自分の体力に合った運動の行い方を選ぶことができるようにする。										

Point1

課題解決に向けた取り組みを評価する

運動の行い方を工夫できるように、運動する場や練習方法の提示等、児童が課題解決に向け、十分に行い方などを工夫できる授業をつくる必要があります。例えば、②ワンバウンドゴルフでは、壁までの距離を複数の線で示し、児童が場を選ぶことができるようにします。

☆自分の体力に合った運動の行い方を選んでいる。

[運動についての思考・判断]
(行動の様子, 学習カードの記述)

Point2

「運動についての思考・判断」の評価方法を工夫する

本単元では次の評価の工夫を行います。

- ・運動を選ぶ場所に学習カードを設置し、児童が記述しやすいようにした上で、学習カードを評価に活用する。
- ・課題解決に向けた取り組みが十分にできていない児童には、共感的に寄り添い、児童の気持ちを聞き取り、適切な支援を継続する。

7 振り返りをする。

- 運動を行った感想を基に、自分の体や今後高めていきたい体力について考えるように助言する。
- 学習カードに記入させる。

① バランスボード

前を見ながら両手を広げてバランスを取る。



② ボールポジションチェンジ

みんなで声をそろえてタイミングを合わせる。



③ ワンバウンドゴルフ

壁に当てる強さ、角度を調節する。



④ ロープチャレンジ

1本の縄の回転を見てリズムカルに跳ぶ。



図1 四つの運動の基本的な行い方

6 指導と評価の実際

(1) 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆ 運動のねらいにあった動きができたかどうかは、「運動の技能」で評価する内容であり、ここでは、運動が上手にできていない場合でも、自分の体力に合った運動を適切に選び、その内容を学習カードに記述していれば、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

A児は、①～④の運動をしてみたところ、特に、③ワンバウンドゴルフについては、最初は的に5回中1回しか入らず、この種目を難しく感じているようでした。そこで、A児は、壁までの距離をこれまでの6mから1m短くし、5mにしました。すると、5回中3回まで入るようになり、満足した表情を浮かべていました。活動後のA児の学習カードにも「初めは、うまく的に入らなかったのですが、壁までの距離を変えてやってみると的に入りやすかった」という記述があり、自分の体力に合った運動の行い方を適切に選べたことに手応えを感じている様子がうかがえました。以上のことから「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました（図2）。



図2 壁までの距離を変えているA児

B児は、図3の学習カードの上半分に見られるようにバランスボードはうまくできませんでした。②ボールポジションチェンジはうまくでき、更にレベルの高い内容に取り組んでいました。その後もB児は活動を続け、授業の終末には、学習カードの下半分に見られるような内容を記述していました。このように自分の課題とする体力に合った運動の行い方を適切に選び、その内容を記述していたことから「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

バランスよく	
バランスボード	ボードにのろう。何秒？ 姿勢は？
気付いたこと・感想 バランスボードには、2秒ぐらいしか乗ることができませんでした。	
タイミングよく	
ボールポジションチェンジ	位置を変えよう。距離は？ タイミングは？ 人数は？
気付いたこと・感想 3人ならできたけど、5人だと全員ができるまでに時間がかかりました。	
○ 振り返り わかったこと、次がんばることを書きましょう。	
自分はバランスがあまりないけど、タイミングをとったり、体の力を調節するのうまいとわかった。次は、バランスをとりまわす。	

図3 B児の学習カード

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆ 「おおむね満足できる」状況（B）に加え、その具体的な改善策を学習カードに記述していれば、「十分満足できる」状況（A）と判断しました。

C児は、学習カードの振り返りの欄に次の下線に示すような具体的改善策を記述していたので、「十分満足できる」状況（A）と判断しました（図4）。

○ 振り返り わかったこと、次がんばることを書きましょう。
バランスボードは、立つのがむずかしかったです。でもうまくできている友達を見てわたしは足のはばがせまいことに気がつきました。だから次からは、 <u>足のはばを</u> <u>はばより小さくして、それからバランスをとるために両手を横に広げてやってみよう</u> <u>ます。</u>

図4 C児の学習カード

(3) 「努力を要する」状況（C）と判断した児童に対して行った支援

《具体的な支援》

- ◆ 「努力を要する」状況（C）になると判断した児童に対して、次の支援が考えられます。
 - ・ 自分の体力に合う運動の目標や具体的なポイントを提示し、運動の行い方を選ばせる。
 - ・ ペア学習を活用し、友達同士で気付きを交流し合わせるようにする。
 - ・ 行動の様子が観察できないところは、学習カードの記述を基に、当該児童が課題にしているところを把握した上で支援を行う。

バランスボードが上手くできなかったD児は、特に運動の行い方を工夫することなくうまくいかないことを繰り返していました。

そこで、教師は、D児に、「他の人のやり方を見て、うまくいく方法を考えてみたらいいよ」とアドバイスをしました。

さらに、同じ種目に取り組み、運動の行い方を工夫することができていたE児にも声をかけて、D児とペアで学習することを勧めました。その後、D児は、「ボードの下にボールを二つ入れてみよう」というE児の提案により、それを受けて活動したところ、今までできなかったバランスボードができるようになりました。D児は、「こんなふうになればできるんだ」と気付きをE児に話しました。授業後のD児の学習カードを確認したところ「Fさんから足の置き方も教わって、ボール1個でもうまくできるようになりました」と記述していたため、D児を呼んで、大いに称賛しました。今回の実践では、D児は授業時間内に目標を達成することができました。時間内に目標に達しなかった場合には、それ以降の授業での指導の手だてを考え、適切な指導をしていくことが大切です。

3 今後の学習評価に向けて

今回の実践では、自分の体力に合った運動の行い方を選ぶことを目指しました。個人の学習カードの記述を中心に評価を行いました。学習する運動領域の内容によっては、グループ用学習カードを利用することも有効な手だてとなります。その場合も、個人の課題が記述できるようにカードを工夫すると、例えば、ボール運動系の領域においては、グループの作戦に対する個人の思いやグループの中での関わりなどが見え、教師が評価をする際にも有効です。また、評価を行う上で、運動領域において「運動の技能」の観点を中心に評価を行う傾向がありますが、学習指導要領を理解し、2学年ごとのまとまりの中で、いつ、何を指導するのかの指導計画を明確にし、「運動についての思考・判断」「運動への関心・意欲・態度」とともに3観点（表）でバランスよく評価することが大切です。保健領域における評価の観点についても同様で、「健康・安全についての知識・理解」の観点だけで評価するのではないこと留意する必要があります。

表 体育科の評価の観点

運動領域	運動への関心・意欲・態度 (指導内容の「(2)態度」に対応)	運動についての思考・判断 (指導内容の「(3)思考・判断」に対応)	運動の技能 (指導内容の「(1)技能」に対応)	
保健領域	健康・安全への関心・意欲・態度	健康・安全についての思考・判断		健康・安全についての知識・理解



1 学習評価のポイント

外国語活動では、多くの表現を覚えたり、細かい文法事項を理解したりするなどして、外国語の技能そのものの習得を目指しているのではなく、児童が実際に外国語を用いてコミュニケーションを図る体験を通して、言葉で人と関わることの楽しさや大切さに気づき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けることをねらいにしています。

また、最終的な外国語活動の評価に当たっては、学習の状況や成果などについて、設定された観点を基にして、児童にどのような力が付いているかを児童の具体的な姿で記述することが求められています。

したがって、学習評価を効果的に行うためには、児童がコミュニケーション活動を行う中で、相手意識をもってコミュニケーションを図っている様子、その単元で使用する表現を聞いたり話したりしている様子、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方等に気付いている様子を捉えることが大切です。

2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、『英語ノート 1』Lesson 5「いろいろな衣装を知ろう」の実践事例を基に、児童が英語を使用してコミュニケーションを図る場面の工夫を紹介するとともに、その場面での言語活動からどのようにして「外国語への慣れ親しみ」について学習評価を行うのかを示します。また、併せて、この単元での「言語や文化に関する気づき」「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の学習評価の実践事例についても紹介します。

1 単元名 いろいろな衣装を知ろう『英語ノート 1』Lesson 5（第5学年）

2 目標

- ・積極的に英語を使って買物をする楽しさを体験する。
〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕
- ・買物の場面で、店に商品があるのかないのか尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
〔外国語への慣れ親しみ〕
- ・英語を使って、自分の選んだ衣服や好きな服を紹介する表現に慣れ親しむ。
〔外国語への慣れ親しみ〕
- ・世界には様々な衣服があることを知り、英語での言い方の違いに気付く。
〔言語や文化に関する気づき〕

3 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気づき
・コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	・活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	・外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方がることなどに気付いている。

4 指導と評価の計画（全4時間）

時	目標・学習活動	学習評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	<p>世界には様々な衣服があることを知り、その言い方を知る。</p> <p>Greeting 【Let's Listen】：服装に関する英語を聞いて、どのペアの会話か推測する。</p> <p>Chant：バナナじゃなくてbanana♪ Chant：【Let's Chant】Do you have a cap?♪ Activity：『英語ノート』の男女のイラストに着させたい衣服を考え、巻末衣服絵カードを切り取り、それぞれに色を塗って服装をコーディネートする。</p> <p>Greeting：Goodbye Song♪</p>			○ ○	<p>「言語や文化に関する気付き」については、直接的に知識を与えるのではなく、体験的な活動を通して、文化をはじめとする言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方に気付かせる工夫が必要です。ただし、この観点については、児童の内面に起こった変化を把握することになります。児童の中には、気付いてはいるが、その気付きを授業中に発言等で表さず、心の中で思っている児童がいることが想定されるため、発言等の行動の観察に加え、「ふり返しカード」等を効果的に活用する必要があります。「ふり返しカード」に「言語や文化に関する気付き」に関する項目を設け、その項目の記述を丁寧に分析することにより、児童の気付きの有無、気付きの内容等を把握することがポイントです。</p>	
2	<p>自分がコーディネートした服装を紹介する。「ENJOY SHOPPING IN HIRUZEN」の準備をする。</p> <p>Greeting Chant：バナナじゃなくてbanana♪ Chant：【Let's Chant】Do you have a cap?♪ Activity：自分で服装のテーマを決め、テーマに合った服装をコーディネートし、ペアで互いに紹介し合う。</p> <p>【Let's Listen】：英語を聞いて店にあるものを選ぶ。</p> <p>Activity：ペアになり、店員と客の言い方を練習する。</p> <p>Greeting：Goodbye Song♪</p>			○ ○		<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネートのテーマが伝わるように紹介している。 ・英語を使って買物を楽しんでいる。
3 本時	<p>買物の場面で、自分の欲しい物をはっきりと伝えるとともに、相手が気持ちよく買物できるように応答する。</p> <p>Greeting Chant：バナナじゃなくてbanana♪ Chant：【Let's Chant】Do you have a cap?♪ Activity：「ENJOY SHOPPING IN HIRUZEN」店員と客との2グループに分かれ、店員は、衣服カードを机に並べ、客は、店員から自分の欲しい衣服を買い、ワークシートに貼る。</p> <p>Greeting：Goodbye Song♪</p>			○	<p>「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については、授業中の児童の行動の様子によって評価することが基本です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の欲しい物をはっきりと伝え、店に自分の欲しい衣服があるかどうかを尋ねる表現を言っている。 ・相手の質問を聞き、相手が気持ちよく買物できるように応答する表現を言っている。 	<p>行動の様子、発言の内容、ワークシートの記述、「ふり返しカード」の記述</p>
4	<p>コーディネートしたテーマや自分が買った服の種類や色が伝わるように発表する。</p> <p>Greeting Chant：バナナじゃなくてbanana♪ Chant：【Let's Chant】Do you have a cap?♪ 【Let's Listen】：英語を聞いて、買った衣服とその色を線で結ぶ。</p> <p>Activity：自分がコーディネートし購入した服装をショー・アンド・テルでクラスに紹介する。</p>			○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がコーディネートした服装を紹介する表現を言っている。 ・コーディネートのテーマと買った服装をクラスメートに伝わるように工夫して紹介している。 	<p>行動の様子、発言の内容、ワークシートの記述、「ふり返しカード」の記述</p>

(注) 【 】については、『英語ノート』（2009、文部科学省）で扱われている活動をそのまま活用する。

Point

「外国語への慣れ親しみ」の評価

「外国語への慣れ親しみ」の評価に当たっては、言語材料の定着の程度や単語の発音・強勢の正確さ、文のイントネーションの適切さ等の英語の発話としての質を評価の対象にすることは適当ではありません。ペアワーク等を行っている児童の発言の内容や行動の様子を観察することなどによって、児童が当該表現を聞いたり、話したりしていることを確認することがポイントです。ある単元において、コミュニケーション活動を行うために必要な表現を理解し、その単元において使用していれば、慣れ親しんでいると判断します。したがって、「外国語への慣れ親しみ」を評価するためには、当該表現を使ってコミュニケーションを行う活動を授業内に設定する必要があります。

5 本時案（第3時）

(1) 本時の目標

買物の場面で、自分の欲しい物をはっきりと伝えるとともに、相手が気持ちよく買物できるように応答する。

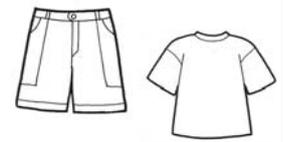
(2) 展開

児童の活動	教師の活動及び指導上の留意点	学習評価等
1 Greeting Hello, I'm good/ fine/hungry/ happy. 2 ウォームアップ It's sunny/ cloudy/ rainy. It's September 28th. It's Wednesday. 3 めあての確認	○クラス全体に挨拶した後、数名の児童と挨拶する。これから授業が始まることを意識させるように、明るく元気よく挨拶する。Hello, how are you? ○カードを見せながら、天気、曜日、日を尋ねる。 How is the weather? What's the date today? What day is it today? ○単語で答えた場合には、It's を付けるように促す。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 衣服を買ったり売ったりして買物を楽しもう。 </div>		
4 Chant バナナじゃなくて banana ♪ Do you have a cap? ♪ 5 Activity 店員と客との2グループに分かれ、店員役の児童は自分の「店」に衣服絵カードを並べ、客役の児童に対応する。客役の児童は「店」を回りながら、前時に自分のテーマに合わせてコーディネートした服装を店員役の児童から購入する。購入できた衣服はワークシートに貼る。 ※このワークシートは第4時にクラスメートに紹介する。	○clear voice を心がけさせる。 ○日本語との発音の違いを意識させ、特に本単元で登場する sweater については、発音の違いを強調する。 ○児童が言いやすくなるように衣服絵カードを指しながらチャンツを言わせる。 ○児童がチャンツに慣れてきたら、衣服の色を変えることにより、飽きずにチャンツが言えるようにする。 「ENJOY SHOPPING IN HIRUZEN」 ○衣服絵カード（それぞれ色分けした T-shirt, sweater, pants, skirt, socks, shoes, cap）を数組準備しておく。 *色の数、衣服の種類については、児童が実際にコーディネートしている服装に使われている色や、それまでに授業で扱った色等を基にする。 ○店員役の児童に衣服絵カードを配る。 *できるだけ多くのクラスメートとの英語でのやりとりを設定するために、「店舗」の品ぞろえを少なくしたり、帽子屋、靴屋等の専門店を設定したりするなどして、1店舗で衣服がそろわないようにしておく。 *「店舗」の数、1店舗の店員の人数、衣服の種類・色については、学級規模、児童が言えるようになっている語、期待している発話回数等を基に設定する。	<div style="text-align: center;">  <p>Chant</p>  <p>服装のコーディネート</p> </div>

○児童とペアになり、店員役、客役をデモンストレーションする。

*デモンストレーションする際、様々な言い方（偉そうに、やる気なさそうに、丁寧に、優しく、無愛想に、小さな声で）でそれぞれの役を言うことで、どのようにすればお互いに気持ちよく買物できるか考えさせる。

*客が求めていたもの、探していたものなどを差し出すときには、Here you are.と云い、言われた方はThank you.と返答することで、人と人との関係は円滑になり、店員も客も気持ちよくやりとりできることを体得させる。



衣服絵カード



開店準備



Tシャツ専門店

【基本ダイアログ】

店員: Hello. May I help you?

客: Hello. Do you have yellow shoes?

店員: Yes, I do. Here you are. →客が求める衣服が店にある場合。

客: Thank you. Do you have a black T-shirt?

店員: No, I don't. I'm sorry. →客が求める衣服が店にない場合。

⋮

客: OK. Thank you. Good-bye.

店員: Thank you. Good-bye.

*「自分のコーディネートした服装を購入する」というコミュニケーションの目的を明示することで、必然性のある場面で英語を話すことを体験させるとともに、児童に活動の見通しをもたせる。

Point

「外国語への慣れ親しみ」の評価



買物の場面で、客と店員が必要な表現を話したり、客の欲しいものを聞いたりしている様子を観察します。その際、例えば、客がジェスチャーしたり、店員がうなずいたりするなどの行動も参考に慣れ親しめているのかどうか判断します。ただし、いずれの場合も、語の発音・強勢の正確さ、文のイントネーションの適切さ等の発話の質は問いません。

①買物を始める。

②役割を交代して、買物を再開する。

6 本時の振り返り
「ふり返りカード」に記入する。

7 挨拶
Goodbye Song ♪を歌う。

○各店舗での買物の様子を見て回り、児童の様子を観察する。

*スムーズにやり取りができない児童には、そばに寄り添い、初めの言葉だけを一緒に言って児童の発話を支援したり、客役の児童の言った衣服と一緒に探したりする。

*全て買い終わった児童には、I like a red cap. Do you like the blue cap? 等と話しかける。

○次時の発表につながるように、声の大きさ、話すスピード、相手の質問に対する適切な応答等、児童の良かった点を具体的に評価する。

○「ふり返りカード」に、分かったことや思ったこと、気付いたことを書かせることで、学習したこと、活動で感じたことが自覚できるようにする。

挨拶をする。
Good-bye. See you.

○自分の欲しい物をはっきりと伝え、店に自分の欲しい衣服があるかどうか尋ねる表現を言っている。

相手の質問を聞き、相手が気持ちよく買物ができるように応答する表現を言っている。

[外国語への慣れ親しみ]

(行動の様子、発言の内容、「ふり返りカード」の記述)

6 指導と評価の実際

(1) 「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる」と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆この観点の評価は、第2～4時で行いました。第3時の「ENJOY SHOPPING IN HIRUZEN」では、児童が、店員や客が使う表現を理解し、それらを使って会話していれば「慣れ親しんでいる」と判断することとし、児童の発言や活動の観察、ワークシートの記述の点検等により、児童が英語を使って行うコミュニケーションの様子を正確に確認することに努めました。
- ◆客として、自分の欲しい物をはっきりと伝え、欲しい衣服が店にあるかどうか尋ねたり、店員として、客の質問を聞いて、適切に対応したりするなど、それぞれの役割の英語を発話していれば慣れ親しんでいると判断しました。その際、語の発音・強勢の正確さ、文のイントネーションの適切さ等の発話の質は考慮しませんでした（図1, 2）。



図1 購入したい色の衣服があるかどうか尋ねている児童

Hello. May I help you?
Do you have a blue cap?
Yes, I do. Here you are.
Thank you.



図2 自分が欲しいものをはっきりと伝えている児童

Hello. How are you?
Do you have a white T-shirt and red shoes?
No, I don't.
I'm sorry. See you.

(2) 「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しめていない」と判断した児童に対して行った支援

《具体的な支援》

- ◆発話が滞っている児童については、相手が言った表現を「聞くことができていない」のか、その場面で求められる表現を「話すことができていない」のかのどちらかに課題があるのかを判断することに努めました。
- ◆「聞くこと」に課題があると判断した場合には、当該児童の側に寄り添い、相手の発話をゆっくり繰り返したり、衣服絵カードを指しながら単語ごとに発音したりして、英語の音声の理解を支援しました（図3）。
- ◆「話すこと」に課題があると判断した場合には、指導者の後について言わせたり、初めの言葉だけ一緒に言ったりするなどして、児童の発話を支援しました（図4）。



図3 絵カードを指さしながら色の名前を単語ごとにゆっくり発音する教師

色の名前を発音するからよく聞いて。Red. Blue. 次の色は、日本語とは強く言うところが違うよ。よく聞いて。Orange.....

ゆっくりでいいから、言ってごらん。Red. Red.

Red. Red.



図4 教師の後について発音が難しい衣服の英語を発音する児童

シューズはそのまま言っても通じるかもしれないけど、シャツとセーターはそのままでは通じないよ。先生の口の形をよく見て。Shirt. Shirt. チャンツを思い出して、Sweater. Sweater.

Shirt. Shirt.
Sweater. Sweater.

7 他の観点に関する学習評価の実践事例（参考）

(1) 「言語や文化に関する気付き」に関する学習評価

《評価のポイント》

- ◆本單元では、第1時の【Let's Listen】で、中国や韓国などの民族衣装が「聞く活動」の題材として扱われているので、「言語や文化に関する気付き」の評価のために、世界の様々な衣服とその言い方を取り扱いました。この観点の評価に当たっては、授業中の児童の発言を観察するとともに、「ふり返しカード」の記述を分析しました。

「ふり返しカード」の記述例

きものは、日本語のきものそのままですわ。

ズボンはアメリカではパンツと言いますが、パンツはアンダーウェアだった。

ドレスと言ったので、どの服かと思ったらキマチゴリだった。

着物は日本語のKIMONOで通じることや衣服についての外来語とその語源となった語では意味が異なることなどの記述から、「言語や文化に対する気付き」が認められます。

外国の衣服に興味・関心をもてたことは認められますが、この記述だけでは、「言語や文化に対する気付き」が認められません。

キマチゴリは韓国ドラマで見たことがある。男の人は、ごんごのを着るんだ。

チャイドレスは、お母さんが持っているので、着てみたいと思った。

(2) 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」に関する学習評価

《評価のポイント》

- ◆本單元では、第2時と第4時に、自分がコーディネートした服装を英語で紹介する活動を設定し、児童の「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を評価しました。
- ◆この観点では、発話の正確さや内容は考慮せず、自分の服装を相手に紹介しようとしているかどうかを評価することにしました。ジェスチャーを交えて相手に紹介したり、原稿を覚え込んで紹介したりするなど、関心・意欲の表し方は様々なので、その児童なりのコミュニケーションへの参加の状況を観察するようにしました（図5、6）。



図5 ジェスチャーを交えて自分がコーディネートした服装を伝える児童



図6 原稿を覚え込んで自分が購入した服装を紹介する児童

3 今後の学習評価に向けて

評価規準を明らかにすることで、活動中の児童の様子を観察する視点や「ふり返しカード」を点検する観点が明確になります。児童の意欲が低下しないような「楽しい活動」を工夫することは外国語活動の授業づくりに大切なことですが、外国語活動は「お楽しみ会」ではなく「言葉」を学ぶ授業なので、適切な評価規準を設定し、自分の思いや考えを外国語で相手に伝える体験をさせることは更に大切です。評価規準の作成の際には、例えば、「積極的に…」や「進んで…」で期待している児童の行動を共通理解しておくなど、できる限り「目指す児童の姿」を具体的に想定しておくことが客観的な評価を行うために重要です。評価規準を明確にすると指導のポイントを意識することができます。「活動」があり、「学び」もある外国語活動を心がけましょう。



1 学習評価のポイント

総合的な学習の時間においては、学習指導要領に示された目標を踏まえ、各学校で定めた目標、内容、育てようとする資質や能力及び態度に基づいて評価の観点を設定します。併せて単元ごと観点ごとに、期待される児童の姿を想定して評価規準を設定します。育てようとする資質や能力及び態度が身に付き、内容を学んでいるのかを、児童の学習状況から見取り、その評価を指導や学習活動の改善につなげるためには、各学校において指導と評価の計画を立て、評価規準、評価場面、評価者、評価方法を明確にし、教師間で共有しておくことが大切です。また、学習状況の評価を適切に実施するためには、異なる方法や様々な評価者による多様な評価とともに、学習過程の評価などにも配慮する必要があります。

2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、学校で定めた育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点に基づく第5学年「地域環境調査隊」の実践事例を基に、行動の様子、ポートフォリオ、学習カードの記述、制作物などの多様な評価方法によって、どのように学習評価を行うのかについて示します。

1 単元名 「地域環境調査隊」 (第5学年)

2 目標

地域の環境に関わる課題を追究したり、調べたことや考えたことについて友達と交流したりする活動を通して、身近な自然の存在や環境問題と自分たちの生活との関わりなどを知り、地域の一員として環境の保全のためにできることを考えて実践できるようにする。

3 単元で育てようとする資質や能力及び態度

[問題解決能力]

- ア 様々な事象に興味や関心をもって関わり、課題を見付ける。
- イ 問題解決のために、学習の内容と学び方の両面において見通しをもつ。
- ウ 見通しを基に計画的、主体的に追究する。

[コミュニケーション能力]

- ア 調べたことや考えたことなどを分かりやすくまとめ、表現したり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりする。
- イ 様々な人と進んで交流し、協同して課題を解決する。

[情報活用能力]

- ア 必要な情報を様々な手段を活用して収集・選択し、整理・分析する。
- イ 相手や目的に応じて適切な方法を選んで情報を発信する。

[自己評価能力]

- ア 学んだことや学び方を振り返り、活動計画を修正したり、他の学習に役立てようとする。
- イ 自分や自分の生活を見つめ直し、実践しようとする。

4 単元で学ぶ内容

- ア 身近な自然の存在とそのよさ
- イ 環境問題と自分たちの生活との関わり
- ウ 環境の保全やよりよい環境の創造のための取り組み

単元で育てようとする資質や能力及び態度については、各学校で定めた目標をより具体的、分析的に示し、実際の学習活動へと実践化できるようにします。

本実践における学校で定めた目標は次のとおりです。「自らの生活上の課題や現代社会の課題についての探究的な学習を通して、問題の解決や探究活動に他者と協力して進んで取り組む能力と態度を育て、自他の思いや願いを大切にしながらよりよい生活を創り出すことができる」

単元で学ぶ内容については、学習対象(本実践においては「環境」との関わりを通して、学んでほしい内容を分析的に示します。

5 評価規準

問題解決能力	コミュニケーション能力	情報活用能力	自己評価能力
<p>①調査や観察を通して、地域の環境に目を向けて課題を設定し、調べる内容と方法について見通しを立てている。 〔3-ア・イ, 4-ア・イ〕</p> <p>②地域の環境に関わる課題の解決に向け、見通しを基に計画的、主体的に追究している。 〔3-ウ, 4-ア・イ〕</p>	<p>①地域の環境について調べたことや考えたことなどを分かりやすくまとめ、表現している。 〔3-ア, 4-ア・イ・ウ〕</p> <p>②地域の環境について調べたことや考えたことなどを分かりやすく伝えたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりして進んで交流している。 〔3-ア・イ, 4-ア・イ・ウ〕</p>	<p>①地域の環境に関わる課題の解決に必要な情報を収集・選択し、整理・分析している。 〔3-ア・イ, 4-ア・イ〕</p> <p>②地域の環境について分かったことや自分たちの思いを新聞・ちらし・ポスターなどで表現して周りの人に発信している。 〔3-イ, 4-ア・イ・ウ〕</p>	<p>①地域の環境について学んだことや学び方を振り返り、活動計画を修正したり、他の学習に役立てようとしたりするとともに自分の生活を環境保全の視点から見つめ直し、実践しようとしている。 〔3-ア・イ, 4-ア・イ・ウ〕</p>

Point1

学習過程において多様な評価を行うこと

評価の信頼性を高めるためには、学習過程における児童の学習状況を多様な評価方法を用いて見取り、それを指導に役立てることが大切です。特に、総合的な学習の時間においては、児童の内に育まれているよい点や進歩の状況などを積極的に評価することが求められます。例えば、特に進歩したこと、意欲的に取り組んだこと、努力や工夫が見られたこと、ものの見方や考え方が変わったこと、自己の生き方について考えようとしたことなどを、児童の学習の姿や学習シート、制作物などから見取るようにします。また、児童が自分のよい点や進歩の状況などに気づき、自らの可能性や成長が実感できるようにすることも重要です。本単元では、行動の様子や作文、学習シート、相互評価シート等の記述、ポートフォリオ、制作物などを評価方法として用いて多様な評価を行いました。

Point2

期待される児童の姿をイメージして評価規準を設定すること

評価規準を設定する際には、各観点に即して実現が期待される児童の姿が、単元のどの場面のどのような学習活動において、どのような姿として実現されるかをイメージすることが大切です。そして、実現が期待される児童の姿について、実際の学習活動の場面を想起しながら、「単元で育てようとする資質や能力及び態度」と「単元で学ぶ内容」に照らし合わせて具体的に記述します。例えば、本単元の第3小単元において、地域の環境調査の結果をまとめた制作物を基に発表し合う場面では、地域の環境問題に対して切実な思いをもち、進んで伝え合い交流する児童の姿をイメージし、「3-ア・イ」（資質や能力及び態度）と「4-ア・イ・ウ」（内容）が関係していると考えました。そこで、コミュニケーション能力の評価規準を「地域の環境について調べたことや考えたことなどを分かりやすく伝えたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりしながら進んで交流している」としました。

6 指導と評価の計画（全24時間）

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準及び評価方法
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>Point1 学習過程において多様な評価を行うこと</p> <p>総合的な学習の時間においては、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という一連の学習活動を展開します。こうした探究的な学習の過程における学習活動や配当時間に応じて、重点的に評価する場面を想定して評価規準を設定し、児童の学習状況をよりよく見取るために設定した評価規準に適した多様な評価方法を位置付けています。</p> </div>	

<p>1 地域の環境を見つめよう (4単位時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の川や池，山など身近な環境について話し合い，調べる対象を決める。 地域の環境の調査を行い，実態を知る。 環境悪化の様子や原因について話し合い，課題を見付ける。 地域の環境に関わる課題の解決に向け，調べる内容と方法について見通しを立てる。 	<p>〔問①〕 調査や観察を通して，地域の環境に目を向けて課題を設定し，調べる内容と方法について見通しを立てている。 (行動の様子，作文・学習シートの記述)</p>
<p>2 地域の環境について調べよう (10単位時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境に関わる課題について図書資料やインターネット，聞き取り調査，現地調査など様々な方法で調べ，収集した情報を整理・分析する。 	<p>〔問②〕 地域の環境に関わる課題の解決に向け，見通しを基に計画的，主体的に追究している。 (行動の様子，ポートフォリオ，学習シートの記述) 〔情①〕 地域の環境に関わる課題の解決に必要な情報を収集・選択し，整理・分析している。 (ポートフォリオ，学習シートの記述)</p>
<p>3 環境調査の結果を発表しよう (6単位時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを文章，絵や写真，図表，グラフなどにより，模造紙やプレゼンテーションソフトウェアを用いて，発表原稿を作成したり，発表の練習をしたりする。 地域の環境調査の結果を発表し合い，意見交換する。 	<p>〔コ①〕 地域の環境について調べたことや考えたことなどを分かりやすくまとめ，表現している。 (行動の様子，制作物，相互評価シートの記述) 〔コ②〕 地域の環境について調べたことや考えたことなどを分かりやすく伝えたり，異なる意見や他者の考えを受け入れたりして進んで交流している。 (行動の様子，相互評価シートの記述)</p>
<p>4 環境を守るためにできることから始めよう (4単位時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境を守る取り組みについて調べ，自分たちにできることを考える。 調査結果や話し合ったことを家庭や地域の人たちに呼びかける。 単元全体の学習活動について振り返り，まとめる。 	<p>〔情②〕 地域の環境について分かったことや自分たちの思いを新聞・ちらし・ポスターなどで表現して周りの人に発信している。 (制作物，学習シートの記述) 〔自①〕 地域の環境について学んだことや学び方を振り返り，他の学習に役立てようとしたり，自分の生活を環境保全の視点から見つめ直したりしている。 (作文の記述)</p>

7 第3小単元の展開

(1) 小単元のねらい

地域の川の環境について調べたことや考えたことを適切にまとめ，分かりやすく伝えたり，友達と進んで交流して意見を交換したりすることができる。

(2) 展開

(第1～4時)

学習活動	教師の支援	学習評価
<p>1 前時までの学習を想起し，本時のめあてを確認する。</p>	<p>○前時までの取り組みを想起させ，地域の川の環境調査の発表の目的や意義を確認する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>地域の川の環境について調べたことや考えたことを分かりやすく伝えるために工夫してまとめよう。</p> </div>

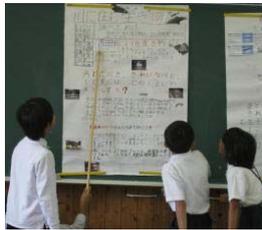
2 分かりやすく伝えるための方法と工夫について考える。

- (伝える方法)
- ・模造紙
 - ・プレゼンテーションソフトウェア など

3 伝えたい内容を確認め、伝える方法と工夫の仕方を決める。

4 グループでまとめ、発表の練習をする。

5 活動の振り返りをする。



発表練習

○「活動のめあて」と「身に付けたい資質や能力及び態度」を学習シートに記入させて意識付ける。

○伝える方法や工夫について国語科や総合的な学習の時間などの学習を振り返らせ、まとめ方の見通しをもつことができるようにする。

○伝える工夫を思い付かない場合には、レイアウト、絵や写真、図表、グラフの活用、実物の提示などの具体例を示す。

○伝えたい内容に合った方法と工夫をグループで話し合い、決まったことを学習シートに記入させ、有効と思われる方法や工夫を紹介し合い、互いの参考となるようにする。

○グループで協力してまとめたり、発表の練習をしたりすることができるように、役割分担を明確にさせる。

○「活動のめあて」と「身に付けたい資質や能力及び態度」に照らして振り返らせ、自分のよさや進歩の状況について気付くことができるようにする。

○分かりやすくまとめる工夫に関わる児童のよい点を称揚し、グループの活躍を認める。

○地域の環境について調べたことや考えたことを分かりやすくまとめ、表現している。

〔コミュニケーション能力〕
(行動の様子、制作物、学習シートの記述)

Point2

期待される児童の姿をイメージして評価規準を設定すること

ここでは、相手意識をもって、伝える工夫をしながら伝えたい内容をまとめたり、分かりやすい発表の仕方を確かめ合いながら発表の練習をしたりする姿を想定して評価規準を設定しました。

(第5・6時)

学習活動	教師の支援	学習評価
1 本時のめあてを確認する。	○地域の川の環境調査の発表の目的や意義を確認する。	
地域の川の環境について調べたことや考えたことを互いに伝え合い交流しよう。		
2 発表し、意見交換する。 《発表の主なテーマ》 ・今の姿と昔の姿について ・川にすむ生き物について ・川の水質について ・ごみの種類について など	<p>○「活動のめあて」と「身に付けたい資質や能力及び態度」を学習シートに記入させて意識付ける。</p> <p>○発表はポスターセッション方式で行い、自分のグループの発表と比べて、類似点や相違点を考えながら意見を交流できるようにする。</p> <p>○考えに対する理由や根拠、提示された資料の内容、意味の分からない言葉など、分からないことやさらに知りたいことは質問できるようにする。</p> <p>○質問に答えられない場合には、ポートフォリオに収集した情報を活用させたり、きっかけを与えて発言を促したりする。</p> <p>○相互評価シートを用意し、発表の仕方と内容、よかった点や改善すべき点について評価できるようにする。</p>	<p>○地域の環境について調べたことや考えたことを分かりやすく伝えたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりして進んで交流している。</p> <p>〔コミュニケーション能力〕 (行動の様子、相互評価シートの記述)</p>
 <p>プレゼンテーションソフトウェアを用いた発表</p>	<p>○「活動のめあて」と「身に付けたい資質や能力及び態度」に照らして振り返らせ、自分のよさや進歩の状況について気付くことができるようにする。</p> <p>○環境調査の内容や発表のよい点を認められたこと、交流で深まったことなどを取り上げて価値付け、次の活動への意欲を高める。</p>	<p>Point2</p> <p>期待される児童の姿をイメージして評価規準を設定すること</p> <p>ここでは、相手意識をもってまとめた制作物を基に分かりやすく発表したり、自分たちの発表と比べながら、意見や質問を進んで述べたりする姿を想定して評価規準を設定しました。</p>
3 活動の振り返りをする。		

9 他の観点に関する学習評価の実践事例（参考）

- (1) 「問題解決能力」に関する学習評価の実践事例
第2小單元では、地域の環境に関わる課題の解決に向けて、見通しを基に計画的、主体的に追究しました。

《判断のポイント》

- ◆ 学習シートに記した調べる内容や方法、計画を確かめながら、図書館資料やインターネット、聞き取り調査、現地調査など様々な方法で進んで調べているかどうかを評価しました（図8）。評価に当たっては、ポートフォリオに必要な情報を整理したり、学習シートに調べたことを記録したりしている状況も考慮しました。



図8 様々な方法を選択し、主体的に追究している様子

- (2) 「情報活用能力」に関する学習評価の実践事例
第4小單元では、地域の環境を守る取り組みについて調べ、自分たちにできることを考えた後、環境調査を通して分かったことや伝えたい思いを新聞・ちらし・ポスターなどで表現して家庭や地域の人に発信しました。

《判断のポイント》

- ◆ 地域の環境を守るために自分の思いをもち、比較し関連付けながら情報を整理し、的確に制作物に表現し発信しているかどうかを評価しました（図9）。ここでは、制作物の作成の構想をまとめた学習シートの記述も考慮しました。

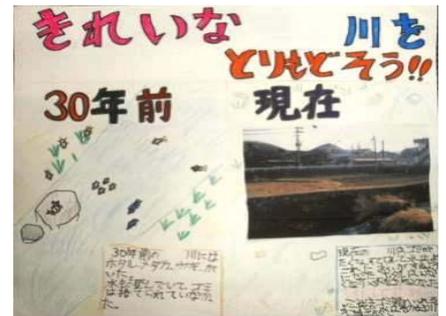


図9 収集した情報を活用して過去と現在の川の様子を比較して示し、地域の環境を守る必要性を訴えたポスター

- (3) 「自己評価能力」に関する学習評価の実践事例
第4小單元では、単元全体の学習活動を振り返り、他の学習や生活に生かすことを作文にまとめました。

《判断のポイント》

- ◆ 地域の環境や環境保全について、学んだことや学び方、自分の生活を振り返り、他の学習や生活に役立てようとしているかどうかを作文の記述を基に評価しました（図10）。また、学習シートの「活動のめあて」や「パワーアップ」（身に付けたい資質や能力及び態度）に対する振り返りの記述も考慮しました（図11）。

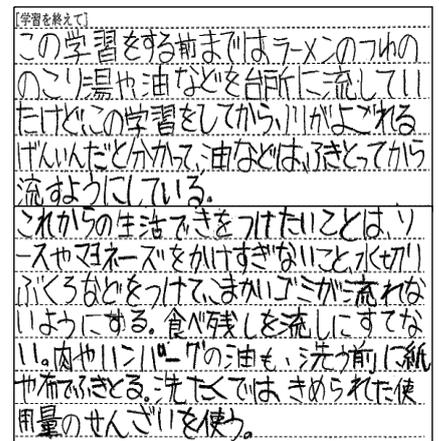


図10 単元全体を通して学んだことから、今までの自分の生活を見つめ直し、環境を守るために生活の改善の仕方について考えている作文（部分抜粋）

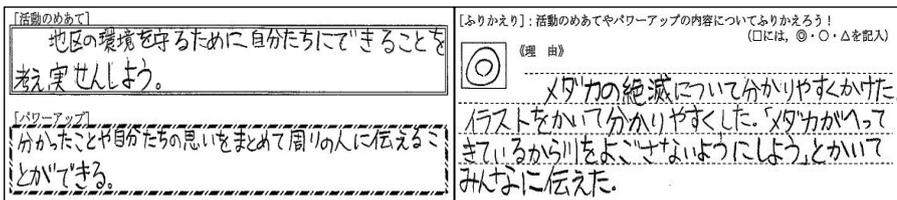


図11 「活動のめあて」と「パワーアップ」を視点を振り返りを行った学習シート

3

今後の学習評価に向けて

総合的な学習の時間では、創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されます。そこで、評価規準の設定に当たっては、各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」や「内容」を網羅することが大切です。そして、指導と評価の計画を立てる際には、小單元における期待する児童の姿をイメージして比較的長いスパンで評価規準を設定し、適切な評価方法で一人一人の学習状況を見取り、指導と評価の一体化を図るようにします。また、学習評価を基にして学習指導や指導計画の改善も行い、実践の質を高めていくことが求められます。



1 学習評価のポイント

特別活動においては、新たに各活動、学校行事の目標が示され、また、学級活動に児童の発達段階に応じた2学年ごとの内容が示され、育てたい態度や能力が一層明確にされています。

学習評価に当たっても、このことを十分踏まえた上で行う必要があります。その際、評価の観点は、各学校で重点化した内容、育てたい態度や能力に即して各学校がより具体的に定めることができるようになっていきます。

また、特別活動の学習評価は、**図1**に示すように、2段階で行うという点で、各教科等（**図2**）とは異なります。さらに、何か一つの姿を示して満足できる状況かどうかを評価するのではなく、「十分満足できる」状況を具体的な姿として多様に示し、評価することが必要です。

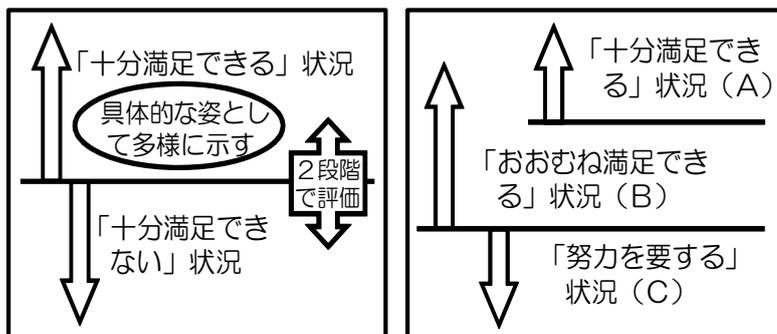


図1 特別活動の評価（イメージ） 図2 各教科等の評価（イメージ）

2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは、学級活動において、新たに示された目標及び内容に基づき、学校で評価の観点や評価規準を定め、児童一人一人のよさや可能性を積極的に評価することを目指した実践事例、「学級活動(2) 第6学年『リーダーとしての役割』」の概要を示します。

1 題材名 リーダーとしての役割（第6学年）

※ア 希望や目標をもって生きる態度の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、素直で男女の仲がよく、いろいろなことに協力して取り組むことができる。その反面、児童同士の間関係は固定化しており、互いのよさを新しく見付けようとする姿勢が見られない。また、学習でも生活でも常に決まった児童が中心となって活躍することが多い。したがって、一見学級としてのまとまりがある集団には見えるが、一人一人がもつ学級における自己有用感には大きな差があることが予想される。

(2) 題材設定の理由

本校では、年度当初に縦割り班を編成し、年間を通して、掃除や休み時間の遊びなどをはじめとする常時活動に生かしている。また、第6学年児童については、学級で取り組む活動では中心となることが少ない児童でも、縦割り班活動では否応なしにリーダー的な役割を務めることになる。そこで、本題材を設定し、児童が互いのよさを新しく見付けたり、見直したりすることを通して、学級における自己有用感を高めることができるようにしたいと考えた。



図3 縦割り班による運動会でのリレー競技

本校では、この縦割り班を運動会でも活用し、それを単位として行う競技種目も設定している。そこで、この機に本題材を設定することで、効果的な指導につなぎたいと考えた。

3 第5学年及び第6学年の学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
・自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	・楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	・楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

4 本題材のねらい

縦割り班活動における「リーダーとしての役割」について話し合う中で、互いのよさを新しく見付けたり、見直したりすることを通して、学級における自己有用感を高める。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法等																									
<p>○縦割り班活動におけるこれまでの経験を基にして「リーダーとしての役割」について話し合う。</p> <p>○運動会に関わる縦割り班活動に向けてめあてを立てる。</p>	<p>・異なる縦割り班の児童同士でグループをつくらせ、話す必然を全員がもてるようにする。</p> <p>・班同士の共通点や相違点など、聞く観点を示し、ともにリーダーとして働く対等な立場であるという意識を喚起できるようにする。</p>	<p>○ともにリーダーとして働く友達のよさを互いに認め合い、今後の活動に向けて具体的なめあてを立てることができる。</p> <p>〔思考・判断・実践〕 (ワークシートの記述、行動の様子)</p>																									
	<p>1 「送る会」「むかえる会」などこれまでの経験で生かしたいことは？</p> <p>会のリーダーみたいにみんなをまとめたがりしたいと思う。 (ふざけないでなげろなど)</p> <p>2 班のリーダーとして心掛けたことは？</p> <p>リーダーとして、下の学年のせわをすることと、言う事きをつけ、進んで信らされるようなことを心掛けた。</p>	<p>これまでの経験を基にした見通し</p> <p>運動会に向けて立てためあて</p>																									
	<p>図4 A児の立てためあてに関するワークシート</p>																										
○日記を書く。	<p>・事前に立てためあてに沿って日記を書くよう繰り返し確認させ、振り返りの活動に生かせるものになるようにする。</p> <p>・書く内容については、短く一言でよいことを知らせ、児童の負担や練習の疲れに配慮しながら、活動後に個人で振り返ることを全員に定着させる。</p>	<p>○事前に立てためあてを意識して活動に取り組み、めあてに沿って振り返ることができる。</p> <p>〔思考・判断・実践〕 (ワークシートの記述、行動の様子)</p>																									
	<p>図5 A児の取り組みの経緯を記す日記</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>活動内容</th> <th>2の心掛け</th> <th>うれしかったこと</th> <th>困ったこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>例</td> <td>全校リレー</td> <td>◎・○・△</td> <td>1年生がちゃんと言うことを聞いてくれた。</td> <td>話しているところであんなにかいてしまう人がいて、困った。</td> </tr> <tr> <td>5/11</td> <td>赤白選抜 つしむく 決め</td> <td>◎・○・△</td> <td>かな引きかいいい と書いていたけど みんな変えてくれた</td> <td>ずっとつな引きか いいと書いていた かいたこと。</td> </tr> <tr> <td>5/12</td> <td>かいかいす ラジオ体操</td> <td>◎・○・△</td> <td>みんなしすか 言う事を聞いて くれた。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>入場のしか</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日付	活動内容	2の心掛け	うれしかったこと	困ったこと	例	全校リレー	◎・○・△	1年生がちゃんと言うことを聞いてくれた。	話しているところであんなにかいてしまう人がいて、困った。	5/11	赤白選抜 つしむく 決め	◎・○・△	かな引きかいいい と書いていたけど みんな変えてくれた	ずっとつな引きか いいと書いていた かいたこと。	5/12	かいかいす ラジオ体操	◎・○・△	みんなしすか 言う事を聞いて くれた。			入場のしか				<p>図4のワークシートの2に記しためあての達成度に関する自己評価</p> <p>感性・情緒面からの振り返り</p>
日付	活動内容	2の心掛け	うれしかったこと	困ったこと																							
例	全校リレー	◎・○・△	1年生がちゃんと言うことを聞いてくれた。	話しているところであんなにかいてしまう人がいて、困った。																							
5/11	赤白選抜 つしむく 決め	◎・○・△	かな引きかいいい と書いていたけど みんな変えてくれた	ずっとつな引きか いいと書いていた かいたこと。																							
5/12	かいかいす ラジオ体操	◎・○・△	みんなしすか 言う事を聞いて くれた。																								
	入場のしか																										
○中間報告会を開く。	<p>・中間報告会の時期については、児童の取り組みの様子を見ながら柔軟に設定するようにして、中だるみを防ぎ、事前に立てた互いのめあてを再確認できる機会となるようにする。</p>	<p>○互いのめあてを再確認したり見直したりして、判断し、実践している。</p> <p>〔思考・判断・実践〕 (ワークシートの記述、行動の様子)</p>																									

Point1 「自己決定」に向けた「自己内省」を大切にする

今回、学習指導と評価の実践事例として取り上げた学級活動(2)においては、まず、児童に共通の問題を取り上げ、話し合いを通して解決の方法を考えさせるとともに、自己の問題の解決方法について「自己決定」させ、実践させていく一連の活動を設定することが大切です。その上で、実践の基となる的確かつ適切な「自己決定」をさせていきます。

そこで大切になるのが、自己を客観的に振り返らせ、見つめさせる的確な「自己内省」です。自己評価シート等に加え、実態調査による数値データ等を整理した資料や、これまでの取り組みの様子を記録した写真やビデオなどの資料、友達や家族など、他者からの評価資料等を積極的かつ効果的に活用していきたいものです。

Point2 「自己決定」を「書くこと」等を通して見取る

次の項で示す本時は、「集団の一員としての思考・判断・実践」の評価事例として紹介しています。こうした観点の評価方法としては、児童の話し合いや活動の様子などを教師が観察する「観察法」が主になると考えられますが、児童が自分の考えや取り組みを記録したポートフォリオとしてのワークシート、製作物、振り返りカード等による「作品法」による評価を組み合わせることも考えられます。つまり、「自己決定」を「書くこと」等を通して見取ることも大切にしていくということです。また、今回の実践事例では扱いませんが、「集団活動や生活についての知識・理解」を評価する場合には、「質問紙法」による評価も考えられます。つまり、これらの「書くこと」の指導や工夫が求められます。

6 本時の展開（運動会を終えた後）

	学習活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と評価方法
導入 10分	1 縦割り班のリーダーとして心がけてきたことを振り返る。 2 3～5年生のアンケートを集計する。	<ul style="list-style-type: none"> 練習期間から運動会本番までの写真をフラッシュ提示して、これまでの取り組みを想起できるようにする。 アンケートについては事前に3～5年生に回答依頼しておく。また、回答用紙を縦割り班別に整理しておき、短時間で集計できるようにする。 	4年生のみなさんへ 運動会までのことアンケート  <p>6年生はクラスで、運動会までのことをふり返る学習をします。そのときのしりょうとしてつかいたいの、みなさんの感想を教えてください。下のしつもんにご答えください。よろしくおねがいします。</p> <p>しつもん1：あなたのたてわり班は、何班ですか？（ 3 ）班</p> <p>しつもん2：今年の運動会は、どうでしたか？あてはまるもの一つを選んで、番号に○をつけてください。</p> <p>① とても楽しかった ② 楽しかった ③ あまり楽しくなかった ④ 楽しくなかった</p> <p>しつもん3：運動会の練習や、運動会の時に、あなたのたてわり班の6年生はどうでしたか？いくつでもよいので、あてはまるものを選んで（ ）に○をつけてください。</p> <p>() やさしい () きびしい () かっこいい () おもしろい () しっかりしている () たのしい () こまったときに助けてくれる () みんなをまとめてくれる () この中であてはまるものはない</p> <p>しつもん4：運動会の練習や、運動会の時に、6年生がしてくれたことでうれしかったことがあったら書いてください。</p> <p>くんがリレーを走りおわったあと、「かんおたね」と言ってくれたこと</p> <p>ご協力ありがとうございました。</p>	
	Point1 「自己決定」に向けた「自己内省」を大切にする 写真のフラッシュ提示や3～5年生からのアンケート集計を取り入れ、自己を客観的に振り返り、見つめる場の充実を図ります。	 <p>フラッシュ提示した写真（一部）</p>		4年生児童からのアンケート結果

展開
20分

3 集計結果から考えたことをグループで話し合う。

- 異なる縦割り班の児童同士でグループをつくらせ、話す必然性を全員がもてるようにする。
- 互いのワークシートを見せ合いながら話すよう指示し、集計結果を比較して気付いたことや考えたことにも言及できるようにする。



異なる縦割り班の児童同士での話し合い

Point2

「自己決定」を「書くこと」等を通して見取る

右図に示す振り返りワークシートには、3～5年生のアンケートの集計結果から分析される「現状での自分のリーダーとしての姿」と、自分の心に残ったということから「自分がこれから目指したいリーダーとしての姿」を整理して書けるようにしています。

【分析結果】集計結果から、どんなことが考えられますか？

「やさしくておもしろい」が多かったからもっときびしくやったら「しっかりしている」や「きびしい」「たのしい」などに〇がついていたと思います。

3 自分の縦割り班のアンケート（しつもん4）で心に残ったものを、一つ選んで書き残しましょう

いろいろな人を注意してくれた、ということ。

小学校生活最後の運動会を振り返って
6年 番 ()

1 あなたが縦割り班のリーダーとして、運動会まで心がけてきたことを書きましょう。

下の学年の世話をすることに関心した。

2 自分の縦割り班のアンケート（しつもん3）を集計し、分析しよう。

【集計結果】

やさしい	きびしい	カッコいい	おもしろい	しっかりしている	たのしい	思った時に助けてくれる	みんなをまとめる
2	1	0	2	1	0	1	1

【分析結果】集計結果から、どんなことが考えられますか？

「やさしくておもしろい」が多かったからもっときびしくやたら「しっかりしている」や「きびしい」「たのしい」などに〇がついていたと思います。

3 自分の縦割り班のアンケート（しつもん4）で心に残ったものを、一つ選んで書き残しましょう

いろいろな人を注意してくれた、ということ。

他の班の友達と、お互いの集計結果・分析結果を比べて気が付いたことを話し合おう。

縦割り班のリーダーだったみなさん、今日まで本当にごろうさまでした。

振り返りワークシート

「やさしい」「おもしろい」という現状の姿

注意できる厳しさ、頼もしさをもった理想の姿

4 リーダーとして心に残ったことについて話し合う。

- 班同士の共通点や相違点など、聞く観点を示し、ともにリーダーとして働く対等な立場で取り組んできたという意識を喚起できるようにする。

振り返りワークシート

○アンケートの集計結果を基にして自分や友達の頑張りを認め、互いのよさを新しく見付けたり、見直したりすることができる。また、そのよさを互いに生かすことについて考え、判断し、学級での生活に参加していくことができる。

終末
15分

5 友達の話で心に残ったことを発表する。

- 友達の頑張りを認めるような発言が出た際には全体に返すようにし、取り上げられた児童のよさが学級全体にできるだけ広がるようにする。

6 今後の取り組みについて確認し合う。

- 今後の取り組みについて知らせるとともに、縦割り班での頑張りをいろいろな場面で生かすことができるよう呼びかけ、学級での生活との接続を図る。

【思考・判断・実践】
振り返りワークシートの記述、本時の学習以後の学級での生活における行動の様子

7 指導と評価の実際

(1) 「十分満足できる」状況と判断した児童の様子

《判断のポイント》

- ◆本実践では、振り返りワークシートの記述については、次の視点から分析します。
 - ・具体的な実践の場が想定されているか。
 - ・自分の能力や経験に即した実践活動が想定されているか。
 - ・実践活動が、単なる「継続」でなく、「質的な向上」が見込まれているか。
- ◆また、授業後の児童の行動については、授業中における児童の姿との関連から、一貫性や整合性を基に分析を行うようにします。

A児は、かねてからリーダーとしての経験が少なかったが、今回の運動会で苦勞しながらも縦割り班のリーダーとしての役割を何とか果たすことができました。アンケート結果も良好だったということで、その成果を話合いの場で紹介したところ、「へえ、やればできたんだね。すばらしいね」と、友達から温かい称賛を受けていました。授業後、A児は、通学班の副班長としての実践の場を求め、登校の際の朝の挨拶のリード役を果たすようになりました。

B児は、自らのリーダーとしての姿には満足していながらも、さらに、「厳しさ」や「頼もしさ」を求めており、そのことを話合いの場でも、アンケート結果を示しながら紹介していました。しかし、C児から、「これからは、厳しく注意したからといって、みんなは聞いてくれないよ」と指摘を受け、「みんなを引っ張っていくリーダー」か「慕われるリーダー」か、目指すリーダー像について迷いをもっているようでした。そこで、教師は、授業後、回収したB児のワークシートに、「やさしさと厳しさのバランスが大切」とコメントを朱書きして返しました。その後、B児の迷いも取れたようで、両面をもった、リーダーとしての「質的な向上」を果たすことができました。



図6 慕われるリーダー

(2) 「十分満足できない」状況と判断した児童に対して行った支援

《具体的な支援》

- ◆実践の場は今回だけではないので、継続的な指導を心がけるようにします。具体的には、さほど負荷なくできそうな実践の場を提案したり、リーダーとしての実践にこだわらない、本来の目的である「自己有用感が高められる」実践を紹介したりします。
- ◆また、当該児童への指導だけでなく、学級集団にも、みんなで共に成長していくという教師の学級経営の方針を説くとともに、支援体制を整えるようにします。

授業後、学級集団には、「リーダーとして何かできそうだ」という自信や手応えが感じられる中、D児には、運動会では何とかリーダーとしての役割を果たしたにも関わらず、具体的な取り組みが見られませんでした。少し焦っているようであったので、教師は、個別に関わり、「友達と比べる必要はないね。『君は君』でいいからね」と励まし、「これからも、業間休みに続く縦割り班遊びの中で少しずつリーダーとしてできることを増やしていけばいいからね」と、実践の場を提案しました。また、遊びの当日には、できそうなことを事前に二人で相談しました。

E児は、縦割り班による掃除のことでうまくリーダーシップが発揮できず、悩んでいるようでした。そこで、教師は、E児と相談し、その問題をみんなと一緒に解決していこうと、学級集団に投げかけました。すると、「今度、掃除場所に一緒に行ってみるよ」という提案が出されたり、「学級の係などで、リーダーとなる経験を積んでいこう」という提案が出されたりしました。それらの提案を聞いたE児は、「頑張ってみる」と実践への自信をもち始めました。

8 学級活動(1)の学習指導と評価（参考）

学級活動(1)の場合、これまで1単位時間の「話し合い活動」で4観点が評価されてきていましたが、「話し合い活動」は、事前指導、事後指導も含めた一連の活動の中で評価していく必要があります。そこで、次に、学級活動(1)の学習指導計画を示します。

学習指導計画（例示）

- 本時のねらい
 - ・話し合い活動を通して、地域の老人クラブの方々と楽しむ会を企画しようとする。
 - ・プログラムやプレゼントが、「お年寄りに感謝し、みんなで楽しめるものになっているか」の視点で考え直し、よりよい内容を判断し、改善をしようとする実践ができる。

○ 事前の活動

月 日	児童の活動	関	思	知
○月 ○日	○地域の老人クラブとの活動についてまとめる。	○		
○月 ○日	○話し合いの計画を立てる。			○

○ 本時について

話し合いの順序	指導上の留意点	評価
1 はじめの言葉	○司会グループには、打合せの内容を確認させ、会の進行を支援する。	○話し合いに意欲的に取り組もうとしている。 [関心・意欲・態度] (行動の様子、振り返り用紙の記述)
2 役割の紹介	○「お年寄りに感謝し、みんなで楽しめる会にしよう」というめあてを確認し、自覚を促す。 ○感謝の会の期日や時間を児童に伝える。	
3 議題の確認	○これまでの地域の老人クラブとの活動を想起させ、	
4 提案理由の説明	○人とのつながりを大切にしたい意見が言えるよう支援する。	
5 話し合い	○前時に書いたメモを基に発言させる。	
話し合い1 ○何をするか	○互いの意見が比較しやすくなるように話型を確認させながら発表を促す。 ○発言が消極的になりがちな児童には、教師の個別の支援や少人数での話し合いを通して自信をもたせる。	
話し合い2 ○プレゼントを何にするか	○本時のめあてを確認し、出された意見を、「お年寄りに感謝し、みんなで楽しめるものになっているか」の視点で検討させる。 ○プレゼントの内容とともに、人とのつながりを大切にする趣旨から、「思い出に残るもの」「心が伝わるもの」等、それらの意義についても確認させる。	
6 決まったことの確認	○友達の意見を受け、自分の賛成、反対、質問等の話し合いの深まりを意識できるように助言する。 ○司会グループには、決定事項だけを簡単に発表させる。	
7 振り返り	○個々の児童に対し、主として態度面を振り返り用紙によって自己評価させる。	
8 先生の話	○めあてに沿って発言した児童や進行に貢献した司会グループの児童を称賛し、今後の意欲につなげる。	
9 終わりの言葉		○プログラムやプレゼントの内容についてメモを基に発言している。 ○友達の見解を参考にして視点を意識した意見を発言している。 [思考・判断・実践] (行動の様子、メモの記述)

○ 事後の活動

月 日	児童の活動	関	思	知
○月 ○日	○準備物や係の分担を決める。		○	
○月 ○日	○感謝する会の準備をする。	○		
○月 ○日	○地域の老人クラブの方々に感謝する会を行う。	○	○	

3 今後の学習評価に向けて

冒頭でも触れましたが、今回の学習指導要領改訂に伴い、特別活動については、育てたい態度や能力が一層明確にされました。「この題材をなぜ取り上げるのか」「この話し合いは、どういった結論に至ればよいのか」など、指導には明確な意図や見通しが求められます。そのような明確な意図や見通しの下でこそ、学習評価も、実のある、意義あるものになります。

また、今回の改訂で、特別活動の目標に、「人間関係づくり」と「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」という文言が付加されたように、特別活動にも、「共生」と「自立」が強く求められています。ただし、これらのことは、特別活動の時間だけでは十分に果たすことはできません。「学級活動の指導は、学級経営と密接に関連している」といわれるように、日々の教育活動全般を見越した指導と評価の実践が求められます。

〈参考資料〉 P D C Aサイクルを取り入れた校内研修

学習評価は、学習指導との一体化を図ることで、より効果的に推進されることとともに、児童生徒が目標を確実に実現できるような指導の工夫改善が行われることが期待されています。こうしたことから学習指導に係るP D C Aサイクルを確立することが求められています。また、その確立のために校内研修等の教員の学びの機会を適切に設けることも大切になります。

そこで、ここからは学習指導に係るP D C Aサイクル（詳細は『学習評価ガイドブック（小学校編）』（2010，岡山県総合教育センター）参照）を取り入れた校内研修の例を示します。各校において、この事例を参考にした校内研修が実施され、学習指導と学習評価の更なる一体化が図られることを願っています。



1 学習指導に係るP D C Aサイクルの目的

学習指導に係るP D C Aサイクル（図1）の目指すところは、学習指導と学習評価の一体化を図り、個に応じた指導を充実させるとともに、児童一人一人の学習を確実に定着させることにあります。

この目的を達成するためには、最初に「診断的評価」を行い、その結果を分析して、児童の学習状況を適切に捉えることが大切です。そして、この分析結果を基に指導計画等の改善を行い、「P（学習指導案の作成）→D（授業実践）→C（形成的評価）→A（授業改善）→P（計画の修正）」といった一連のサイクルを回すことで、校内研修を充実させ、授業力を向上させることにつながります。

また、こうした学習指導に係るP D C Aサイクルを取り入れた校内研修を一層充実させていくためには、事前にその目的や内容、方法を明らかにしておき、研修に参加する教職員が共通の認識をもっておくことが重要です。

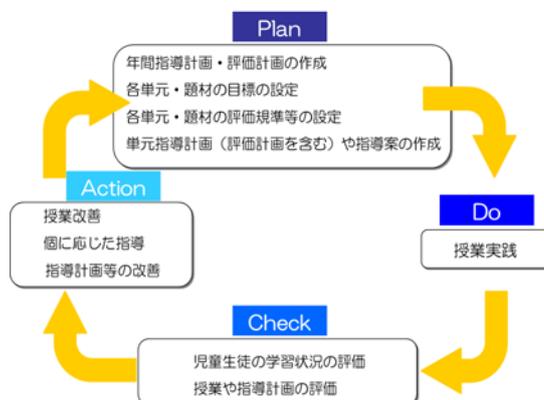


図1 学習指導に係るP D C Aサイクル

2 「診断的評価」を共通理解するための校内研修の進め方

授業改善を進めていくには、第一歩として「診断的評価」を実施し、指導段階における児童の学習状況に応じた適切な指導計画の作成、または変更をしていく必要があります。ところが実際には「診断的評価」を実施することはなかなか難しく、年度当初に立てた計画どおりに授業を進めていく場合もあるようです。

そこで、少人数で短時間でも実施できる「診断的評価」を共通理解するための校内研修の例を示します。ここでは、算数科における一つの単元を取り上げた実践事例を示します。

この研修では、次の四つの内容について参加者で検討を行い、学年・学級全体や児童一人一人の学習状況を適切に捉えることが大切です。

(1) 診断テストの内容についての検討

児童の学習状況を適切に把握するためには、国が示した評価の4観点を捉えることができる「診断的評価」（以下具体例を「診断テスト」という。）を行う必要があります。このことについて、まず、どのような診断テストを設定するのかについて検討します。その際には、学習到達度確認テスト（岡山県教育庁指導課）や全国学力・学習状況調査及び岡山県学力・学習状況調査等の活用が考えられます。「関心・意欲・態度」の観点の評価については、アンケートを中心に算数科全体に対してだけでなく、領域や単元に対して調べることが大切です。例えば、「わり算の計算練習をしたり計算の仕方を考えたりすることをがんばっていますか」といった具体的な質問が適切です。

(2) 診断テストの実施

〔参考資料〕

岡山県学力・学習状況調査

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/146/>

(3) 評価結果の分析方法の検討

評価結果を分析する前に分析方法について検討します。例えば、学習状況の全体的な傾向をつかむために、児童一人一人の診断テストの結果を3段階で評価する方法(表1)が考えられます。統一した評価の判定基準を設定することは、評価の妥当性を高めることとなります。また、観点別の学習状況の課題も明確になります。国や県が実施した学力調査においては、その得点率や通過率等が情報公開されているので、それらを参考にして判定基準を設定することが考えられます。

児童一人一人の個別課題を捉えるには、このような数値による分析に加えて解答内容の分析が欠かせません。

表1 評価の判定基準(例)

A	B	C
得点率 \geq 83%	83% $>$ 得点率 $>$ 50%	50% \geq 得点率

〔参考資料〕

『学習評価ガイドブック(小学校編)』(2011, 岡山県総合教育センター)

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h22/10-01sho.pdf>

(4) 評価結果の分析

最後に評価結果を集計し、分析を行います。個人と学年・学級全体の学習状況を図2や図3のようなグラフで表し、共通理解を図ります。さらに、解答内容を分析し具体的なつまづきや支援について協議することが大切です。個別の課題や支援については、個人分析のグラフ(図2)に書き込んでファイリングしていくことで、後で個々の学習状況の変化が捉えられ、より個に応じた指導を充実させることにつながります。

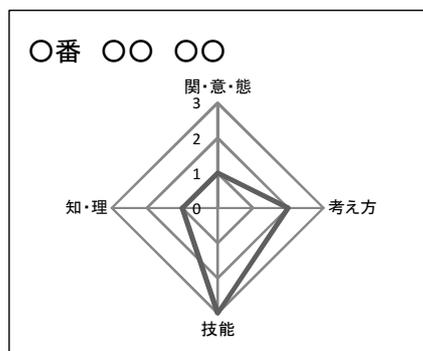


図2 個人分析の例

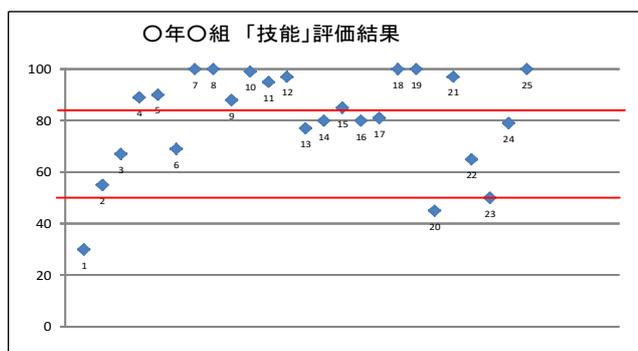


図3 集団分析の例

このような研修は全教師が参加しての実施も可能ですが、同学年に所属する教師など、児童の日常の学習状況を把握している少人数で実施する方が、効率的に進めることができます。評価結果に加えて日常の学習状況を情報交換することで、より具体的で適切な分析ができ、児童の実態に応じた適切な指導計画の作成から「P(学習指導案の作成)」につながります。

3

「診断的評価」を共通理解するための校内研修の実践例

1 実践例

ここでは、第5学年算数科「面積」の単元を扱い、校内研修を実施した例を紹介します。

(1) 診断テストの内容についての検討

学習到達度確認テストや全国学力・学習状況調査等を参考に、担当者が診断テスト（図4）の原案を作成し、2、3名の教師で内容を検討しました。その結果、診断テストでは、国が示した評価の4観点のうち「関心・意欲・態度」を除く3観点で捉えることにしました。最初に担当者が提示した診断テストの内容は「知識・理解」と「技能」のみでしたので、「数学的な考え方」を評価できる内容も組み込みました。「関心・意欲・態度」の観点の評価は、自由記述のアンケートにより行うことにしました。設問数については、採点やテスト時間等を考え、1観点につき2問程度に設定しました。

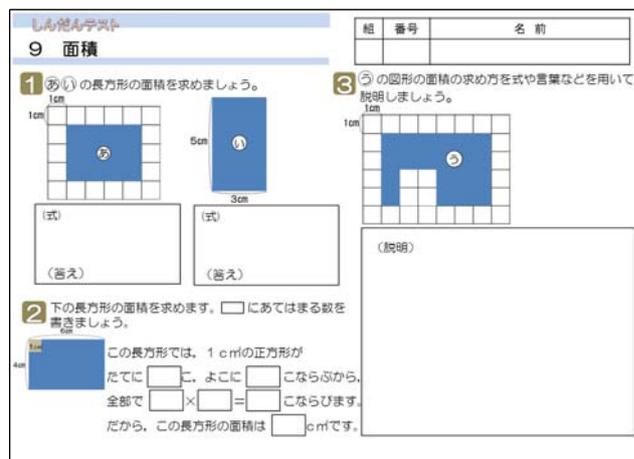


図4 診断テスト

(2) 診断テストの実施

(3) 診断テストの結果を分析する方法の検討

今回は「モデレーション」という手法を取り入れ、それをアレンジした分析方法を採りました。「モデレーション」とは、複数の教師が、同じ種類の評価資料（今回は予想される児童の診断テストの解答）を持ち寄って検討し、評価の検討を図る手法のことです。この手法は、イギリスやオーストラリア等の外国では盛んに行われています。

実際の研修の進め方は、次のようにしました（図5～11）。（参加者12名、4名ずつの3グループで実施。研修時間は1時間程度。）

① 研修の目的と流れを説明

適切な評価を行うためには、妥当性や信頼性を高める必要があること、そのためにモデレーションを行うことを説明しました。また、研修の流れを説明し（図5）、参加者が研修の見通しをもつことができるようにしました。



図5 研修の説明の様子

② 診断テストの予想解答例の作成

研修参加者が各自で診断テストの予想される解答例を作成しました（図6）。その際、正答だけでなく、誤答や、正答に近いが正答とするには不十分であるもの等、様々な児童の解答を予想しました。そして、1枚の付箋紙に一つの解答を記入しました。



図6 予想解答例の作成の様子

③ 予想解答例の分類

各グループで予想される解答例を出し合い、分類していきました。その際、学習指導要領や「評価規準の作成のための参考資料」（2010，国立教育政策研究所）（以下「参考資料」という。）を基にまずは「おおむね満足できる状況」（以下「B」という。）についての共通理解を図り，その後「十分満足できる状況」（以下「A」という。）と「努力を要する状況」（以下「C」という。）の判断をどのように決定するのかを協議しました（図7）。

ここでは，診断テストの「技能」の観点の問題に関する協議例を示します。

長方形の面積を求める問題に関して，予想される解答例をワークシートに貼り付けていきます。使用する付箋紙は，各自が考える「A」から「C」の基準ごとに色分けをしてあります。この段階ではこのワークシートを用いて意見交換を行い，分類を進め整理を行っていきました（図8）。その協議の中では参考資料を基に判断について共通理解が図られました。例えば，正しい数値を出すことができているが，長方形の面積を求める公式を用いて得られていない解答については「C」と判断することにしました（図9）。こうして各グループ内において，設問ごとに協議を繰り返し，判断の目安を決定していきました。

④ 観点別の数値化

診断テストの問題数は，原則として1観点につき2問と設定しました。「A」と判断されると3点とし，2問とも「A」の場合，最高得点の6点としました。得点率83%以上を「A」と総括するように考えると，6点満点中5点の得点で，観点別評価は「A」と判断し，得点率50%以下を「C」と総括するように考える（表1）と，3点以下を「C」と判断することにしました。このようにして，児童一人一人の診断テストの結果を3段階で評価することにしました。

⑤ 全グループの情報交換

各グループ内で，説明者1名と他のグループの説明に質疑する者3名に分かれました。説明者はグループに残り，他のグループから来た3名に自分たちのグループの評価結果を説明しました。説明後，質疑応答の時間をとり，互いに意見交換をしました。ここでは，各グループで協議した結果を交流させるとともに広く意見を求め，確認が必要と考える内容の検討を行いました。例えば，長方形の面積を求め



図7 予想解答例の分類の様子



図8 「技能」の観点の分類例



図9 協議後の分類例



図10 観点別の数値化の様子



図11 情報交換の様子

る公式は使用しているが、(縦)×(横)の考え方ではなく、(横)×(縦)で考えている解答について意見交換がなされました。こうした協議の中で、これまでの指導内容を再確認したり、次の単元で押さえるべき内容が明確にされたりしました。

協議を繰り返し、他のグループ全ての説明を聞いた後、もう一度自分のグループに戻り、意見交換したことを評価の判断の目安に反映させていきました。このことにより、自分のグループだけでなく、研修参加者全体の共通理解につながると考えました。個人では判断に迷いが生じることも、学習指導要領や参考資料を基にしながら複数で確認でき、授業改善にも非常に有効であり、必要なことであると強く認識できました。

上記①～⑤の手順で分析方法を検討し、その中で評価の検討を図るようにしました。実施後に、参加者から次のような感想が出されました。

- 学習指導要領や参考資料をよく理解して、評価規準を設定することは非常に大切だ。評価をするためには教材研究が重要であるとともに、教材研究の楽しさも改めて感じる事ができた。
- 自分の思い込みだけで評価をするのではなく、数名で話し合うことで、様々な考えを知ることができ、評価に自信がもてるようになった。
- 診断テストの内容を再検討できる機会にもなった。よりよい診断テストを作るためにも、この研修は役立った。

(4) 評価結果の分析

各担任が実際に児童に実施した診断テストを採点し、分析しました。個人の学習状況を数値化し、習熟度別指導のコース決定の資料としました。さらに、解答内容を詳しく分析し、具体的なつまづきや、それを支援する手だてについて協議しました。

《実践を終えて》

この校内研修を実践するに当たり、まず、「B量と測定」領域の指導の系統性を確認することが診断テスト作成のためには不可欠であると考え、全員で共通理解を図りました。次に、学習指導要領における従来からの変更点を診断テストに反映させました。そして、診断テストの児童の解答を予想し、評価の判断の目安を検討しました。その際、評価の4観点の中でも、特に「数学的な考え方」の判断の目安を検討する際に随分悩みましたが、学習指導要領や参考資料を基に、「おおむね満足できる状況」とであると判断するためには何が必要なのかを熟考しました。

この苦労により教材研究が深まり、教材観や指導観を深めることができました。そして、実際の指導の場でも、教師が判断の目安を十分に理解していたため、きめ細かい児童への支援や指導を意識することができ、授業改善につながりました。校内研修から捉えた児童の実態に即した具体的な手だてを準備することや、評価の判断の目安の共通理解を基にして指導計画の見直しを行うことは深みと厚みのある指導の実践につながったと考えます。

また、今回は効果的な方法として「診断的評価」を基にした校内研修を実施しましたが、継続的な授業改善にしていくためには、他のPDCAサイクルの場面についての校内研修に取り組むことが必要だと考えます。そのサイクルの中でより効率的で実践的な研修方法を学校の実態に即して高めていく必要があることも実感しました。

今回行った校内研修では、様々な年齢層から構成された少人数グループで実施したので、発言の機会を多くもつこともでき、活発に効率的に進めることができました。付箋紙を使ってあらかじめ自分の意見を書き出したことも、発言を活発にさせることができた要因であったと考えます。このような少人数で短時間の研修であれば、忙しい毎日の業務の中でも時間を工夫することにより実施できます。

2 校内研修の成果と課題

診断テストを活用する際に、その問題で何を評価するのかを明確化し共通理解することが大切です。このことは、複数の評価者が評価する場合に、評価の観点や判断の目安の捉え方に違いが出ることを避けることにつながると考えられます。今回の実践において評価の判断の目安を決定する際に、学習指導要領や参考資料を根拠に検討することがいかに大切であるかを改めて感じることができました。全てのよりどころは学習指導要領に他ならず、学習指導要領を熟知していなければ評価の判断にずれが生じる可能性があることも再認識できました。そして、この判断の目安を検討するときに、診断テストで児童の学習状況の実態をより明確に把握することに重点を置くことで、授業改善につながると考えられます。

研修後の感想から、研修参加者はモデレーションの考え方をを用いて評価の妥当性、信頼性を検証する校内研修の有用性を十分認識できたと考えます。本来、児童が解答した診断テストを持ち寄ってその分析方法や評価の判断の目安を検証することが望ましく、児童の実態に即した指導法や評価方法の検討がなされ授業改善につながりますが、今回は、参加者が予想される解答を書き出す手法を用いました。この研修方法であっても、今まで以上に各自の教材に対する理解が深まり、研修後の満足感も大きかったようです。

今後の課題として、児童が実際に解答した診断テストを持ち寄って評価の判断の目安を検討する校内研修の設定が必要であると考えます。

〈参考文献〉

- ・ 文部科学省（2009）『英語ノート1 指導資料』
- ・ 辰野千壽編集代表（2010）『月刊誌 指導と評価 2010年10月号』図書文化
- ・ 小島宏，岩谷俊行／編著（2010）『新しい学習評価のポイントと実践 第1巻 生きる力と新しい学習評価』ぎょうせい
- ・ 小島宏，岩谷俊行／編著（2010）『新しい学習評価のポイントと実践 第2巻 各教科等の新しい学習評価の展開』ぎょうせい
- ・ 小島宏，岩谷俊行／編著（2010）『新しい学習評価のポイントと実践 第3巻 学習評価を充実させる工夫改善』ぎょうせい
- ・ 国立教育政策研究所（2010）『評価規準の作成のための参考資料』
- ・ 文部科学省教育課程課・幼児教育課編集（2011）『月刊 初等教育資料 2011年1月号』東洋館出版社
- ・ 文部科学省教育課程課・幼児教育課編集（2011）『月刊 初等教育資料 2011年2月号』東洋館出版社
- ・ 国立教育政策研究所（2011）『評価方法等の工夫改善のための参考資料』
- ・ 辰野千壽編集代表（2011）『月刊誌 指導と評価 2011年4月号』図書文化
- ・ 辰野千壽編集代表（2011）『月刊誌 指導と評価 2011年5月号』図書文化
- ・ 国立教育政策研究所（2011）『総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料』
- ・ 田中耕治編著（2011）『パフォーマンス評価 思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』ぎょうせい
- ・ 辰野千壽編集代表（2011）『月刊誌 指導と評価 2011年8月号』図書文化
- ・ 辰野千壽編集代表（2011）『月刊誌 指導と評価 2011年9月号』図書文化
- ・ 文部科学省教育課程課・幼児教育課編集（2011）『月刊 初等教育資料 2011年10月号』東洋館出版社
- ・ 文部科学省教育課程課・幼児教育課編集（2011）『月刊 初等教育資料 2011年11月号』東洋館出版社

平成22・23年度岡山県総合教育センター所員研究
(共同研究；教科教育)

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた新しい学習評価の在り方に関する研究」

研究委員会

指導助言者

工藤 文三
研究協力委員

国立教育政策研究所初等中等教育研究部長

津田 明子 和気町立佐伯小学校指導教諭
野林 雅史 津山市立林田小学校教諭
坂手 英俊 津山市立弥生小学校教諭
近藤 保彦 津山市立院庄小学校教諭
松尾 英樹 津山市立佐良山小学校教諭
佐藤 良行 笠岡市立城見小学校教諭
松田 直子 笠岡市立大井小学校教諭
清水 健吾 笠岡市立大井小学校教諭
石部 圭一 井原市立大江小学校教諭
佐藤 公三 井原市立木之子小学校教諭
藤井 孝行 井原市立荏原小学校教諭
佐藤 英樹 井原市立美星小学校教諭
三宅 美弥 総社市立常盤小学校教諭
森 泰久 真庭市立中津井小学校教諭
林 咲子 真庭市立川上小学校教諭
太田 晶子 里庄町立里庄西小学校教諭
高岡 千春 矢掛町立美川小学校教諭
堤 真理 矢掛町立美川小学校教諭

授業実践事例提供者

東 真由美
研究委員

倉敷市立長尾小学校教諭

石田 隆

岡山県総合教育センター教科教育部長（平成22年度）
（現 岡山県教育庁指導課生徒指導推進室長）

平賀 和治
大月 一泰

岡山県総合教育センター教科教育部長（平成23年度）
岡山県総合教育センター教育経営部指導主事（平成22年度）
（現 岡山市立岡山後楽館中学校教頭）

土田 雅己

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（平成22年度）
（現 矢掛町立矢掛中学校教頭）

金井 庸記

岡山県総合教育センター教育経営部指導主事（平成22年度）
（現 岡山県立倉敷青陵高等学校教諭）

大辻 慎一郎
川西 隆

岡山県総合教育センター教育経営部指導主事（平成23年度）
岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

信宮 誠

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

前田 敦子

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

塩崎 弘之

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

正好 東洋

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

長谷川 陽子

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

植月 慎二

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

守分 久人

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

河本 尚

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

西林 哲郎

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

中川 雅之

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（平成23年度）

苅田 直樹

岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（平成23年度）

本学習評価授業実践事例集は、(財)福武教育文化振興財団の平成23年度教育研究助成を受けて作成したものです。

平成24年2月発行
子どもたちに「生きる力」を育む 学習評価 授業実践事例集
小学校編

編集兼発行所 岡山県総合教育センター
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL (0866)56-9101 FAX (0866)56-9121
URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>
E-MAIL kyoikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ 教科教育部 TEL (0866)56-9103
Copyright © 2012 Okayama Prefectural Education Center

*本文掲載イラストは、株式会社ジャストシステム、株式会社 図書出版 出町書房、開隆堂出版株式会社、
神奈川県立総合教育センターのものを使用しています。

